

# 津市立安濃小学校長寿命化改修工事

## 設計図

アルテック設計

津市大谷町233番地 TEL 059-225-1602

	意匠図						電気設備図
A - 1	図面リスト	A - 3 7	校舎中央棟 2階展開図1	A - 7 3	エレベーター詳細図7	E - 1	電気設備 特記仕様書(1)
A - 2	改修工事特記仕様書1	A - 3 8	校舎中央棟 2階展開図2	A - 7 4	仮設計画図	E - 2	電気設備 特記仕様書(2)
A - 3	改修工事特記仕様書2	A - 3 9	校舎中央棟 2階展開図3			E - 3	電気設備 特記仕様書(3)
A - 4	改修工事特記仕様書3	A - 4 0	校舎中央棟 2階展開図4			E - 4	配置図・照明器具姿図
A - 5	改修工事特記仕様書4	A - 4 1	校舎中央棟 3階展開図1			E - 5	受変電設備 単線結線図・盤結線図
A - 6	改修工事特記仕様書5	A - 4 2	校舎中央棟 3階展開図2			E - 6	1階 便所平面図
A - 7	改修工事特記仕様書6	A - 4 3	便所棟(改修前) 1階展開図1			E - 7	2階 便所平面図
A - 8	改修工事特記仕様書7	A - 4 4	便所棟(改修前) 1階展開図2			E - 8	電気設備 1階平面図
A - 9	付近見取図・配置図兼仮設計画図	A - 4 5	便所棟(改修前) 1階展開図3			E - 9	電気設備 2階平面図
A - 10	外部仕上表	A - 4 6	便所棟(改修後) 1階展開図1			E - 10	電気設備 3階平面図
A - 11	内部仕上表(改修前)	A - 4 7	便所棟(改修後) 1階展開図2			E - 11	電気設備 屋上平面図
A - 12	内部仕上表(改修後)	A - 4 8	便所棟(改修後) 1階展開図3			E - 12	外壁廻り 配管改修図
A - 13	平面図1(改修前)	A - 4 9	便所棟(改修前) 2階展開図1				
A - 14	平面図1(改修後)	A - 5 0	便所棟(改修前) 2階展開図2				
A - 15	平面図2(改修前)	A - 5 1	便所棟(改修後) 2階展開図1				
A - 16	平面図2(改修後)	A - 5 2	便所棟(改修後) 2階展開図2				
A - 17	立面図(改修前)	A - 5 3	便所棟(改修後) 2階展開図3				
A - 18	立面図(改修後)	A - 5 4	天井伏図(改修前)		構造図		機械設備図
A - 19	断面図(改修前)	A - 5 5	天井伏図(改修後)	S - 1	構造設計標準仕様書	M - 1	機械設備特記仕様書(1)
A - 20	断面図(改修後)	A - 5 6	建具指示図(改修前)	S - 2	鉄筋コンクリート構造配筋標準図	M - 2	機械設備特記仕様書(2)
A - 21	校舎中央棟矩計図	A - 5 7	建具指示図・家具指示図(改修後)	S - 3	鉄骨構造標準図(1)	M - 3	凡例、衛生器具表1
A - 22	便所棟矩計図1(改修前)	A - 5 8	建具表1	S - 4	鉄骨構造標準図(2)	M - 4	給排水衛生設備 系統図(改修前、改修後)
A - 23	便所棟矩計図1(改修後)	A - 5 9	建具表2	S - 5	伏図	M - 5	給排水衛生設備 1階便所平面詳細図(改修後)
A - 24	便所棟矩計図2(改修前)	A - 6 0	建具表3	S - 6	軸組図・鉄骨接手詳細図	M - 6	給排水衛生設備 2階便所平面詳細図(改修後)
A - 25	便所棟矩計図2(改修後)	A - 6 1	建具表4	S - 7	部材リスト	M - 7	衛生設備 化粧鏡配置 1、2階便所平面図(改修前、改修後)
A - 26	1階平面詳細図1	A - 6 2	建具表5			M - 8	給排水衛生設備 屋上平面詳細図(改修後)
A - 27	1階平面詳細図2(改修前)	A - 6 3	建具表6			M - 9	給排水衛生設備 1階便所平面詳細図(改修前)
A - 28	1階平面詳細図2(改修後)	A - 6 4	家具詳細図			M - 10	給排水衛生設備 2階便所平面詳細図(改修前)
A - 29	2階平面詳細図1	A - 6 5	雑詳細図1			M - 11	給排水衛生設備 屋上平面詳細図(改修前)
A - 30	2階平面詳細図2	A - 6 6	雑詳細図2			M - 12	空調換気設備 凡例、機器表
A - 31	2階平面詳細図3(改修前)	A - 6 7	エレベーター詳細図1			M - 13	空調設備 1、2階平面図
A - 32	2階平面詳細図3(改修後)	A - 6 8	エレベーター詳細図2			M - 14	空調設備 3階平面図
A - 33	3階平面詳細図	A - 6 9	エレベーター詳細図3			M - 15	換気設備 1、2階便所平面図(改修前、改修後)
A - 34	校舎中央棟 1階展開図1	A - 7 0	エレベーター詳細図4				
A - 35	校舎中央棟 1階展開図2	A - 7 1	エレベーター詳細図5				
A - 36	校舎中央棟 1階展開図3	A - 7 2	エレベーター詳細図6				

工事特記仕様書(改修)	
I. 工事名称 津市立安濃小学校長寿命化改修工事	
II. 工事概要 1. 工事場所 津市 安濃町内多 地内 2. 敷地面積 14.042m <sup>2</sup> 3. 工事内容 株名 校舎中央棟、便所棟 構造 鉄筋コンクリート造 建築面積 延べ面積 1.222m <sup>2</sup> 、254m <sup>2</sup> III. 建築改修工事仕様 1. 共通仕様 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)平成31年版(以下「改修標準仕様書」という。)」による。 2. 特記仕様 (1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 (2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。 (3) 項目欄に記載の( ) 内表示番号は改修仕様の該当項目等を示す。	

章	項目	特記事項	
一般共通事項	① 適用基準等	1) 公共建築工事標準仕様書(建築工事編) 国土交通大臣官房官庁営繕部監修(平成31年版) 2) 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編) 国土交通大臣官房官庁営繕部監修(平成31年版) 3) 建築工事標準詳細図 国土交通大臣官房官庁営繕部監修(平成28年版) 施工方法及び検査に関する事項 ※ 工事契約後、速やかに調査及び施工計画書等を作成し、現場着手までに市監督員の承諾を得ること。 ※ 工事中の安全計画・消防計画等は、市監督員と十分協議し災害防止に努めること。 ※ 本工事における諸官庁への届出、手続き及び書類等は、速やかに提出し工事の遂行に影響の無いよう努めること。 ※ 特定作業に伴って発生する騒音は、低振動・低騒音に努め騒音規制法に基づき関係機関への届出・打合せの上、作業に着手する事とし、周辺住民からの苦情があった時は、工事を一時中断し、誠意をもって地元調整を行い、工事の再開は市監督員の承認を得てから行うこと。 ※ 工事期間中、近隣関係者等へ危害を与えないよう注意し、かつ周道路等に資材を落とさせたり、ほこり等を飛散させないよう万全の注意を払うこと。 ※ 場外退出時、車両足廻りの洗浄等を行い、汚損等しないようすること。 ※ 工事車両の出入りについては、安全確保に十分配慮すること。 ※ 大型車両通行時には誘導員を配置し、通行人及び敷地周辺の安全に十分配慮すること。 ※ 工事車両及び事務車両は、周囲道路に駐車しないこと。 ※ 工事着手前には、現況把握のために、破損箇所等があれば、市監督員立合いのもと写真に記録しておくこと。 ※ 工事期間中、工事に起因し、既存施設に破損等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに原状復旧とともに市監督員に報告書を提出すること。 ※ 設計図面に明記なくとも機能上と認められるもの並びに、取り合いのはつり補修復旧は本工事に含む。なお内訳書の記載は参考とし、当面優先する。 ※ 高所等の施工箇所で完成検査時に確認が困難な工事については、足場解体前に市検査課による随時検査(書類を含む)を受けること。また、当該検査の合格もって足場解体を行うこと。 ※ 撤去工事等の騒音及び振動が生じる作業は、夏休み中等の授業休校日に行うこと。 ※ 外部足場の設置及び解体は、夏休み中等の学校休校日に行うこと。 ※ 1階改修範囲外の部屋は常時利用(夏休み含む)する為、コーナーパー等で区画するなど、使用を妨げないよう学校施設と協議し計画すること。 ※ 校舎中央棟1階にあたる渡り廊下前、職員室前及び保健室前については、当該諸室へ校舎南棟、校舎北棟及び運動場から出入りができるよう、外部足場及び外部仮設を計画すること。 ※ 運動場について、夏休み中等の学校休校日であってもスポーツ少年団等の団体が利用する場合があるため注意すること。 ※ 事業関係車両の工事ヤードへの乗り入れは、原則、体育館南側の裏門②からの入場とし、資材搬入等の場合は、学校及び市監督員と協議のうえ、校舎東側の裏門①からの入場とする。但し、入場退場時間は、児童の登下校時間及び休み時間以外とする。 ※ 作業後の校舎等の施設については学校側と十分協議を行うこと。 ※ 外壁改修工事について、原則、休日等の授業が行われていない時行うものとする。但し、学校及び市監督員と協議を行い、授業に支障が生じない場合はこの限りではない。 ※ 屋外仮囲い、撤去工事等の現場への本格着手は7月21日からとする。 ※ 夏休み期間終了までに仮設計画図のおりと、児童・職員が安全に使用できるよう内部仮設の変更を行うこと。 ※ 外部鉄鋼面塗装等において、下地調整ケレン時に、集じん機付きディスクグラインダーの使用又は湿潤化飛散養生など、粉塵の飛散防止に努めること。 ※ 下記に示す諸種の改修工事について、2学期以降の学校運営に支障がないよう、市検査課の中間検査を受け引き渡すこと。なお、下記に中間検査対象箇所及び引渡時期を記す。 (8月に引渡) ・内部改修部(教室、パソコン室、1階・2階廊下、2階男子便所、2階女子便所、2階多機能便所、2階廊下手洗い、玄関ホール、フリースペース、オーブンスペース) (10月中に引渡) ・内部改修部(1階男子便所・1階女子便所、1階多機能便所、職員男子便所、職員女子便所、1階廊下手洗い) ※ 各諸室(1クラス30名程度)について、交付付け家具のほか、机等の備品があるため、作業に際し移設及び養生を適宜行うこと。なお、下記に各諸室の主要な備品を記明する。 ・机、椅子及び教卓、テレビ及びテレビ台 ・非常物資保管室:机、椅子、非常物資 ・廊下:棚、掃除用具入れ、木製上履き入れ ・パソコン室:机、椅子、教卓、パソコン及び卓上プリンター 本工事は、その結果に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(平成24年5月31日法律第104号。以下「建設リサイクル法」という。)施行令で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事であるため、建設リサイクル法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。 工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難い場合は、監督員と協議するものとする。 分別解体等の方法	工程 作業の有無 分別解体等の方法 造成等 有( )無 手作業 手作業、機械作業の併用 基礎・基礎ぐい 有( )無 手作業 手作業、機械作業の併用 上部構造部分・外装 有( )無 手作業 手作業、機械作業の併用 屋根 有( )無 手作業 手作業、機械作業の併用 建築設備・内装等 有( )無 手作業 手作業、機械作業の併用 その他 ( 土間コンクリート ) 有( )無 手作業 手作業、機械作業の併用

④ 建設副産物情報交換システムの利用	⑤ 三重県産業廃棄物税	⑥ 電気保安技術者	⑧ 施工数量調査	⑨ 調査のための破壊部分の補修	⑩ 建築材料等	⑪ 化学物質の濃度測定	⑫ 特別な材料の工法	⑬ 騒音・振動の防止	⑭ 工事写真	⑮ 完成図等	⑯ 完成写真	⑰ 設備工事との取扱い	⑱ 既存部分等への処置	⑲ 事故の発生時
受注者は再生資源の利用又は建設副産物の搬出がある場合は、工事着手前及び、工事完了後に「再生資源利用計画書(実施書)」、「再生資源利用促進計画書(実施書)」を監督員に提出することとし、工事着手前にはJACICが運営する「建設副産物情報交換システム」へデータを入力し、工事完了時にはシステムへ実績報告を行うこと。	本工事には産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には完成年度の翌年度の4月1日から8月31日までの間に別に定める様式に産業廃棄物税納付証明書を添付して当該工事の発注者に対して支払請求を行うことができる。 なお、この期間を超えて請求することはできない。また、産業廃棄物処理集計表(マニフェストの数量の集計)を超えて請求することはできない。 ・配置する 職種別に可能なものについては、積極的に活用のこと。	配置する	調査範囲及び調査方法 ④ 工種別に特記による	補修方法 図示(面番号: ) ( ) ( )	1) 本工事に使用する木材は、津市公共建築物等木材利用方針に基づき、木材の利用に努めること。 2) 本工事に使用する建築材料のホルムアルデヒド放散量等は、F☆☆☆☆以上とする。	測定対象化学物質( )で示したものとする。 適用 施設用途 ホルムアルデヒド トルエン キシレン エチルベンゼン スチレン ハジクロベンゼン ○ 学校 教育施設 ● ● ● ● ● ● ○ 住宅 ● ● ● ● ● ● ○ その他 ● ● ● ● ● ●	改修標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。	低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程に基づき指定された建設機械の使用に努めること。	営繕工事写真撮影要領(国土交通省大臣官房官庁営繕部(平成31年版))に従い撮影する。 提出部数1部 用紙は上質紙とする。 なお、デジタル工事写真の小黒板情報電子化を行う場合は、「デジタル工事写真の小黒板情報電子化について(平成29年3月1日付け国営第21号)」による。	作成する ④ 完成図 保全に関する資料 ( ) ( ) 完成図作図範囲(設計図を訂正) 完成図はCADにより作成することとし、著作権(著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む)にかかる使用権は発注者に移譲するものとする。また、製本2部(原図サイズ)により提出すること。	作成する ④ 完成図 保全に関する資料 ( ) ( ) 完成図作図範囲(設計図を訂正) 完成図はCADにより作成することとし、著作権(著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む)にかかる使用権は発注者に移譲するものとする。また、製本2部(原図サイズ)により提出すること。	施工範囲 ① 図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔・開口部の補強 ② 図示した壁・天井の仕上材・下地材の切込み及び補強 ・自動封鎖装置取付け箇所の切込み及び補強 ・駆動装置が電動による建具等の2次側の配管・配線及び操作スイッチ	施工図 ① 設備機器の位置、取扱い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承認を受けること。 工事施工に際し、既存部分を汚損した場合は、監督機員に報告するとともに承諾を受けて原状に準じて修する。	工事の施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員に通報するとともに、所定の様式により工事事故発生報告書を監督員が指示する日までに、監督員に提出すること。 また、事故発生後の措置について監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取、調査、検証等に協力すること。

① 消火器に係る消防用設備等設置届出書の作成	② 建築工事( ) 建築工事 電気設備工事 機械設備工事 別途工事
② 防火対象物使用開始届出書	書類の作成(電気設備面図の作成及び電気設備に関する部分の記入)を行うこと。
② 労働安全衛生法に基づく労働災害防止措置	労働安全衛生法第30条第1項に規定する措置を講ずる必要がある場合、その措置を講ずべき者として、同法第30条第2項の規定に基づき、本工事の請負者を指名する。この場合における指名への同意は、本工事の請負契約を締結することにより得られたものとみなす。
② 不正軽油の使用の禁止	1) 一般事項 市工事の施工にあたり、工事現場で使用し、又は使用せる車両(資機材等の搬出入車両を含む。)並びに建設機械等の燃料として、不正軽油(地方税法第144条の32(製造等の承認を受ける義務等)の規定に違反する燃料をいう。)を使用してはならない。 2) 調査の協力 受注者は、市が使用燃料の採油調査を行う場合には、その調査に協力しなければならない。また、受注者は下請負者等に同調査に協力するよう管理及び監督しなければならない。 3) 是正措置 受注者は、不正軽油の使用が判明した場合は、速やかに是正措置を講じるよう管理及び監督しなければならない。
2.3 屋外広告物	屋外広告物を設置する場合は、「三重県屋外広告物条例」第23条に規定する屋外広告業の登録事業者であること。
2.1 聴音・粉じん等の対策	・ 防音パネル 設置範囲 図示(面番号: ) ・ 防音シート 設置範囲 図示(面番号: )
2.2 足場	設置する足場について、「手すり先行工法等に関するガイドライン(厚生労働省平成21年4月)」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立てに関する基準」の2の(2)手すり据置き型式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。 内部足場の種別(参考) ④ 脚立 構脚足場 ⑤ その他(階段足場、シャット内足場) 外部足場の種別(参考) ⑥ 手摺先行据置枠組本足場 移動足場 高所作業車 ⑦ その他( ) 外部足場設置範囲(参考) ⑧ 外部改修部 設備改修部 昇降用 転落防止用 防護シート等による養生 ⑨ 適用する 適用しない
2.3 屋外足場	足場(つり足場、張出し足場又は高さが10m以上の足場で、組立から解体までの期間が60日以上のものに限る)の組立て後、市監督員立ち合いの下、当該足場の組立てを担当した者以外の足場に關する十分な知識と経験を有する者により点検を行うこと。 なお、「十分な知識と経験を有する者」とは、以下の者とする。 1) 足場の組立て等作業主任者であつて、労働安全衛生法第19条の2に基づく足場の組立て等作業主任者能力向上教育を受けた者 2) 労働安全衛生法第81条に規定する労働安全コンサルタント(区分が土木又は建築である者)や厚生労働大臣の登録を受けた者が行う研修を修了した者等法第88条に基づく足場の設置等の届出に係る「計画作成監修者」に必要な資格を有する者 3) 全国仮設安全事業協同組合が行う「仮設安全監理者資格取得講習」、建設業労災防止協会が行う「施工管理者等のための足場点検実務研修」を受けた者等足場の点検に必要な専門的知識の習得のために行う教育、研修又は講習を修了するなど、足場の安全点検について、上記1)又は2)に掲げる者と同等の知識・経験を有する者
3.1 既存部分の養生	既存部分の養生 図示(面番号: ) 既存ブランド・カーテンの養生 養生方法( ) 保管場所 構内既存施設内 固定された備品、机、ロッカーカーの移動 ○ 行う 行わない
3.2 仮設間仕切り	屋内の仮設間仕切り A種 B種 C種 合板厚さ 9mm ( ) せっこうボード厚さ 9.5mm ( ) 合板は石せっこうボードの塗装 行う ( ) 行わない 仮設扉 設置箇所 図示(面番号: ) 仕様 合板張り木製扉 ( ) ( ) ( )
3.3 監督員事務所	・ 構内建物内の一部を使用する。 ・ 設置する 設置しない 監督員事務所の規模(単位:m) 適用 10程度 20程度 35程度 65程度 100程度 規模
3.4 監督員事務所の仕上げ	部位等 仕上げ 床 合板張り又はビニール床シート張り 内壁・天井 合板張り又はせっこうボード張り、合成樹脂エマルション塗り 屋根 装溶化亜鉛めっき鋼板張り、又は鉄板張り、調合ペイント塗り
3.5 監督員事務所の設備・備品	種類 机・いす 書棚 黒板・白板 掛時計 溫度計 数量 組 台 個 個 個 種類 長靴 雨合羽 保護帽 懐中電灯 衣類ロッカー 数量 足 着 個 個 台 種類 消火器 掃除具 受注者加入電話 冷暖房機器 インターネット 数量 個 個 台 台 台
3.6 既存の施設	構内既存の施設 ・ 利用できる 利用できない
3.7 既存の施設	構内既存の施設 ・ 利用できる (・ 有償 ( ) 無償) 利用できない
3.8 既存の施設	構内既存の施設 ・ 利用できる (・ 有償 ( ) 無償) 利用できない 有償利用の場合において、本工事で新規受電又は既設電気回路に接続し通電した時から工事に起因する電力料金は、本工事に含まれる。
3.9 交通誘導警備員	配置 図示(面番号: A-9 )

3 防 水 改 修 工 事	<p>1 アスファルト防水 (3.3.3) (表3.3.3)～(表3.3.10)</p> <table border="1"> <tr><th>工法</th><th>種別</th><th>施工箇所</th></tr> <tr><td>・ P1B</td><td>・ B-1 ・ B-2 ・ B-3</td><td></td></tr> <tr><td>・ P1E</td><td>・ E-1 ・ E-2</td><td></td></tr> <tr><td>・ P2E</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>改質アスファルトルーフィングシート 種類・改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による・( ) 厚さ・改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による・( )</p> <p>部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート 種類・改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による・( ) 厚さ・改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による・( )</p> <p>(3.3.2) 断熱工法の断熱材 (P1B, P2A, T1B1, P0D1, M3D1, M4D1) 材質・( ) ・押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種b A(スキンあり) ・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号 ・硬質ウレタンフォーム断熱材2種2号 厚さ・( ) ルーフドレン回り及び立上がり部周辺断熱材の張りじまい位置・図示(図面番号: )</p> <p>(3.3.3)(4) (3.3.3)(3) 脱気装置 (M3D, P0D, P0D1, M3D1, M4D1) ・設ける(設置数量・図示(図面番号: )、材質( )) ・設けない</p> <p>(3.3.5) (表8.1.5) 保護コンクリートの厚さ こて仕上げ・水下80mm以上・( ) 床タイル張り・水下60mm以上・( ) こて仕上げの場合のコンクリートの平たんさ・a種・b種・c種 保護層・設ける・設けない 屋上排水溝の適用・適用する 立上り保護・乾式保護材( ) ・れんが(材種・JIS R1250)</p> <p>2 改質アスファルトシート防水 (3.4.2) 改質アスファルトシート 種類・改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による・( ) 厚さ・改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による・( )</p> <p>粘着層付改質アスファルトシート及び部分粘着層付改質アスファルトシート 種類・改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による・( ) 厚さ・改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による・( )</p> <p>断熱工法の断熱材 (M3A1, M4A1, P0A1) 材質、厚さ( ) ・図示( )</p> <p>(3.4.3) (表3.4.1)～(表3.4.3) 工法 種別 施工箇所 仕上塗料 ・ M4AS ・ AS-T1 ・ AS-T2 ・ AS-J2</p> <p>脱気装置 ・設ける(設置数量・図示(図面番号: )、材質( )) ・設けない</p> <p>(3.5.2) (3) 合成高分子系 ルーフィングシート防水 (3.5.2) ルーフィングシート 種類・改修標準仕様書(表3.5.1)～(表3.5.3)による・( ) 厚さ・改修標準仕様書(表3.5.1)～(表3.5.3)による・( )</p> <p>絶縁用シート・発泡ポリエチレンシート 固定金具の材質及び寸法形状・図示( ) 断熱工法の断熱材 (P0S1, S4S1, S3S1, M4S1) 材質、厚さ( ) ・図示( )</p> <p>(3.5.3) (表3.5.1)～(表3.5.3) 工法 種別 種別 仕上塗料 ・ S4S ・ S-M1 (S1-M1) ・ S4S1 ・ S-M2 (S1-M2)</p> <p>(3.5.3) 脱気装置 ・設ける(設置数量・図示(図面番号: A-16)、材質(ステンレス)) ・設けない</p> <p>(3.5.4) 既存防水層下地がPCコンクリート部材の場合 目地処理・図示(図面番号: ) 増張り・図示(図面番号: ) 機械式固定方法 風圧力に対応した工法・図示(図面番号: ) 保護層の施工・図示(図面番号: ) 防水工事の保証年限 ・保証年限10年・その他( )</p> <p>(4) 塗膜防水 (3.6.3) (3.6.1) (3.6.3)(1) 工法 種別 施工箇所 仕上塗料 ・ POX ・ X-1 ( ) X-2 ・ L4X</p> <p>(3.6.3)(2) 脱気装置 ・設ける(設置数量・図示(図面番号: )、材質( )) ・設けない</p> <p>工法 種別 施工箇所 ・ P1Y ・ P2Y ・ Y-2</p> <p>保護層・図示(図面番号: ) 防水工事の保証年限 ・保証年限10年・その他( ) (M4AS, M4A1, M4C, M4D1)・行う・行わない (L4X)・行う・行わない</p> <p>5 既存防水層表面の仕上塗装の除去 (3.2.6)(4) (3.2.6)(3)(b)</p>	工法	種別	施工箇所	・ P1B	・ B-1 ・ B-2 ・ B-3		・ P1E	・ E-1 ・ E-2		・ P2E			<p>⑥ シーリング (3.7.2) (表3.7.1) 材料 種類 材種 施工箇所 ・ SR-1 シリコーン系 がれきめ ・ MS-2 変成シリコーン系 建具廻り(内外) ・ PS-2 ポリサルファイド系 面台、水廻り ・ PU-2 ポリウレタン系 打継目地</p> <p>(3.7.4～7) 工法 ・ シーリング充填工法 ・ シーリング再充填工法 ・ 扯シーリング再充填工法 ・ ブリッジ工法</p> <p>7 とい (3.8.2) (表3.8.1) (表3.8.2) シーリング材の試験 ・ 簡易接着性試験・引張接着性試験 ( ) 行わない 材種・硬質ポリ塩化ビニル管(カラー)・配管用钢管(白管) ・ ( ) とい受金物及び足金物 といの材種 形状 取付け間隔</p> <p>8 アルミニウム製笠木 (3.9.2)(3) (表3.9.1) (3.9.3)(2) 工法・図示(図面番号: ) 部材の種類 ・ 押出し250形 ・ 押出し300形 ・ 押出し350形 ・ 板材折曲げ形(本体幅( )mm、板厚・2.0mm・( )) 固定金具の間隔( mm) 固定方法・( ) 表面処理・( ) 工法 既存笠木等の撤去・図示(図面番号: ) 下地補修の工法・図示(図面番号: ) 板材折曲げ形の笠木の取付方法・図示(図面番号: ) 笠木固定金具の工法・図示(図面番号: ) 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応したか固定金具の間隔固定方法等は施工計画書として提出する。</p>	<p>③ 改修工法等 (4.2.2)(1) (4.3.4) (4.4.5) (4.5.5) 樹脂注入工法 種類・自動式低圧エボキシ樹脂注入工法 注入量( 25ml )注入間隔( 200、250mm ) ・手動式エボキシ樹脂注入工法 注入量( )注入間隔( ) ・機械式エボキシ樹脂注入工法 注入量( )注入間隔( ) 材料・エボキシ樹脂JIS A6024(建築補修用注入エボキシ樹脂) ・低粘度形・中粘度形 コア抜取検査・行う・行わない ・抜取り個数( ) ・抜取り部分補修方法( )</p> <p>④ カットシール材充填工法 材料・シーリング用材充填 ・ ( ) PU-1 ・ PU-2 ・ ( ) ・可とう性エボキシ樹脂充填 シーリング材の上にポリマーセメントモルタル充填 ・ 行う・行わない</p> <p>⑤ シール工法 材料・バテ状エボキシ樹脂 ・可とう性エボキシ樹脂</p> <p>⑥ 充填工法 材料・エボキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル</p> <p>⑦ モルタル塗替え工法 材料・現場調合材料・既調合材料 ・既製目地材の適用及び形状( ) ・仕上げ厚( )</p> <p>⑧ アンカービニング部分エボキシ樹脂注入工法 アンカービニの本数( )標準・( ) 材料・ステンレス鋼(SUS304)・( )</p> <p>⑨ アンカービニング全面エボキシ樹脂注入工法 アンカービニの本数及び注入口の数・標準・( ) 材料・ステンレス鋼(SUS304)・( )</p> <p>⑩ アンカービニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 アンカービニの本数及び注入口の数・標準・( ) 材料・ステンレス鋼(SUS304)・( )</p> <p>⑪ 注入口付アンカービニング部分エボキシ樹脂注入工法 注入口付アンカービニの本数・標準・( ) 材料・ステンレス鋼(SUS304)・( ) 呼び径・6mm・( )</p> <p>⑫ 注入口付アンカービニング全面エボキシ樹脂注入工法 注入口付アンカービニの本数及び注入口の数・標準・( ) 材料・ステンレス鋼(SUS304)・( ) 呼び径・6mm・( )</p> <p>⑬ 注入口付アンカービニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 注入口付アンカービニの本数及び注入口の配置・標準・( ) 材料・ポリマーセメントスラリー( ) ・注入口付アンカービニ( )・ステンレス鋼(SUS304)・( ) 呼び径・6mm・( )</p> <p>⑭ タイル部分張替え工法 張替え材料・ポリマーセメントモルタル ・接着剤(一液反応硬化型変成シリコーン樹脂)・( )</p>
工法	種別	施工箇所													
・ P1B	・ B-1 ・ B-2 ・ B-3														
・ P1E	・ E-1 ・ E-2														
・ P2E															
3 防 水 改 修 工 事	<p>1 アスファルト防水 (3.3.3) (表3.3.3)～(表3.3.10)</p> <table border="1"> <tr><th>工法</th><th>種別</th><th>施工箇所</th></tr> <tr><td>・ P1B</td><td>・ B-1 ・ B-2 ・ B-3</td><td></td></tr> <tr><td>・ P1E</td><td>・ E-1 ・ E-2</td><td></td></tr> <tr><td>・ P2E</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>改質アスファルトルーフィングシート 種類・改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による・( ) 厚さ・改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による・( )</p> <p>部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート 種類・改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による・( ) 厚さ・改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による・( )</p> <p>(3</p>	工法	種別	施工箇所	・ P1B	・ B-1 ・ B-2 ・ B-3		・ P1E	・ E-1 ・ E-2		・ P2E				
工法	種別	施工箇所													
・ P1B	・ B-1 ・ B-2 ・ B-3														
・ P1E	・ E-1 ・ E-2														
・ P2E															



<p>(6.5.2) (3) (4)</p> <p>「集成材の日本農林規格」以外の製材 樹種、寸法、見付け材面の品質 ・ 図示 (図面番号: ) 含水率 ・ 15%以下 ・ ( )</p> <p>造作用単板積層材 「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材 部位 ・ 品名・寸法 表面の品質 防虫処理 造作用単板積層材 (図面番号: ) ・ ( ) ・ ( )</p> <p>「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材 寸法、表面の品質、防虫処理 ・ 図示 (図面番号: ) 含水率 ・ 14%以下 ・ ( )</p> <p>「直交集成板の日本農林規格」による直交集成板 品名、曲げ強度、種別、接着性能、樹種及び寸法 ・ 図示 (図面番号: )</p> <p>・ 合板等 品名 (品目) 樹種名 接着の程度 等級 板面の品質 防虫処理等 厚さ</p>	<p>(6.8.3) (2) (9)</p> <p>ビニル床シート張り 熱溶接工法 <input checked="" type="radio"/> 適用する <input type="radio"/> 適用しない</p> <p>・ 織じゅうたん 種別 糸の種類 バイルの形状 帯電性 品質の程度 色柄 ・ A種 ぞ毛 カットバイル 人体帶電圧 3KV以下 ・ B種 紡糸 ループバイル ・ C種 ( ) カット、ループ併用 ・ ( ) ・ 無地 ・ 病地</p> <p>品質の程度欄に記載した商品名は、品質の程度を示すための参考商品名である。(以下同様)</p> <p>(6.9.2) (2) (表6.9.2)</p> <p>・ タフティッドカーペット バイルの形状 バイル長 (mm) 帯電性 工法 品質の程度 ・ カットバイル 人体帶電圧 3KV以下 ・ ループバイル ・ カット、ループ併用 ・ ( ) ・ グリッパー工法</p> <p>(6.9.2) (3)</p> <p>・ ニードルパンチカーペット 厚さ (mm) 帯電性 備考 ・ 人体帶電圧 3KV以下 ・ ( )</p> <p>(6.9.2) (4) (表6.9.2)</p> <p>・ タイルカーペット 種類 バイルの形状 寸法 (mm) 総厚さ (mm) 品質の程度 ・ カットバイル 500×500 ・ ループバイル ・ ( ) ・ 6.5 ・ ( )</p> <p>(6.9.2) (5) (6.9.2) (6)</p> <p>下敷き材 ・ 第2種第2号、厚さ8mm 見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、種類及び形状) ・ 図示 (図面番号: )</p> <p>織じゅうたんの接合方法 ・ ヒートボンド工法 ・ ( )</p> <p>(6.9.3) (3)</p> <p>タイルカーペットの敷き方 平場 ・ 市松敷き 模様流し 階段部分 ・ 市松敷き 模様流し ・ ( )</p> <p>(6.9.3) (5)</p> <p>弹性ウレタン樹脂系塗床の仕上げ種類、工程 ・ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ・ つや消し仕上げ</p> <p>エボキシ樹脂系塗床の仕上げ種類 ・ 薄膜流しの仕上げ (平滑 防滑) ・ 厚膜流しの仕上げ (平滑 防滑) ・ 樹脂モルタル仕上げ (平滑 防滑) ・ 薄膜型塗床仕上げ (平滑)</p> <p>9 合成樹脂床 (6.10.3) (2) (a) (表6.10.4) (6.10.3) (2) (b) (6.10.3) (3) (表6.10.5) ~ (表6.10.8)</p> <p>10 フローリング 張り (6.11.4) (表6.11.2)</p> <p>既存埋込みインサート ・ 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない (※使用する場合は、確認試験を行う) 既存埋込みインサート、あと施工アンカーの確認試験 ・ 行う ( ) ・ 図示 (図面番号: ) ・ ( ) ・ 確認試験の箇所数 (箇所) ・ 確認強度 ( )</p> <p>耐震性、耐風圧性を考慮した補強 ・ 図示 (図面番号: )</p> <p>スタッド、ランナー等の種類 ・ 図示 (図面番号: A-26~33)</p> <p>材料 ・ ビニル床シート【JIS A 5705 (ビニル系床材)】 種類の記号 色柄 厚さ 備考 F S マーブル 2.5mm</p> <p>・ ビニル床タイル【JIS A 5705 (ビニル系床材)】 種類の記号 色柄 寸法 厚さ 備考 K T 2.0mm</p> <p>・ 带電防止床シート又は床タイル 種類 性能 寸法 厚さ 備考</p> <p>・ 視覚障害者用床タイル 種類 形状 備考 ビニル床タイル 300×300×7.0mm</p> <p>・ 耐動荷重性床シート 種類 厚さ 備考</p> <p>・ 防滑性床シート又は床タイル 種類 寸法 厚さ 備考 F S マーブル 2.5mm</p> <p>・ ゴム床タイル 種類 色柄 寸法 厚さ 備考</p> <p>工法 下地 <input checked="" type="radio"/> モルタル塗り ・ セルフレベリング材塗り ・ 木下地 <input checked="" type="radio"/> その他 (カチオン系調整材塗り)</p>	
	(14) モルタル塗り (6.15.3) (6.15.5) (6.15.6)	
	モルタル <input checked="" type="radio"/> 現場調合材料 既製モルタル ・ 使用する (形状: ) 床の目地 ・ 図示 (図面番号: ) 下地処理 ・ 壁面の仕上げ厚又は全塗り厚が25mm超 ・ 図示 (図面番号: )	
	(15) タイル張り (6.16.2) (6.16.3)	
	タイル張り 既製モルタル ・ 使用できる 伸縮調整目地 位置 ・ 図示 (図面番号: )	
	タイルの種類 施工箇所 工法 種類 形状寸法 耐滑り性 うわぐすり 役物 標準・特注色の別 耐凍害性の有無 便所 湿式 磁器質 300角 一 無釉 一 標準 一	
	(6.16.3) (2)	
	試験張り ・ 行う <input checked="" type="radio"/> 行わない 見本焼き ・ 行う <input checked="" type="radio"/> 行わない 既調合モルタル ・ 使用できる ・ 使用できない	
	16 セルフレベリング材塗り (6.17.2) (6.17.3)	
	セッコウ系 塗厚 ( ) mm	
	17 断熱材 (9.5.2)	
	断熱材打込み工法 種類 種別 厚さ (mm) 施工箇所 ・ ビーズ法ポリスチレンフォーム ・ 押出法ポリスチレンフォーム ・ A種複質ウレタンフォーム ・ フェノールフォーム	
	(9.5.3)	
	断熱材現場発泡工法 (吹付硬質ウレタンフォーム) 種類 厚さ [mm] 施工箇所 ・ A種 1 ・ A種 1H ・ ( ) ・ ( ) ・ ( )	
	7 塗装改修工事	
	① 材料 (7.1.3)	
	・ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。 ・ 次の箇所を塗き防火材料とする。(箇所: )	
	② 下地調整 (7.2.1~7.2.7) (表7.2.1) ~ (表7.2.7)	
	既存塗膜の除去範囲 (塗り替えてRC種の場合) ・ 図示 (図面番号: )	
	種別 下地 種別 ひび割れ部の補修 ・ 木部 RA種 <input checked="" type="radio"/> RB種 RC種 ・ 鉄鋼面 RA種 <input checked="" type="radio"/> RB種 RC種 ・ 亜鉛めっき鋼面 RA種 <input checked="" type="radio"/> RB種 RC種 ・ モルタル、プラスチック面 RA種 <input checked="" type="radio"/> RB種 RC種 ・ コンクリート、ALCパネル面 RA種 <input checked="" type="radio"/> RB種 RC種 ・ コンクリート、押出成形セメント板面 RA種 <input checked="" type="radio"/> RB種 RC種 ・ セッコウボード、その他ボード面 RA種 <input checked="" type="radio"/> RB種 RC種	
	③ 鋼止め塗装塗り (7.3.2) (7.3.3) (表7.3.1) ~ (表7.3.4)	
	鋼止め塗装種別 ・ A種 <input checked="" type="radio"/> B種 ・ 亜鉛めっき鋼面 A種 <input checked="" type="radio"/> B種 C種 鋼止め塗装塗り種別 ・ A種 <input checked="" type="radio"/> B種 C種 ・ 亜鉛めっき鋼面 A種 <input checked="" type="radio"/> B種 C種	
	④ 合成樹脂調合ペイント塗り (SOP) (7.4.2) (7.4.3~7.4.5) (表7.4.1) ~ (表7.4.3)	
	塗料種別 1種 ( )	
	⑤ 木部 ・ A種 <input checked="" type="radio"/> B種 C種 ・ 鉄鋼面 A種 <input checked="" type="radio"/> B種 C種 ・ 亜鉛めっき鋼面 A種 <input checked="" type="radio"/> B種 C種	
	5 クリヤラッカ塗り (OL) (7.5.2) (表7.5.1)	
	種別 木部 A種 B種	

<b>8の1 耐震改修工事 共通事項</b>	<b>8の2 耐震改修工事 撤去工事</b>	<p>8 つや有合成樹脂 エマルジョンペ イント塗り (EP-G) (7.9.2)～(7.9.5) (表7.9.1)～ (表7.9.4)</p> <p>⑨ 合成樹脂エマ ルションペイン ト塗り(EP) (7.10.2) (表7.10.1)</p> <p>10 合成樹脂エマ ルション模様 塗料塗り (EP-T) (7.11.2) (表7.11.1)</p> <p>11 ウレタン樹脂 ワニス塗り (UC) (7.12.2) (表7.12.1)</p> <p>12 オイルステイ ン塗り(OS) (7.13.2) (表7.13.1)</p> <p>13 木材保護塗料 塗り(WP) (7.14.2) (表7.14.1)</p>	<p>種別</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">下地</td> <td style="width: 50%;">種別</td> </tr> <tr> <td>コンクリート、モルタル、 プラスター、セッコウボード、 その他ボード面</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種 しみ止め ( )</td> </tr> <tr> <td>木部(屋内)</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種</td> </tr> <tr> <td>鉄鋼面(屋内)</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき鋼面(屋内)</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種</td> </tr> </table> <p>種別</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A種 <input checked="" type="radio"/> B種 ・ C種</li> <li>しみ止め ( )</li> </ul> <p>種別</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A種 ・ B種 ・ C種</li> </ul> <p>種別</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A種 ・ B種</li> </ul> <p>塗料 ・ ( )</p> <p>種別</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A種 ・ B種</li> </ul>	下地	種別	コンクリート、モルタル、 プラスター、セッコウボード、 その他ボード面	・ A種 ・ B種 ・ C種 しみ止め ( )	木部(屋内)	・ A種 ・ B種 ・ C種	鉄鋼面(屋内)	・ A種 ・ B種 ・ C種	亜鉛めっき鋼面(屋内)	・ A種 ・ B種 ・ C種
下地	種別												
コンクリート、モルタル、 プラスター、セッコウボード、 その他ボード面	・ A種 ・ B種 ・ C種 しみ止め ( )												
木部(屋内)	・ A種 ・ B種 ・ C種												
鉄鋼面(屋内)	・ A種 ・ B種 ・ C種												
亜鉛めっき鋼面(屋内)	・ A種 ・ B種 ・ C種												
<p>(一般事項)</p> <p>1 適用範囲</p> <p>(8.1.1) (8.1.2)</p> <p>工事内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事</li> <li>・ 鉄骨ブレースの設置工事</li> <li>・ 柱補強工事(溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法)</li> <li>・ 柱補強工事(鋼板巻き工法又は帯板巻き付け工法)</li> <li>・ 柱補強工事(連続繊維補強工法)</li> <li>・ 耐震スリット新設工事</li> <li>・ 免震改修・制振改修工事</li> </ul> <p>工事種別</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鉄筋工事</li> <li>・ あと施工アンカーアンカーワーク</li> <li>・ コンクリート工事</li> <li>・ 鉄骨工事</li> <li>・ グラウト工事</li> <li>・ 連続繊維補強工事</li> <li>・ スリット新設工事</li> <li>・ 免震改修、制振改修工事</li> <li>・ 土工事及び地業工事</li> </ul>													
<p>1 既存部分の撤去等</p> <p>(8.21.2)</p> <p>撤去の範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示(図面番号: )</li> <li>・ 新設のコンクリート、モルタル、グラウト材、鉄骨、連続繊維に接する部分</li> <li>・ 既存コンクリート撤去範囲に面する部分</li> <li>・ ( )</li> </ul> <p>既存設備機器、配管撤去、新設、移設等処置</p> <p>本工事の範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本工事の範囲として図示された設備機器及び配管、盤類の撤去及び処分</li> <li>・ 設備機器及び配管、盤類の撤去及び処分は本工事の範囲としない。</li> <li>・ ( )</li> </ul> <p>撤去範囲 ・ 図示(図面番号: )</p>													
<p>2 既存構造体の撤去</p> <p>(8.21.2) (8.22.2) (8.23.2) (8.24.4)</p> <p>既存構造体の撤去</p> <p>撤去範囲 ・ 図示(図面番号: A-27、31 )</p> <p>はつりだした鉄筋及び鉄骨の処置</p> <p>既存鉄筋コンクリート内の鉄筋の切断</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">鉄筋の切断</th> <th style="width: 50%;">範囲</th> <th style="width: 50%;">適用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 既存鉄筋は切断せず残す</td> <td>・ 図示(図面番号: ) ・ 全ての撤去部分 ・ ( ) ・ 適用なし</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ コンクリートの撤去範囲の周囲より一定長さを残し切断する</td> <td>・ 図示(図面番号: A-66 ) ・ 全ての撤去部分 ・ ( ) ・ 適用なし</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ コンクリート撤去範囲の鉄筋は切断する</td> <td>・ 切断せず残す範囲を除く撤去する既存鉄筋コンクリートの範囲 ・ ( )</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>はつりだした鉄筋の処置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鉄筋に損傷を与えないよう適切な養生を施す。</li> <li>・ ( )</li> </ul> <p>はつりだした鉄骨の処置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発泡スチロール等で養生する。</li> <li>・ ( )</li> </ul>	鉄筋の切断	範囲	適用	・ 既存鉄筋は切断せず残す	・ 図示(図面番号: ) ・ 全ての撤去部分 ・ ( ) ・ 適用なし		・ コンクリートの撤去範囲の周囲より一定長さを残し切断する	・ 図示(図面番号: A-66 ) ・ 全ての撤去部分 ・ ( ) ・ 適用なし		・ コンクリート撤去範囲の鉄筋は切断する	・ 切断せず残す範囲を除く撤去する既存鉄筋コンクリートの範囲 ・ ( )		
鉄筋の切断	範囲	適用											
・ 既存鉄筋は切断せず残す	・ 図示(図面番号: ) ・ 全ての撤去部分 ・ ( ) ・ 適用なし												
・ コンクリートの撤去範囲の周囲より一定長さを残し切断する	・ 図示(図面番号: A-66 ) ・ 全ての撤去部分 ・ ( ) ・ 適用なし												
・ コンクリート撤去範囲の鉄筋は切断する	・ 切断せず残す範囲を除く撤去する既存鉄筋コンクリートの範囲 ・ ( )												
<p>(既存部分の処理)</p> <p>3 既存構造体コンクリート面の目荒らし</p> <p>(8.21.3) (8.22.3) (8.23.3)</p> <p>既存構造体コンクリート面の目荒らし</p> <p>目荒らし程度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平均深さ2～5mmで最大深さ5～7mm程度の凹面を、打継ぎ面の15～30%程度の面積となるように施す。</li> <li>・ 図示(図面番号: )</li> </ul>													
<b>8の1 耐震改修工事 共通事項</b>	<b>8の2 耐震改修工事 撤去工事</b>	<p>8 つや有合成樹脂 エマルジョンペ イント塗り (EP-G) (7.9.2)～(7.9.5) (表7.9.1)～ (表7.9.4)</p> <p>⑨ 合成樹脂エマ ルションペイン ト塗り(EP) (7.10.2) (表7.10.1)</p> <p>10 合成樹脂エマ ルション模様 塗料塗り (EP-T) (7.11.2) (表7.11.1)</p> <p>11 ウレタン樹脂 ワニス塗り (UC) (7.12.2) (表7.12.1)</p> <p>12 オイルステイ ン塗り(OS) (7.13.2) (表7.13.1)</p> <p>13 木材保護塗料 塗り(WP) (7.14.2) (表7.14.1)</p>	<p>種別</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">下地</td> <td style="width: 50%;">種別</td> </tr> <tr> <td>コンクリート、モルタル、 プラスター、セッコウボード、 その他ボード面</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種 しみ止め ( )</td> </tr> <tr> <td>木部(屋内)</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種</td> </tr> <tr> <td>鉄鋼面(屋内)</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき鋼面(屋内)</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種</td> </tr> </table> <p>種別</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A種 <input checked="" type="radio"/> B種 ・ C種</li> <li>しみ止め ( )</li> </ul> <p>種別</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A種 ・ B種 ・ C種</li> </ul> <p>種別</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A種 ・ B種</li> </ul> <p>塗料 ・ ( )</p> <p>種別</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A種 ・ B種</li> </ul>	下地	種別	コンクリート、モルタル、 プラスター、セッコウボード、 その他ボード面	・ A種 ・ B種 ・ C種 しみ止め ( )	木部(屋内)	・ A種 ・ B種 ・ C種	鉄鋼面(屋内)	・ A種 ・ B種 ・ C種	亜鉛めっき鋼面(屋内)	・ A種 ・ B種 ・ C種
下地	種別												
コンクリート、モルタル、 プラスター、セッコウボード、 その他ボード面	・ A種 ・ B種 ・ C種 しみ止め ( )												
木部(屋内)	・ A種 ・ B種 ・ C種												
鉄鋼面(屋内)	・ A種 ・ B種 ・ C種												
亜鉛めっき鋼面(屋内)	・ A種 ・ B種 ・ C種												
<p>(一般事項)</p> <p>1 適用範囲</p> <p>(8.1.1) (8.1.2)</p> <p>工事内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事</li> <li>・ 鉄骨ブレースの設置工事</li> <li>・ 柱補強工事(溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法)</li> <li>・ 柱補強工事(鋼板巻き工法又は帯板巻き付け工法)</li> <li>・ 柱補強工事(連続繊維補強工法)</li> <li>・ 耐震スリット新設工事</li> <li>・ 免震改修・制振改修工事</li> </ul> <p>工事種別</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鉄筋工事</li> <li>・ あと施工アンカーアンカーワーク</li> <li>・ コンクリート工事</li> <li>・ 鉄骨工事</li> <li>・ グラウト工事</li> <li>・ 連続繊維補強工事</li> <li>・ スリット新設工事</li> <li>・ 免震改修、制振改修工事</li> <li>・ 土工事及び地業工事</li> </ul>													
<p>1 既存部分の撤去等</p> <p>(8.21.2)</p> <p>撤去の範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示(図面番号: )</li> <li>・ 新設のコンクリート、モルタル、グラウト材、鉄骨、連続繊維に接する部分</li> <li>・ 既存コンクリート撤去範囲に面する部分</li> <li>・ ( )</li> </ul> <p>既存設備機器、配管撤去、新設、移設等処置</p> <p>本工事の範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本工事の範囲として図示された設備機器及び配管、盤類の撤去及び処分</li> <li>・ 設備機器及び配管、盤類の撤去及び処分は本工事の範囲としない。</li> <li>・ ( )</li> </ul> <p>撤去範囲 ・ 図示(図面番号: )</p>													
<p>2 既存構造体の撤去</p> <p>(8.21.2) (8.22.2) (8.23.2) (8.24.4)</p> <p>既存構造体の撤去</p> <p>撤去範囲 ・ 図示(図面番号: A-27、31 )</p> <p>はつりだした鉄筋及び鉄骨の処置</p> <p>既存鉄筋コンクリート内の鉄筋の切断</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">鉄筋の切断</th> <th style="width: 50%;">範囲</th> <th style="width: 50%;">適用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 既存鉄筋は切断せず残す</td> <td>・ 図示(図面番号: ) ・ 全ての撤去部分 ・ ( ) ・ 適用なし</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ コンクリートの撤去範囲の周囲より一定長さを残し切断する</td> <td>・ 図示(図面番号: A-66 ) ・ 全ての撤去部分 ・ ( ) ・ 適用なし</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ コンクリート撤去範囲の鉄筋は切断する</td> <td>・ 切断せず残す範囲を除く撤去する既存鉄筋コンクリートの範囲 ・ ( )</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>はつりだした鉄筋の処置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鉄筋に損傷を与えないよう適切な養生を施す。</li> <li>・ ( )</li> </ul> <p>はつりだした鉄骨の処置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発泡スチロール等で養生する。</li> <li>・ ( )</li> </ul>	鉄筋の切断	範囲	適用	・ 既存鉄筋は切断せず残す	・ 図示(図面番号: ) ・ 全ての撤去部分 ・ ( ) ・ 適用なし		・ コンクリートの撤去範囲の周囲より一定長さを残し切断する	・ 図示(図面番号: A-66 ) ・ 全ての撤去部分 ・ ( ) ・ 適用なし		・ コンクリート撤去範囲の鉄筋は切断する	・ 切断せず残す範囲を除く撤去する既存鉄筋コンクリートの範囲 ・ ( )		
鉄筋の切断	範囲	適用											
・ 既存鉄筋は切断せず残す	・ 図示(図面番号: ) ・ 全ての撤去部分 ・ ( ) ・ 適用なし												
・ コンクリートの撤去範囲の周囲より一定長さを残し切断する	・ 図示(図面番号: A-66 ) ・ 全ての撤去部分 ・ ( ) ・ 適用なし												
・ コンクリート撤去範囲の鉄筋は切断する	・ 切断せず残す範囲を除く撤去する既存鉄筋コンクリートの範囲 ・ ( )												
<p>(既存部分の処理)</p> <p>3 既存構造体コンクリート面の目荒らし</p> <p>(8.21.3) (8.22.3) (8.23.3)</p> <p>既存構造体コンクリート面の目荒らし</p> <p>目荒らし程度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平均深さ2～5mmで最大深さ5～7mm程度の凹面を、打継ぎ面の15～30%程度の面積となるように施す。</li> <li>・ 図示(図面番号: )</li> </ul>													

8 の 3 耐 震 改 修 工 事 鐵 筋 工 事	1 鉄筋 (8. 2. 1) (表8. 2. 1)	材料 改修標準仕様書(表8. 2. 1)による					
		種別	径(mm)				
		・ SD295A					
		・ SD345					
		・ SD390					
		・ ( )					
	2 溶接金網 (8. 2. 2)	網目の形状、寸法及び鉄線の径					
		網目の形状、寸法	鉄線の径(mm)				
	3 加工 (8. 3. 2)	90° 未満の折曲げの内法直径					
		・ 図示 (図面番号 : )					
	4 鉄筋の継手及び定着 (8. 3. 4)						
		重ね継手	・ D 1 6 以下				
		ガス圧接	・ D 1 9 以上				
	主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ						
	・ 改修標準仕様書(8. 3. 4) (3) (7)による						
	・ 図示 (図面番号 : )						
	継手位置						
	・ 各部配筋参考図による						
	・ 図示 (図面番号 : )						
	先組み工法等						
	・ 柱・梁主筋の継手を同一箇所に設ける						
	鉄筋の定着長さ						
	・ 改修標準仕様書(表8. 3. 4)による						
	・ (表8. 3. 4) のフックありの定着長さを確保できない場合の折曲げ定着の方法						
	・ 図示 (図面番号 : )						
	帶筋組立の形、継手及び定着						
	・ 図示 (図面番号 : )						
	5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (8. 3. 5) (表8. 3. 6)	鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ					
	・ ( ) mm						
	・ 図示 (図面番号 : A-66 )						
	圧接完了後の試験						
	超音波探傷試験						
	・ 行う						
	・ 行わない						
	割裂補強筋の適用						
	6 各部配筋	種類	材料	材種	径	本数・ピッチ	適用箇所
		・スパイラル筋	・鉄筋コンクリート用棒鋼	・ R235 ・ ( )	・ 6Φ ・ 9Φ ・ ( )	スパイラルの径(mm) ( ) スパイラルのピッチ(mm) ( )	・ 図示 (図面番号 : )
	7 ガス圧接 (8. 3. 8)	・ ( )	・ ( )	・ ( )	・ ( )		
		・ はしご筋	・鉄筋コンクリート用棒鋼(異形鉄筋)	・ 295A ・ ( )	・ 10 ・ ( )	壁内方向筋 ( ) 壁面外方向筋 ( )	
	(現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事及び鉄骨プレースの設置工事等)	・ 機械式継手				適用箇所 ( )	
		種類	( )			・ 鉄筋相互のあき ( ) mm	
	8 割裂補強筋 (8. 21. 6) (8. 22. 7)	性能	( )				
		施工完了後の継手部の試験	( )				
		不合格となった継手部への措置等	( )				
	9 鉄筋の機械式継手及び溶接継手 (8. 4. 2) (8. 4. 3)	・ 溶接継手				適用箇所 ( )	
		工法	( )			・ 鉄筋相互のあき ( ) mm	
		性能	( )				
		溶接完了後の溶接部の試験	( )				
		不合格となった溶接部への措置等	( )				
8 の 4 耐 震 改 修 工 事 コン クリ ー ト 工 事	(コンクリート工事一般事項)				コンクリートの類別		
	1 コンクリートの種類及び強度 (8. 1. 3) (8. 1. 4)				・ I 類	・ II 類	
	(8. 9. 1) (8. 9. 2) (表8. 9. 1)				普通コンクリートの設計基準強度		
	2 構造体コンクリートの仕上り (8. 1. 4) (表8. 1. 4) (表8. 1. 5)	設計基準強度Fc [N/mm <sup>2</sup> ]	適用範囲	気乾単位容積質量	スランプ		
		・ 21 ・ ( )		・ 2. 3t/m <sup>3</sup> 程度			
	(コンクリート)	軽量コンクリートの設計基準強度					
		設計基準強度Fc [N/mm <sup>2</sup> ]	種類	適用箇所	気乾単位容積質量	スランプ	
	3 コンクリートの材料 (8. 2. 5) (表8. 2. 3)	・ 36 ・ ( )	・ 1種 ・ 2種				
		・ ( )					
	合板せき板を用いる場合の打放し仕上げの種別				・ A種		
	・ B種				・ C種		
	コンクリートの仕上りの平たんさ				・ a種	・ b種	・ c種
	セメントの種類				・ 普通ポルトランドセメント		
	・ 高炉セメントA種				・ シリカセメントA種		
	・ フライアッシュセメントA種				・ フライアッシュセメントB種		
	・ ( )				・ 高炉セメントB種及びフライアッシュセメントB種		
					適用箇所 ( )		

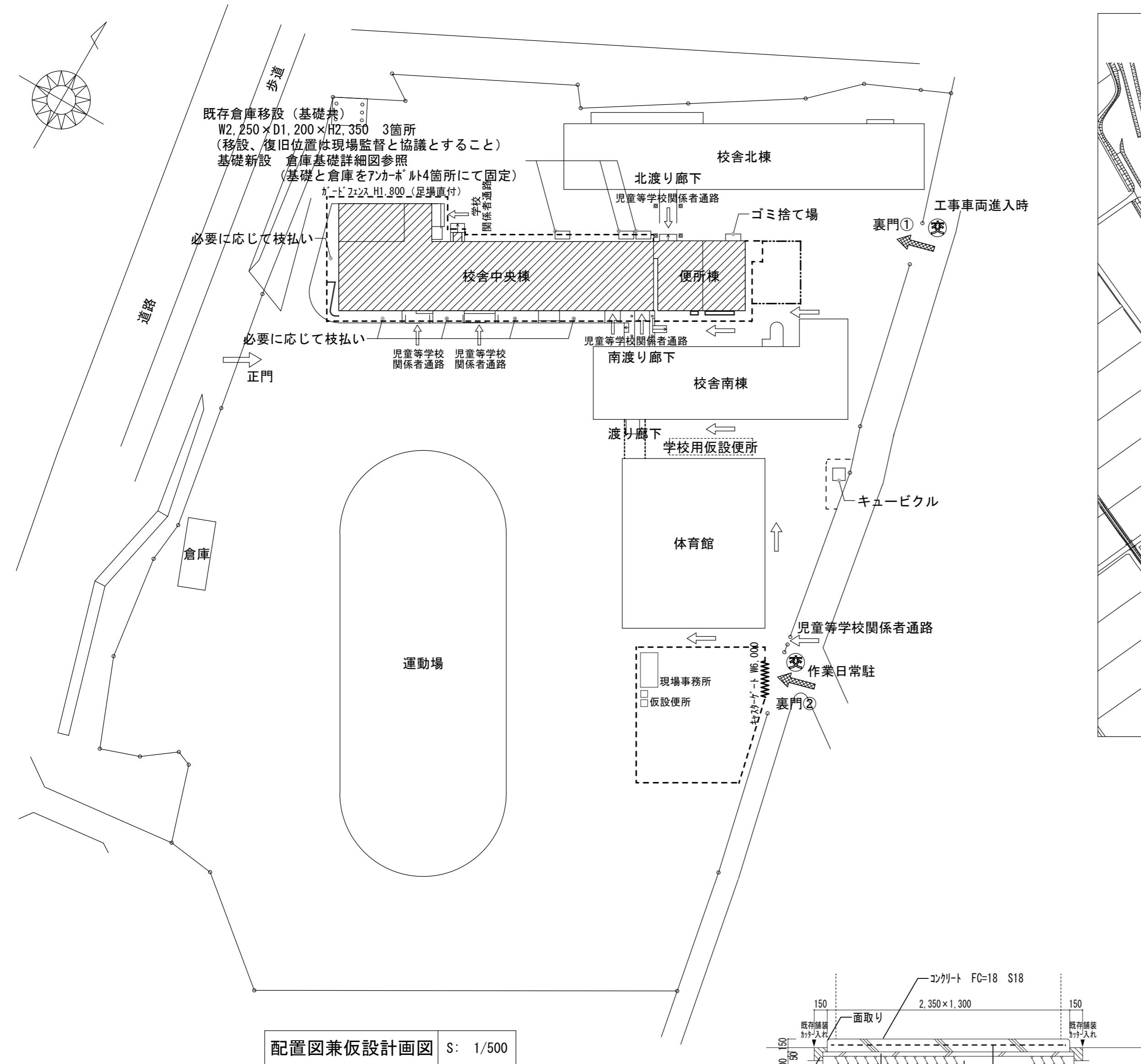
		<p><b>骨材</b> アルカリシリカ反応性による区分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A L (コンクリート中のアルカリ総量を規制)</li> <li>・ A (安全と認められる骨材を使用)</li> </ul> <p>なお、A Lで規制できない場合は、Aとし、その試験は、施工着手前、工事中1回／6ヶ月かつ産地が変わった場合に信頼できる試験機関で行い、試験に用いる骨材の採取は、請負者立ち会いのもと、試験を行う者が生コン工場のストックヤードから試料を採取して試験を行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特殊な骨材の使用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フェロニッケルスラグ細骨材</li> <li>・ 銅スラグ細骨材</li> <li>・ 電気炉酸化スラグ骨材</li> <li>・ 再生骨材H (普通エコセメントを使用するコンクリートに限る)</li> </ul> </li> </ul>																					
4 混和材料 (8.2.5)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 混和剤 混和剤の種類 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 改修標準仕様書(8.2.5)(4)(a)による</li> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> </ul> </li> <li>・ 混和材 混和材の種類 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 改修標準仕様書(8.2.5)(4)(b)による</li> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> </ul> </li> </ul>																					
5 調合管理強度 (8.2.5) (8.8.3) (8.10.2)		構造体強度補正值 (S) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3N/mm<sup>2</sup></li> <li>・ 6N/mm<sup>2</sup></li> <li>・ ( )</li> </ul>																					
6 養生 (8.7.7)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普通エコセメント使用の場合の湿潤養生期間 ( )</li> </ul>																					
7 型枠 (8.2.7) (8.7.8)		<p>材料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複合合板 (厚さ 12mm) ( )</li> </ul> <p>スリーブ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 材種 ( ) 規格 ( )</li> </ul> <p>型枠存置期間及び取外し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普通エコセメント使用の場合の最小存置期間 ( )</li> </ul>																					
8 暑中コンクリート (8.10.2)		構造体強度補正值 (S) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6N/mm<sup>2</sup></li> <li>・ ( )</li> </ul>																					
9 無筋コンクリート (8.11.1)		<p>コンクリートの種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普通コンクリート ( )</li> </ul> <p>設計基準強度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 18N/mm<sup>2</sup></li> <li>・ ( )</li> </ul> <p>スランプ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 15cm</li> <li>・ 18cm</li> <li>・ ( )</li> </ul>																					
(現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事、溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法)		部位別のコンクリートの打設工法の指定																					
10 コンクリートの打込み工法等 (8.21.8) (8.23.5)		<table border="1"> <thead> <tr> <th>補強工法</th> <th>打設工法</th> <th>部位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(7)及び(2)</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての増設壁</li> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> <li>・ ( )</li> </ul> </td></tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(4)及び(3)</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての増設壁</li> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> <li>・ ( )</li> </ul> </td></tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工法指定なし</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての増設壁</li> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> <li>・ ( )</li> </ul> </td></tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ( )</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> <li>・ ( )</li> </ul> </td></tr> <tr> <td rowspan="4">鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(7)及び(2)</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての増設壁</li> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> <li>・ ( )</li> </ul> </td></tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(4)及び(3)</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての増設壁</li> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> <li>・ ( )</li> </ul> </td></tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工法指定なし</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての増設壁</li> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> <li>・ ( )</li> </ul> </td></tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ( )</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> <li>・ ( )</li> </ul> </td></tr> </tbody> </table>	補強工法	打設工法	部位	現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(7)及び(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての増設壁</li> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> <li>・ ( )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(4)及び(3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての増設壁</li> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> <li>・ ( )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工法指定なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての増設壁</li> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> <li>・ ( )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ( )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> <li>・ ( )</li> </ul>	鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(7)及び(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての増設壁</li> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> <li>・ ( )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(4)及び(3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての増設壁</li> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> <li>・ ( )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工法指定なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての増設壁</li> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> <li>・ ( )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ( )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> <li>・ ( )</li> </ul>
補強工法	打設工法	部位																					
現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(7)及び(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての増設壁</li> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> <li>・ ( )</li> </ul>																					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(4)及び(3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての増設壁</li> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> <li>・ ( )</li> </ul>																					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工法指定なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての増設壁</li> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> <li>・ ( )</li> </ul>																					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ( )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> <li>・ ( )</li> </ul>																					
鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(7)及び(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての増設壁</li> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> <li>・ ( )</li> </ul>																					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(4)及び(3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての増設壁</li> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> <li>・ ( )</li> </ul>																					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工法指定なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての増設壁</li> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> <li>・ ( )</li> </ul>																					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ( )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> <li>・ ( )</li> </ul>																					
(8.23.6)		<p>柱頭柱脚の隙間部間の型枠</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発泡プラスチック保温材等を埋込む</li> <li>・ ( )</li> </ul> <p>柱頭柱脚の隙間寸法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> </ul> <p>打ち込みコンクリート又はグラウト材の厚さ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示 (図面番号 : ) 60mm ( )</li> </ul>																					
11 増設壁工事後の仕上げ (8.21.10) (8.23.7)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示 (図面番号 : )</li> </ul>																					

8 の 5  耐 震 改 修 工 事  あと 施 工 ア ン カ ー 工 事	種類	1 あと施工アンカーの材料	1 あと施工アンカーセットの方式	・ 金属系 セットの方式	・ 本体打込み式 (・ 改良型 ・ 従来型)	・ 有機系	・ 図示 (図面番号: )		
	径及び埋込み長さ			・ 図示 (図面番号: )	・ 図示 (図面番号: )	・ 図示 (図面番号: )	・ 図示 (図面番号: )		
	引張耐力			・ 図示 (図面番号: )	・ 図示 (図面番号: )	・ 図示 (図面番号: )	・ 図示 (図面番号: )		
	せん断耐力			・ 図示 (図面番号: )	・ 図示 (図面番号: )	・ 図示 (図面番号: )	・ 図示 (図面番号: )		
	接合筋の種類・径・長さ			・ 図示 (図面番号: )	・ 図示 (図面番号: )	・ 図示 (図面番号: )	・ 図示 (図面番号: )		
	接着剤の品質			・ 接着系 アンカーの種類	・ カーブセル型回転・打撃式	・ ( )			
	径及び埋込み長さ			・ 有機系	・ 無機系				
	引張耐力			・ 国示 (図面番号: A-18)	・ 国示 (図面番号: )	・ 国示 (図面番号: )	・ 国示 (図面番号: )		
	せん断耐力			・ 国示 (図面番号: )	・ 国示 (図面番号: )	・ 国示 (図面番号: )	・ 国示 (図面番号: )		
	アンカーフレームの種類			・ 国示 (図面番号: )	・ 国示 (図面番号: )	・ 国示 (図面番号: )	・ 国示 (図面番号: )		
	アンカーフレームの新設壁への定着長さ			・ 国示 (図面番号: )	・ 国示 (図面番号: )	・ 国示 (図面番号: )	・ 国示 (図面番号: )		
	あと施工アンカーの性能確認試験			・ 行つ	・ 行わない				
	穿孔								
	埋込み配管等の探査の方法			・ 鉄筋探査機(金属探知機)により検査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。					
	・ はつり出しによる。			・ ( )					
	あと施工アンカーの施工確認試験			・ 実施する	・ 実施しない				
	試験方法			・ 引張試験機による引張試験	・ ( )				
	1ロットの単位			・ 1日に施工されたものの径及び仕様ごと	・ ( )				
	試験の箇所数			・ 1ロットに対し3本(無作為)	・ ( )				
	確認強度			・ ( )					
	場所打ちコンクリート壁の増設工事								
	3 シアコネクター			・ 金属系あと施工アンカーフレーム	・ 接着系あと施工アンカーフレーム				
				・ D 10	・ 増打壁厚-40	・ ( )			
				・ 影込み深さ[mm]	・ 5 d (d: シアコネクターの径)以上	・ ( )			
				・ 間隔[mm]	・ 500 × 500				
				シアコネクターとセバーラーの兼用	・ 兼用してもよい	・ 兼用しない	・ ( )		
	8 の 6  耐 震 改 修 工 事  鉄 骨 工 事	1 鉄骨製作工場	(8. 1. 5)	日本鉄骨評価センター又は株全国鉄骨評価機構の「鉄骨製作工事の性能評価基準」に定めるグレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場	・ J	・ R	・ M	・ H	・ S
	2 鉄骨製作工場における施工管理技術者	(8. 1. 6)	施工管理技術者(鉄骨製作管理技術者、鉄骨工事管理責任者等)の配置	・ しない	・ する				
	3 鋼材	(8. 2. 8)	種類・形状及び寸法	・ 国示 (図面番号: )					
	4 高力ボルト	(8. 2. 9)	高力ボルトの適用	・ トルシア形高力ボルト2種 (S10T)					
		(8. 14. 2)		・ JIS形高力ボルト2種 (F10T)					
		(8. 14. 7)		・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト1種 (F8T相当)					
			ねじの呼び	・ 国示 (図面番号: )					
			すべり試験	・ 行う (試験方法等 国示: 国面番号 )					
				JIS形・ナット回転法かつボルト長がねじの5倍を超える場合の回転量	・ ( )				
				・ 改修標準仕様書(8.2.10)(1)(2)以外の溶接材料					
	5 溶接材料	(8. 2. 10)	材料及び使用箇所	・ 国示 (国面番号: )					
	6 仮組	(8. 13. 10)	仮組の実施	・ 実施する ( )	・ 実施しない				
	7 溶接作業を行う技能資格者	(8. 15. 3)	溶接作業における技能資格者の技量付加試験	・ 実施する ( )	・ 実施しない				
	8 溶接の準備	(8. 15. 4)	開先の形状	・ 国示 (国面番号: )					
	9 溶接施工	(8. 15. 7)	鋼製エンドタブの切断	・ 適用箇所	国示 (国面番号: )				
			切断面の仕上げ	・ ( )					
			鋼製エンドタブに代わるその他の工法	・ 鋼製エンドタブに代わるその他の工法については、代替エンドタブ(セラミックタブ又はフラックスタブ)を用いたものとし、工法の採用にあたっては、以下の項目の両方とも満足することを条件とし、監督員の承諾を受けること。	1. 相当数の代替エンドタブによる溶接を行ったことがある工場での製作であること。				
				2. 製作工場がJ、R、Mグレードの場合は、溶接技能者がNPO法人日本エンドタブ協会による圆形タブに係るエンドタブ施工講習修了者(溶接技能者・A級以上)又はAW検定協議会による代替エンドタブ技量認定資格者とすること。また、製作工場がH、Sグレードの場合は、溶接技能者がAW検定協議会による代替エンドタブ技量認定資格者とすること。					
			板厚が異なる場合の突合せ溶接部	・ 低応力高サイクル疲労を受ける部位	国示 (国面番号: )				
			スカラップの形状	・ 国示 (国面番号: )					
	10 溶接部の試験	(8. 15. 12)	溶接部の外観試験	・ 試験方法 ( )	・ 確認方法 ( )				
			完全溶込み溶接部の超音波探傷試験						
			工場溶接の場合	・ 全数試験とする					
				・ 公共建築工事標準仕様書(平成31年版)(7.6.12)(1)による。					
				平均出検品質限界(A0QL) 4.0% 2.5% ( )					
				検査水準 第6水準 ( )					
				ロットの構成 ( )					
			工事現場溶接の場合	・ 全数試験とする					
				・ 公共建築工事標準仕様書(平成31年版)(7.6.12)(1)による。					
				平均出検品質限界(A0QL) 4.0% ( )					

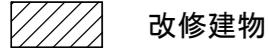
8 の 7  耐 震 改 修 工 事  グ ラ ウ ト 工 事	1 1 鉄骨の錆止め塗装	鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面(鉄骨に溶接されたものに限る)	・ 改修標準仕様書(7.3.2)(表7.3.1) ( ) 種	耐火被覆材の接着する面の塗装範囲	・ 国示 (国面番号: )	・ 改修標準仕様書(7.3.2)(表7.3.1) ( ) 種	耐火被覆材の接着する面の塗装範囲	・ 国示 (国面番号: )
	1 2 耐火被覆材の種類及び性能	・ 国示 (国面番号: )	・ ( )	・ 国示 (国面番号: )	・ ( )	・ 国示 (国面番号: )	・ ( )	・ 国示 (国面番号: )
	1 3 ブレース設置工事後の仕上げ	(8. 22. 9)	・ 国示 (国面番号: )					
	1 4 スタッド	(8. 2. 11)	スタッドの種類	・ ( )				
	8 の 8  耐 震 改 修 工 事  ス リ ッ ト 新 設 工 事	構造体用モルタル	・ 改修標準仕様書(8. 2. 6)及び(8. 2. 12)による。					
	1 モルタル及びグラウト材	(8. 2. 6) (8. 2. 12) (表8. 2. 5) (表8. 2. 10)	無収縮モルタル	・ 改修標準仕様書(8. 2. 12)(1)による	・ ( )	グラウト材	・ 改修標準仕様書(8. 2. 12)(1)による。	
	8 の 9  耐 震 補 強 工 事  ス リ ッ ト 新 設 工 事	増設の現場打ち鉄筋コンクリート壁と既存構造体との隙間の処置方法	・ 増設壁の上部	・ グラウト材を注入	・ 寸法は図示による	・ ( )		
	2 スリットの施工		・ ( )	・ ( )	・ ( )			
	8 の 10  其 の 他 工 事	連続繊維補強工事	1 連続繊維シート等による工法	・ ( )				
	1 土工事	(8. 28. 2) (8. 28. 3)	既存杭の撤去	・ 国示 (国面番号: )				

8 の 10  其 の 他 工 事	耐震スリット新設工事	付着強度試験	・ 実施する (JIS A6909に準拠する) 試験数量 ( )	・ 実施しない	耐震スリットの種類及び形状	完全スリットの形状	一般型	一面せん断型	
	1 スリットの種類	(8. 25. 1) (8. 25. 2)	記号	・ 国示 (国面番号: )	・ ( )	既存スリットの処理	・ 既存鉄筋はつり出し	・ 切断してよい	
	8 の 10  其 の 他 工 事	スリット新設工事	記号	・ 国示 (国面番号: )	・ ( )	既存鉄筋の処理	・ 既存鉄筋はつり出し	・ 切断してよい	
	2 制振改修工事	スリットの形状	・ 一般型	・ 一面せん断型		既存スリットの処理	・ 既存鉄筋はつり出し	・ 切断してよい	
	3 免震改修工事	スリットの形状	・ 片側スリット	・ 両面スリット		既存スリットの処理	・ 既存鉄筋はつり出し	・ 切断してよい	

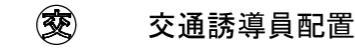
9 環境配慮改修工事	<p>地盤の載荷試験 試験方法・平板載荷 ( ) 試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。 位置・図示(面番号: ) 載荷荷重 ( kN) 報告書・提出部数 2部</p> <p>杭地盤の工法、寸法 ・図示(面番号: )</p> <p>杭頭処置 ・行う ・行わない</p> <p>砂利及び砂地盤 範囲・図示(面番号: ) 厚さ (mm) 60 ( )</p> <p>捨てコンクリート地盤 範囲・図示(面番号: ) 厚さ (mm) 50 ( )</p> <p>① 石綿含有建材の除去工事 (9.1.1)</p> <p>施工調査 ・石綿含有建材の事前調査 工事着手に先立ち、石綿含有建材の使用について、目視、設計図書及び貸与資料等により書面調査及び現地調査し、監督職員に報告する。</p> <p>調査範囲・図示(面番号: ) ( ) 貸与資料 ( )</p> <p>・分析による石綿含有建材の調査 分析対象 ・アクリノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、トレモライト 分析方法 ・JIS A 1481-1 (建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第1部:市販パルク材からの試料採取及び定性的判定方法)による ・JIS A 1481-2 (建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部:試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法)による ・JIS A 1481-3 (建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第3部:アスベスト含有率のX線回折定量分析方法)による ・JIS A 1481-4 (建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第4部:質量法及び顕微鏡法によるアスベストの定量分析方法)による</p> <p>材料名 定性分析 定量分析 ・箇所数 ( ) ・箇所数 ( ) ・箇所数 ( ) ・箇所数 ( ) ・箇所数 ( ) ・箇所数 ( )</p> <p>サンプル数 1箇所あたり3サンプル 採取箇所・図示(面番号: ) ( )</p> <p>石綿粉じん濃度測定 測定時期、場所及び測定点</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>適用</th><th>測定名称</th><th>測定時期</th><th>測定場所</th><th>測定点 (各施工箇所ごと)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・</td><td>測定1</td><td>処理作業前</td><td>処理作業室内</td><td>計 点</td></tr> <tr> <td>・</td><td>測定2</td><td></td><td>調査対象室外部の付近</td><td>計 点</td></tr> <tr> <td>・</td><td>測定3</td><td>処理作業中</td><td>処理作業室内</td><td>計 点</td></tr> <tr> <td>・</td><td>測定4</td><td></td><td>負圧・除じん装置の排出吹出口 ・除じん装置の排出吹出</td><td>出口吹出し風速1m/s 以下の位置 計 点</td></tr> <tr> <td>・</td><td>測定5</td><td></td><td>処理作業室外(敷地境界)</td><td>計 点</td></tr> <tr> <td>・</td><td>測定6</td><td>(処理作業後) (シート養生中)</td><td>処理作業室内</td><td>計 点</td></tr> <tr> <td>・</td><td>測定7</td><td>処理作業後シート撤去後1週間</td><td>処理作業室内</td><td>計 点</td></tr> <tr> <td>・</td><td>測定8</td><td>シート撤去後1週間 以降</td><td>調査対象室外部の付近</td><td>計 点</td></tr> </tbody> </table> <p>測定方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>測定3</th><th>測定1,2,4,6,7,8</th><th>測定5</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>メンブレンフィルタ直径 (mm)</td><td>25</td><td>25</td><td>47</td></tr> <tr> <td>試料の吸引流量 (L/min)</td><td>・1 ( )</td><td>・5 ( )</td><td>・10 ( )</td></tr> <tr> <td>試料の吸引時間 (min)</td><td>・5 ( )</td><td>・120 ( )</td><td>・240 ( )</td></tr> </tbody> </table> <p>・石綿含有吹付け材の除去 除去対象範囲・図示(面番号: ) 除去工法・改修標準仕様書9.1.3(2)(7)による ( ) 除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止 ・湿润化 ・固化化 除去した石綿含有吹付け材等の処分 ・埋立処分(管理型最終処分場) 中間処理(溶融又は無害化による)</p> <p>・石綿含有保温材等の除去 除去対象範囲・図示(面番号: ) 除去方法・改修標準仕様書9.1.4(1)による ( ) 除去した石綿含有保温材等の処分 ・埋立処分(管理型最終処分場) 中間処理(溶融又は無害化による)</p> <p>・石綿含有成形板の除去 除去対象範囲 ( ) 図示(面番号: A-11) 石綿含有せっこうボードの処分 ・埋立処分(管理型最終処分場) 石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板の処分 ・埋立処分(安定型最終処分場) ( ) 中間処理(溶融又は無害化による)</p> <p>・石綿含有仕上塗材の除去 除去対象範囲・図示(面番号: ) 除去した石綿含有仕上塗材等の処分 ・埋立処分(管理型最終処分場) 中間処理(溶融又は無害化による)</p> <p>※「石綿含有仕上塗材の除去等作業における石綿飛散防止対策について」(平成29年5月30日付け 環境大臣発第105301号)及び「建築物の改修・解体時における石綿含有建築用仕上塗材から の石綿粉じん飛散防止処理技術指針」(平成28年4月28日 国立研究開発法人 建築研究所)に に基づき適切に処理すること。</p>	適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)	・	測定1	処理作業前	処理作業室内	計 点	・	測定2		調査対象室外部の付近	計 点	・	測定3	処理作業中	処理作業室内	計 点	・	測定4		負圧・除じん装置の排出吹出口 ・除じん装置の排出吹出	出口吹出し風速1m/s 以下の位置 計 点	・	測定5		処理作業室外(敷地境界)	計 点	・	測定6	(処理作業後) (シート養生中)	処理作業室内	計 点	・	測定7	処理作業後シート撤去後1週間	処理作業室内	計 点	・	測定8	シート撤去後1週間 以降	調査対象室外部の付近	計 点		測定3	測定1,2,4,6,7,8	測定5	メンブレンフィルタ直径 (mm)	25	25	47	試料の吸引流量 (L/min)	・1 ( )	・5 ( )	・10 ( )	試料の吸引時間 (min)	・5 ( )	・120 ( )	・240 ( )	<p>2 断熱アスファルト防水改修工事 (9.2.1) ~ (9.2.3)</p> <p>改修特記仕様書3章による</p> <p>3 外断熱改修工事 (9.3.2)</p> <p>断熱材 種類 厚さ [mm] ・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 ・押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキンなし) ・硬質ウレタンフォーム断熱材 ・フェノールフォーム断熱材 ・ロックウール断熱材 ・グラスウール断熱材 ・ ( )</p> <p>施工箇所 ・図示(面番号: ) ( )</p> <p>外装材 種類 防火性能 備考 ・</p> <p>既存外壁の措置 既存外壁上り材の撤去 あり なし 下地面の清掃 行う 行わない 欠損部の改修工法 充填工法 モルタル塗替え工法 ( )</p> <p>工法 通気層の有無 あり ( mm ) なし 断熱材の施工 断熱材製造所の仕様による ( ) 外装材の施工 外装材製造所の仕様による ( ) 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ・適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の ( 1 1.15 1.3 ) 倍の風圧力に対応した工法) ・適用しない 不陸等の下地調整 行う</p> <p>4 断熱・防露改修工事 (9.5.2)</p> <p>断熱材打込み工法 種類 厚さ [mm] ・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 ・押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキンなし) ・硬質ウレタンフォーム断熱材 ・フェノールフォーム断熱材 ・ ( )</p> <p>施工箇所・図示(面番号: ) ( )</p> <p>断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 A種1 A種1H ( ) 厚さ (mm) 25 30 ( ) 施工箇所・図示(面番号: )</p> <p>現場発泡断熱材 (品質・性能) 工事建築材料等品質性能表による (試験方法) 工事建築材料等品質性能表による</p> <p>断熱材後張り工法 種類 せっこうボード等の張り付け 厚さ [mm] ・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 有 無 ・押出法ポリスチレンフォーム断熱材 有 無 ・硬質ウレタンフォーム断熱材 有 無 ・フェノールフォーム断熱材 有 無 ・ ( ) 有 無</p> <p>施工箇所・図示(面番号: ) ( )</p> <p>5 屋上緑化改修工事 (9.6.1) (9.6.2) (9.6.3)</p> <p>植栽基盤及び材料 屋上緑化軽量システム ・適用する 适用しない 芝及び地被類の樹種並びに種類等 図示(面番号: ) ( ) 見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 図示(面番号: ) ( )</p> <p>工法 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ・適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の ( 1 1.15 1.3 ) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法) ・適用しない かん水装置 設置する(種類 ( )) 既存保護層の撤去 行う 行わない</p>	<p>6 透水性アスファルト舗装改修工事 (9.7.2) ~ (9.7.7) (9.7.9)</p> <p>既存舗装の撤去及び再利用 路床 路床の材料 種別 材料 厚さ [mm] ・ A種 B種 C種 D種 ・建設汚泥から再生した処理土 ・ ( )</p> <p>・凍上抑制層 ・再生クラッシャラン ・クラッシャラン ・切込み砂利 ・川砂、海砂又は良質な山砂 (7μmふるい通過量10%以下) ・ ( )</p> <p>・フィルター層 ・砂 ・ ( )</p> <p>路床安定処理 ・添加材料による安定処理 種類 普通ポルトランドセメント フライアッシュセメントB種 ・生石灰 ( 特号 1号 ) 消石灰 ( 特号 1号 ) 添加量 ( kg/m2 ) ( 目標CBR 5 以上 )</p> <p>・ジョテキスタイル 単位面積質量 60g/m2以上 ( ) 厚さ [mm] 0.5~1.0 ( ) 引張強さ 98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 ( ) 透水係数 1.5×10^-1cm/sec 以上 ( )</p> <p>試験 路床土の支持力比 (CBR) 試験 行う 行わない 路床締固め度の試験 行う 行わない 現場CB試験 行う 行わない</p> <p>路盤 路盤の構成及び厚さ 図示(面番号: ) ( ) 路盤材料 ・再生材のクラッシャラン ・クラッシャラン鉄鋼スラグ ・図示(面番号: ) ( )</p> <p>試験 路盤締固め度の試験 行う 行わない</p> <p>舗装 材料 厚さ [mm] ・ストレートアスファルト ・改質アスファルト&lt;br</p>
適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)																																																												
・	測定1	処理作業前	処理作業室内	計 点																																																												
・	測定2		調査対象室外部の付近	計 点																																																												
・	測定3	処理作業中	処理作業室内	計 点																																																												
・	測定4		負圧・除じん装置の排出吹出口 ・除じん装置の排出吹出	出口吹出し風速1m/s 以下の位置 計 点																																																												
・	測定5		処理作業室外(敷地境界)	計 点																																																												
・	測定6	(処理作業後) (シート養生中)	処理作業室内	計 点																																																												
・	測定7	処理作業後シート撤去後1週間	処理作業室内	計 点																																																												
・	測定8	シート撤去後1週間 以降	調査対象室外部の付近	計 点																																																												
	測定3	測定1,2,4,6,7,8	測定5																																																													
メンブレンフィルタ直径 (mm)	25	25	47																																																													
試料の吸引流量 (L/min)	・1 ( )	・5 ( )	・10 ( )																																																													
試料の吸引時間 (min)	・5 ( )	・120 ( )	・240 ( )																																																													



凡例



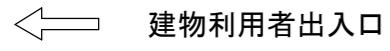
改修物



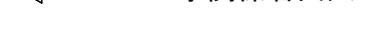
交通誘導員配置

ガードフェンス H=1,800

コーンバー (揚重機設置及び資材置き等、作業ヤードとして使用時)

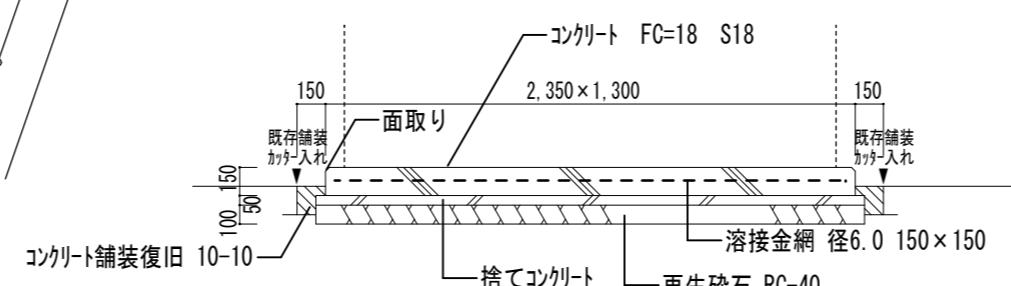


建物利用者出入口



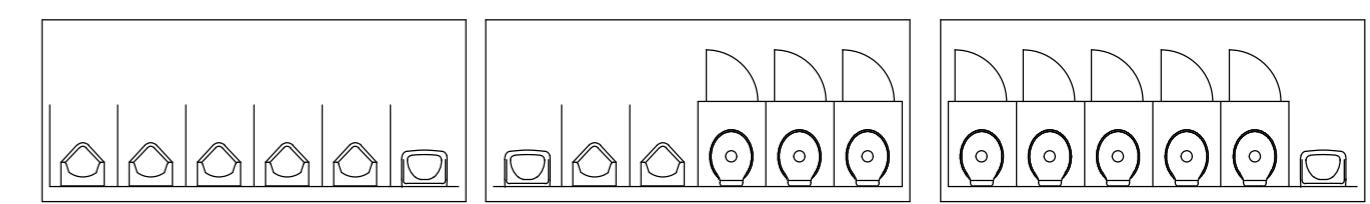
工事関係者出入口

※ 工事車両用駐車場及び資材搬入経路は、現場確認の上監督員と協議すること。  
※ 構内の車両通行は最徐行とし、大型車両進入時は交通誘導員を配置すること。  
※ 夏休み以降の外壁改修工事については、原則、授業時間を避け工事を行うこと。  
また、学校登校日については、コロナウィルスの関係により換気ができるよう、塗装養生を一部外すなど工夫をすること。



<注記>

- 強風等で転倒しないよう敷地に固定すること。
- 設置及び撤去作業時は、仮囲い (A型バリケード+トラロープ) を設置し、安全確保に十分に注意すること。
- 仮設便所の位置は、現地を調査し監督員と十分協議すること。
- 仮設便所はユニット型水洗式 (照明付) とし、給排水工事は受注者で行うこと。
- 渡り廊下から仮設便所の出入りについては雨に濡れずに行き来出来るよう単管+塩ビ波板等で雨よけ用通路を設置すること。



仮設便所平面図(参考) S:1/100

【※仮設便所設置期間：夏休み工事～1階男子・女子便所引き渡し】

屋上防水	吹抜け	塗膜防水	庇	玄関	シート防水 絶縁工法
	階段	【アスファルト露出防水】		R階	【シート防水 密着工法】
	校舎増築部	シート防水 絶縁工法		その他	モルタル金コテ仕上げ
	その他	シート防水 絶縁工法		雨樋	豎樋 カラーV P $\phi$ 100 (一部撤去)
防水立上り	吹抜け	塗膜防水	庇裏		外装薄塗材E コンクリート打放し下地
	階段	【アスファルト露出防水】		校舎本体	外装薄塗材E モルタル下地
	校舎増築部	【シート防水 密着工法】		校舎増築部	A L Cパネル t=100 複層塗材E
	その他	【シート防水 密着工法】		玄関腰壁	300角磁器質タイル モルタル下地
屋上その他	ルーフドレーン	【鉄製 $\phi$ 100】	外壁	小荷物昇降機	ケイカル積層板 t=30 A E P
	コーナードレーン	【鉄製 $\phi$ 100】		便所棟	外装薄塗材E モルタル下地
	防水アゴ	塗膜防水		巾木	モルタル刷毛引き仕上げ
	笠木	アルミ 【カラーG L鋼板】		犬走り	コンクリート金コテ仕上げ
	フェンス	【スチールネットフェンス O P】切断撤去 【縦格子フェンス O P】切断撤去		換気孔	壁換気孔 パンチングメタル S O P
				EXP. J	SUS製 1時間耐火 (内部のみ一部撤去)

屋上防水	吹抜け	《水洗いの上 塗膜防水(X-2)》	庇	玄関	《水洗いの上 シート防水(S-M2)》
	階段	《下地調整の上 シート防水(S-M2)》		R階	《下地調整の上 塗膜防水(X-2)》
	校舎増築部	《水洗いの上 シート防水(S-M2)》		その他	《水洗いの上 塗膜防水(X-2)》
	その他	《水洗いの上 シート防水(S-M2)》		雨樋	豎樋 《下地調整の上 E P塗替え》
防水立上り	吹抜け	《水洗いの上 塗膜防水(X-2)》	外壁	庇裏	《水洗いの上 外装薄塗材E塗替え》
	階段	《下地調整の上 シート防水(S-F2)》		校舎本体	《水洗いの上 複層塗材E塗替え》
	校舎増築部	《下地調整の上 塗膜防水(X-2)》		校舎増築部	《水洗いの上 複層塗材E塗替え》
	その他	《下地調整の上 塗膜防水(X-2)》		玄関腰壁	《水洗い》
屋上その他	ルーフドレーン	《改修用ドレーン $\phi$ 100》		小荷物昇降機	《水洗いの上 下地調整 複層塗材E塗替え》
	コーナードレーン	《改修用ドレーン $\phi$ 100》		便所棟	既存のまま (外装薄塗材E モルタル下地)
	脱気筒	《SUS製》		穴塞ぎ部	《コンクリート打放し下地 t=150 の上 外装薄塗材E》
	防水アゴ	《水洗いの上 塗膜防水(X-2)》		補修部	《モルタル金コテ下地 の上 外装薄塗材E》
	笠木	アルミ 【カラーG L鋼板】		巾木	《水洗い》
	フェンス	《スチールネットフェンス》 H=1,500 基礎共		犬走り	《水洗い》
				換気孔	《下地調整の上 D P塗替え》
				EXP. J	SUS製・アルミ製 1時間耐火 (内部のみ一部新設)

## 躯体の改修について(パラペット・庇・外壁・巾木・犬走り)

## ◆躯体ひび割れの改修方法

- ・自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 (1mm以下)
- ・Uカットシール材充填工法 (1mm以上)

## ◆躯体浮きの改修方法

- ・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 (一般部: 16本/m<sup>2</sup>、25ml/穴)
- ・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 (見上面、庇鼻先、マグサ隅角部: 25本/m<sup>2</sup>、25ml/穴)

## ◆躯体欠損、爆裂の改修方法

- ・鉄筋防鏽の上、樹脂モルタル充填

◆打継誘発目地、サッシ周囲はシール打替えを行う。

## 認定番号等

・ 1時間耐火壁 (縦穴区画) : FP060NP-0189 強化石膏ボード t=21+21 片面貼り

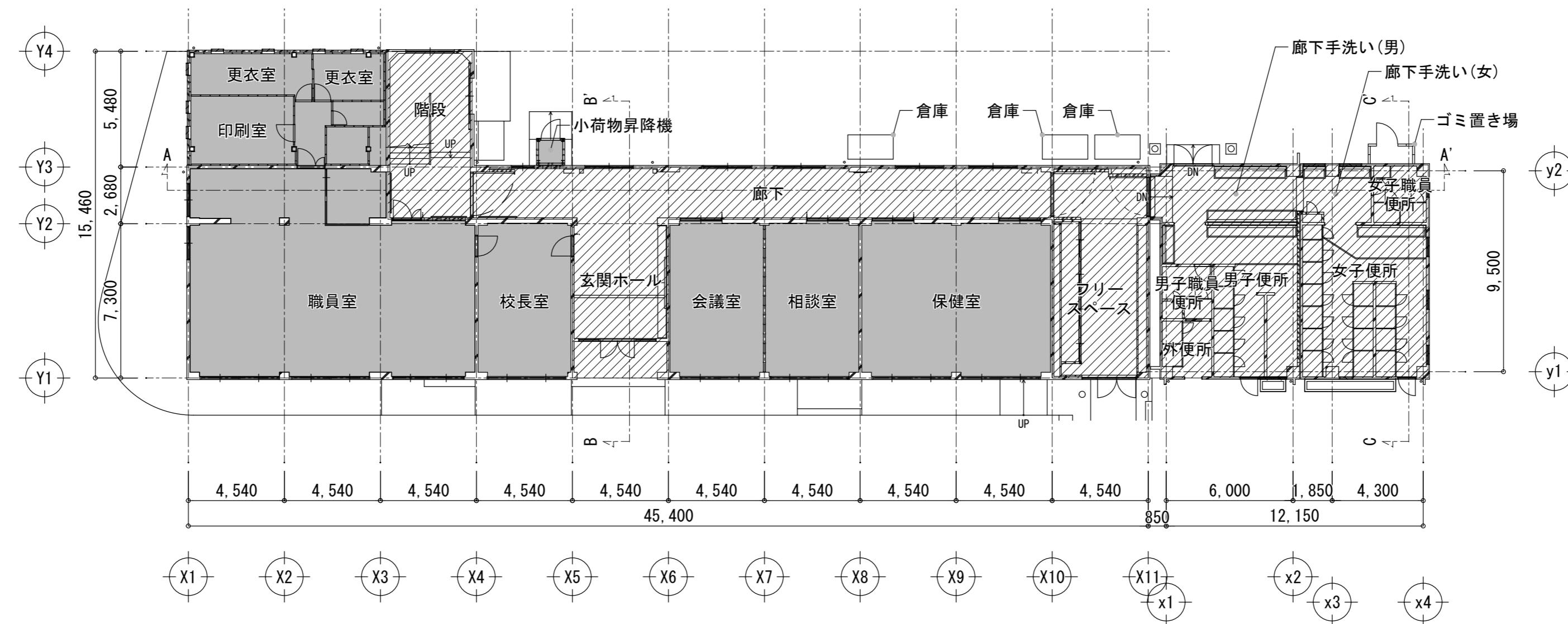
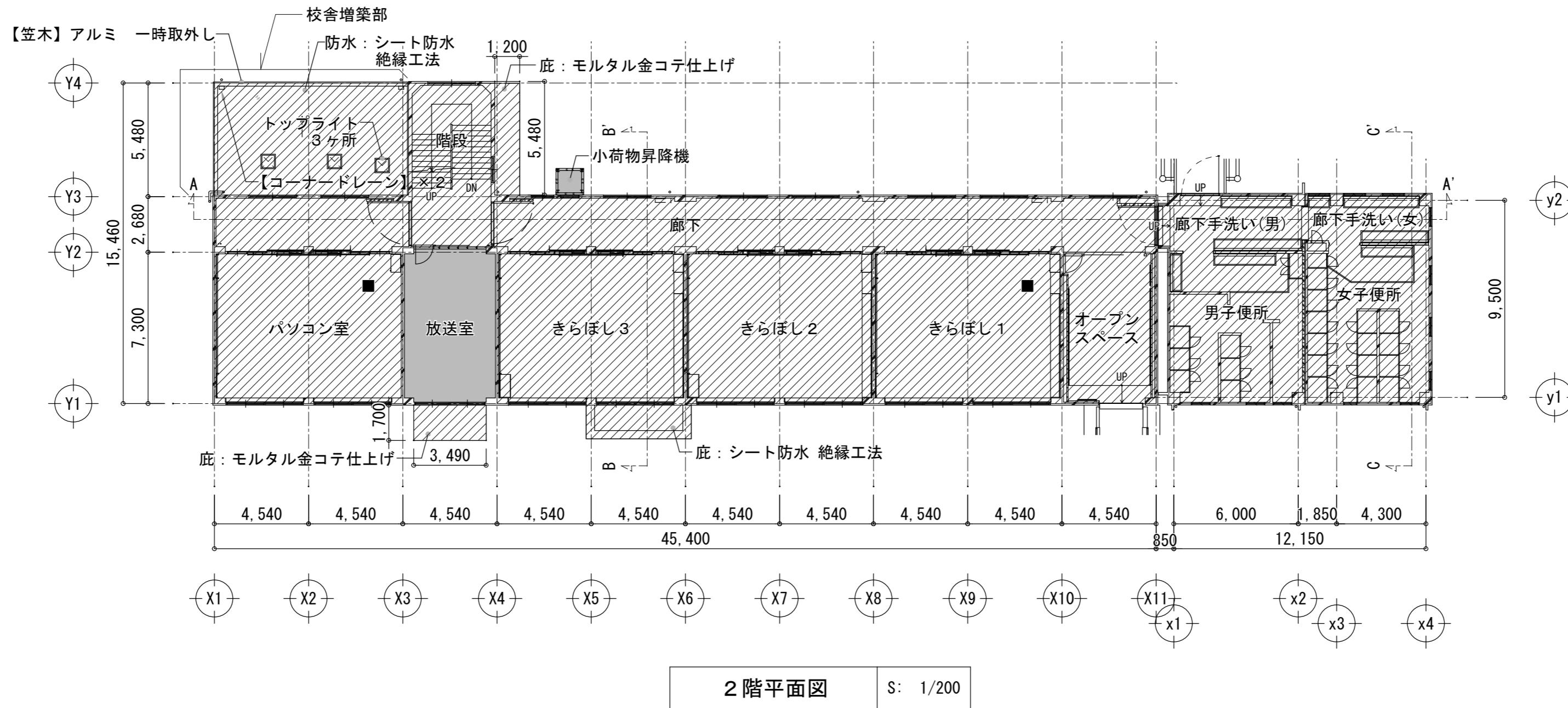
## ・防水下地調整について

撤去跡ケレン清掃の上、ポリマーセメントによる下地調整

室名	床	巾木	腰壁	壁	天井高	廻り縁	天井	備考
玄関ホール	ビニル床シート t=2.0 モルタル金コテ下地 200角磁器質タイル モルタル下地	御影石 H=110 木製 H=110 O P塗装 200角磁器質タイル H=110	杉板 t=18 H=1,000 壁見切り同材	【ビニルクロス】 モルタル金コテ下地	3,000	塩ビ	化粧石膏ボード t=9.5 LGS下地	
フリースペース	ビニル床シート t=2.0 モルタル金コテ下地	木製 H=110 O P塗装		モルタル金コテ仕上げ V P ケイカル板 t=8.0 目透かし E P	2,750	塩ビ	化粧石膏ボード t=9.5 LGS下地	
パソコン室	ナラフローリング t=18 ウレタン塗装 モルタル下地	木製 H=110 O P塗装		モルタル金コテ仕上げ V P 【掲示用クロス】合板下地残し 石膏ボード t=12.5 A E P	3,270		モルタル金コテ仕上げ V P	
きらぼし1、2、3	ナラフローリング t=18 ウレタン塗装 モルタル下地	木製 H=110 O P塗装		モルタル金コテ仕上げ V P 【掲示用クロス】合板下地残し 石膏ボード t=12.5 A E P	3,100	木製 S O P	石膏ボード t=9.5 A E P 木製下地	
オープンスペース	ビニル床シート t=2.0 モルタル金コテ下地	ソフト巾木 H=100		モルタル金コテ仕上げ V P (吹抜) ケイカル板 t=8.0 目透かし E P	5,750(吹抜) 3,370		モルタル金コテ仕上げ V P	
多目的室 非常物資保管室	ナラフローリング t=18 ウレタン塗装 モルタル下地	木製 H=110 O P塗装		モルタル金コテ仕上げ V P 【掲示用クロス】合板下地残し 石膏ボード t=12.5 A E P	3,075	木製 S O P	石膏ボード t=9.5 A E P 木製下地	
廊下	ビニル床シート t=2.0 モルタル金コテ下地 人造石研ぎ出し仕上げ コンクリート下地	木製 H=110 O P塗装 御影石 H=110 人造石研ぎ出し仕上げ H=110	杉板 t=18 H=1,000 壁見切り同材	モルタル金コテ仕上げ V P ビニルクロス モルタル金コテ下地	1階：2,880 2階：2,880 3階：2,780	木製 S O P	石膏ボード t=9.5 A E P 木製下地	
階段	ビニル床シート t=2.0 モルタル金コテ下地 人造石研ぎ出し仕上げ コンクリート下地	木製 H=110 O P塗装		モルタル金コテ仕上げ V P	3階：2,330		モルタル金コテ仕上げ V P	
廊下手洗い(男) 廊下手洗い(女)	【ビニル床シート t=2.0 モルタル金コテ下地】 【モルタル金コテ仕上げ】	【ソフト巾木 H=100】		モルタル金コテ仕上げ V P 【200角ガラスブロック】	1階：2,400 2階：2,450	【塩ビ】	【化粧石膏ボード t=9.5 LGS下地】	【撤去】SUS流し台、SUS床見切り 3方枠、内部Exp. J、上り框 化粧鏡
男子便所 女子便所	【ビニル床シート t=2.0 モルタル金コテ下地】 【20角モザイクタイル モルタル下地】	【ソフト巾木 H=100】		【モルタル金コテ仕上げ V P】 【100角磁器質タイル モルタル下地】 【200角ガラスブロック】	1階：2,400 2階：2,450	【塩ビ】	【化粧石膏ボード t=9.5 LGS下地】	【撤去】SUS流し台、上り框、化粧鏡 SUS床見切り
男子職員便所 女子職員便所 外便所	【20角モザイクタイル モルタル下地】			【100角磁器質タイル モルタル下地】	2,400	【塩ビ】	【化粧石膏ボード t=9.5 LGS下地】	【撤去】面台、手洗いカウンター 化粧鏡

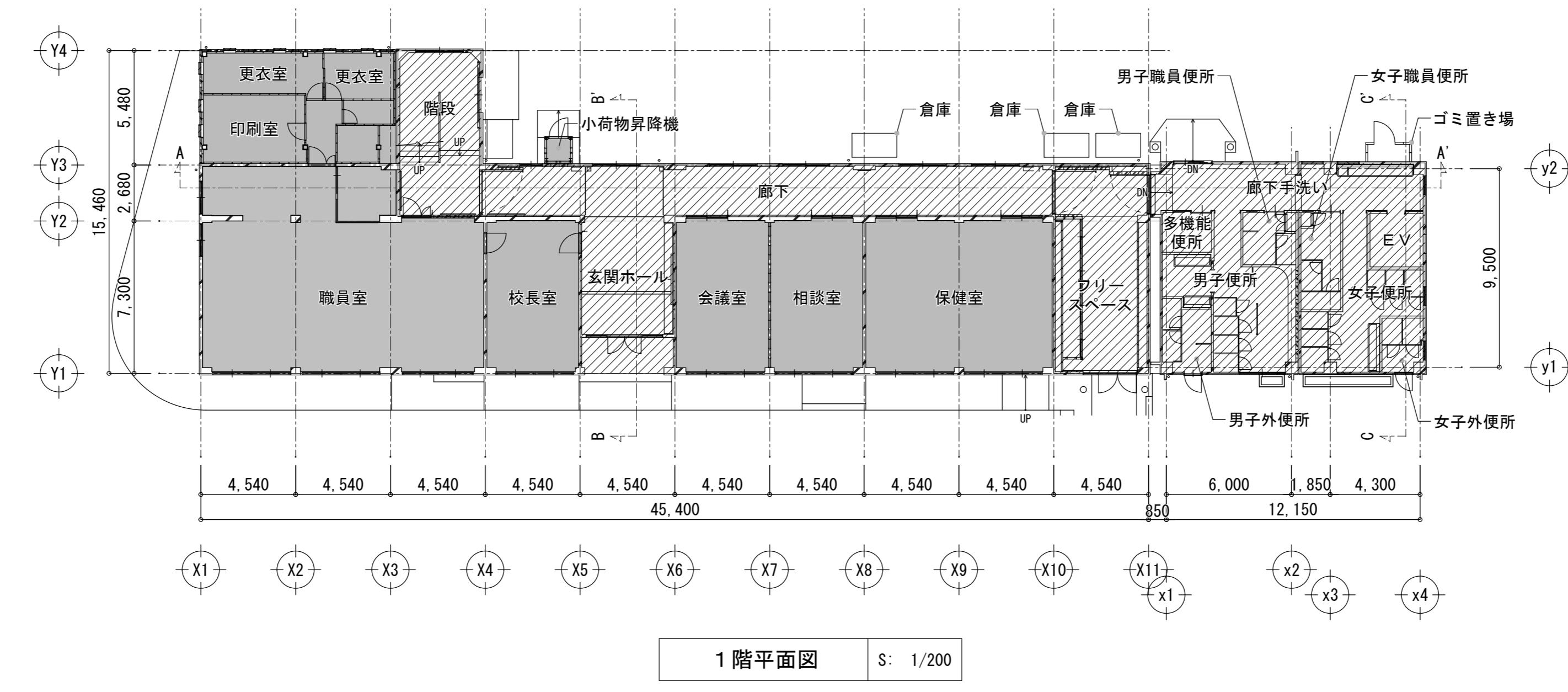
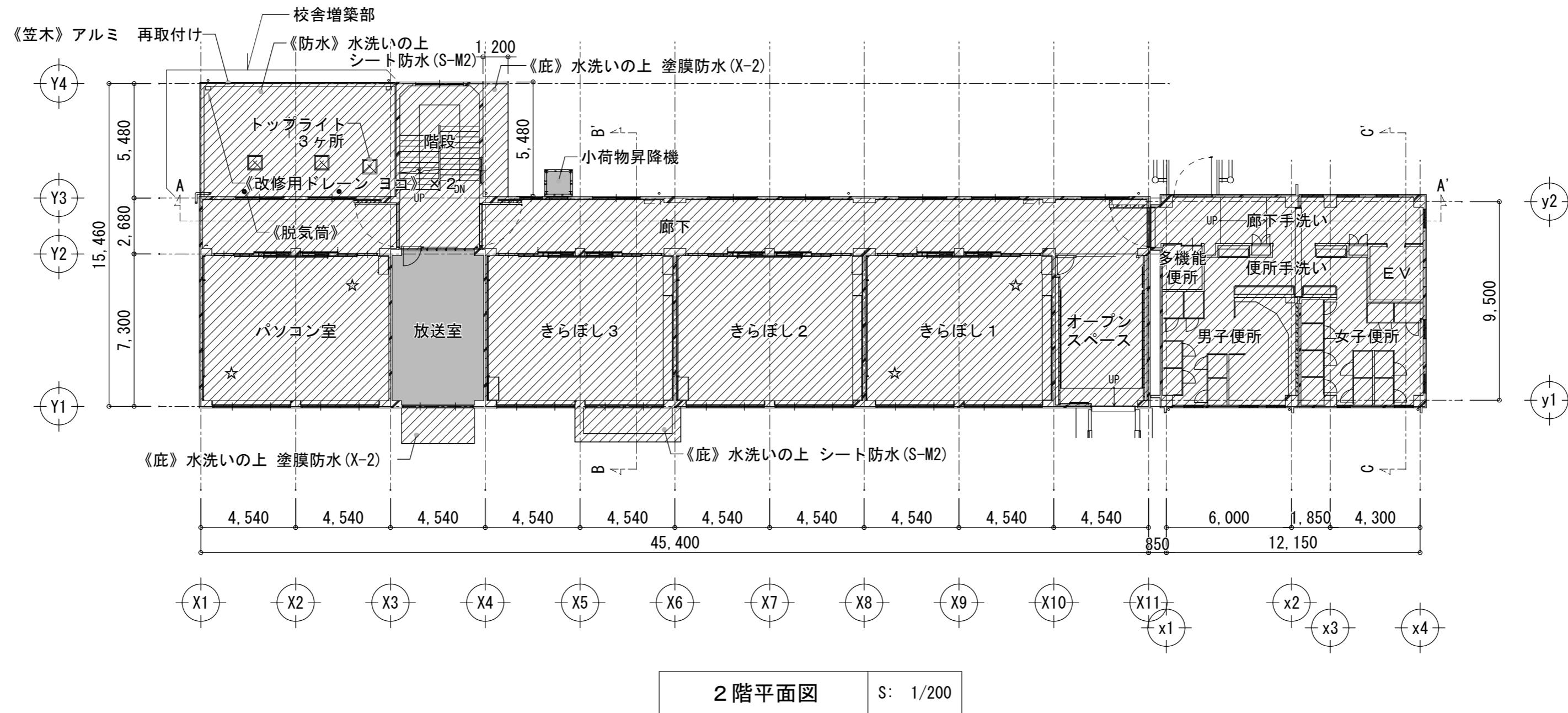
内部仕上表

室名	床	巾木	腰壁	壁	天井高	廻り縁	天井	備考
玄関ホール	ビニル床シート t=2.0 モルタル金コテ下地	御影石 H=110	杉板 t=18 H=1,000 壁見切り同材	《ビニルクロス》 モルタル金コテ下地	3,000	塩ビ	化粧石膏ボード t=9.5 LGS下地	
	20角モザイクタイル モルタル金コテ下地	木製巾木《下地調整の上 S O P再塗装》						
	200角磁器質タイル H=110							
フリースペース	ビニル床シート t=2.0 モルタル金コテ下地	木製巾木 《下地調整の上 S O P再塗装》		モルタル部分《下地調整の上 E P塗替え》 《下地調整の上 E P塗替え》	2,750	塩ビ	化粧石膏ボード t=9.5 LGS下地	
パソコン室	ナラフローリング t=18 ウレタン塗装 モルタル下地	木製巾木《下地調整の上 S O P再塗装》		《下地調整の上 E P塗替え》 《掲示用クロス》合板下地再利用	3,270		《下地調整の上 E P塗替え》	
きらぼし1、2、3	ナラフローリング t=18 ウレタン塗装 モルタル下地	木製巾木《下地調整の上 S O P再塗装》		《下地調整の上 E P塗替え》 《掲示用クロス》合板下地再利用	3,100	《下地調整の上 S O P再塗装》	《下地調整の上 E P塗替え》	
オープンスペース	ビニル床シート t=2.0 モルタル金コテ下地	ソフト巾木 H=100		《下地調整の上 E P塗替え》	5,750(吹抜) 3,370		《下地調整の上 E P塗替え》	
多目的室 非常物資保管室	ナラフローリング t=18 ウレタン塗装 モルタル下地	木製巾木 《下地調整の上 S O P再塗装》		《下地調整の上 E P塗替え》	3,075	《下地調整の上 S O P再塗装》	《下地調整の上 E P塗替え》	
廊下	ビニル床シート t=2.0 モルタル金コテ下地	木製巾木《下地調整の上 S O P再塗装》	杉板 t=18 H=1,000 壁見切り同材	モルタル部分 《下地調整の上 E P塗替え》	1階：2,880 2階：2,880 3階：2,780	《下地調整の上 S O P再塗装》	《下地調整の上 E P塗替え》	
	テラゾー コンクリート下地	御影石 H=110		ビニルクロス モルタル金コテ下地				
	人造石研ぎ出し仕上げ H=110							
階段	ビニル床シート t=2.0 モルタル金コテ下地	木製巾木 《下地調整の上 S O P再塗装》		モルタル部分 《下地調整の上 E P塗替え》	3階：2,330	塩ビ	《下地調整の上 E P塗替え》	
1階廊下手洗い 2階廊下手洗い	《ビニル床シート t=2.5 モルタル金コテ下地》	《ソフト巾木 H=100》		《耐水P B t=12.5(LGS)下地の上 E P》 《強化P B t=21+21(LGS)下地の上 E P》 《下地調整の上 E P塗替え》	1階：2,400 2階：2,450	《塩ビ》	《化粧石膏ボード t=9.5 LGS下地》	《新設》SUS床見切り、スチール3方枠、スチール縦見切り、内部Exp. J.掃除具入れ、SUS流し、化粧鏡
多機能便所	《ビニル床シート t=2.5 モルタル金コテ下地》	《ソフト巾木 H=300》	《化粧ケイカル板 t=6.0 耐水P B t=12.5(LGS100) 下地》H=850	《化粧ケイカル板 t=6.0 耐水P B t=12.5(LGS)下地》 《化粧ケイカル板 t=6.0 耐水P B t=12.5(GL工法)下地》	2,400	《塩ビ》	《化粧石膏ボード t=9.5 LGS下地》	《新設》面台、ピクトサイン
男子便所 女子便所 男子職員便所 女子職員便所 便所手洗い	《ビニル床シート t=2.5 モルタル金コテ下地》	《ソフト巾木 H=100》	《化粧ケイカル板 t=6.0 耐水P B t=12.5(LGS100) 下地》H=1,300	《化粧ケイカル板 t=6.0 耐水P B t=12.5(LGS)下地》 《化粧ケイカル板 t=6.0 強化P B t=21+21(LGS)下地》 《化粧ケイカル板 t=6.0 耐水P B t=12.5(GL工法)下地》	1階：2,400 2階：2,450	《塩ビ》	《化粧石膏ボード t=9.5 LGS下地》	《新設》SUS床見切り、スチール3方枠、スチール縦見切り、内部Exp. J.掃除具入れ、SUS流し、面台、汚垂タイル、ピクトサイン、化粧鏡
男子外便所 女子外便所	《300角磁器質タイル モルタル下地》	《ソフト巾木 H=100》	《化粧ケイカル板 t=6.0 耐水P B t=12.5(LGS100) 下地》H=1,300	《化粧ケイカル板 t=6.0 耐水P B t=12.5(LGS)下地》 《化粧ケイカル板 t=6.0 耐水P B t=12.5(GL工法)下地》	2,400	《塩ビ》	《化粧石膏ボード t=9.5 LGS下地》	《新設》面台、ピクトサイン、汚垂タイル

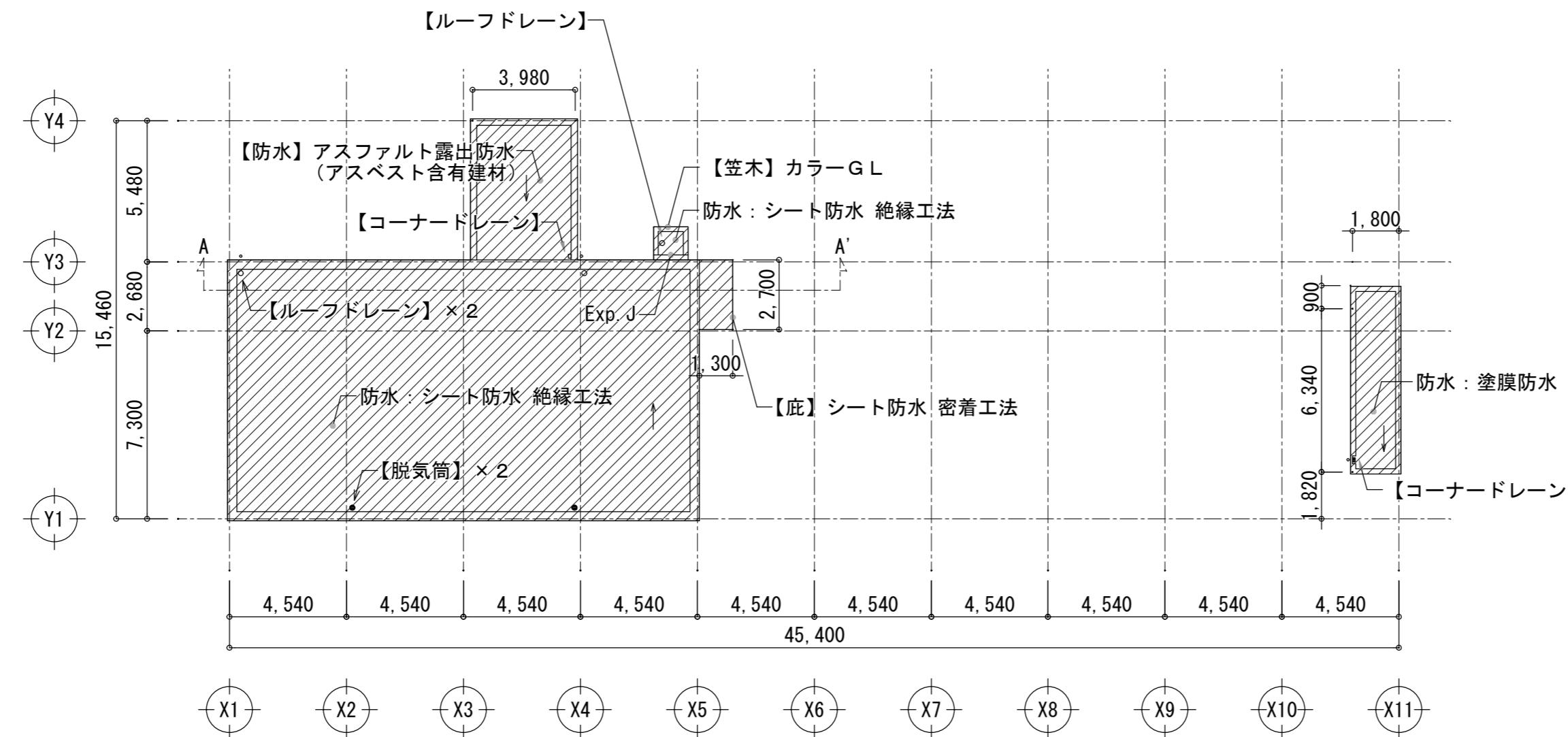


凡例

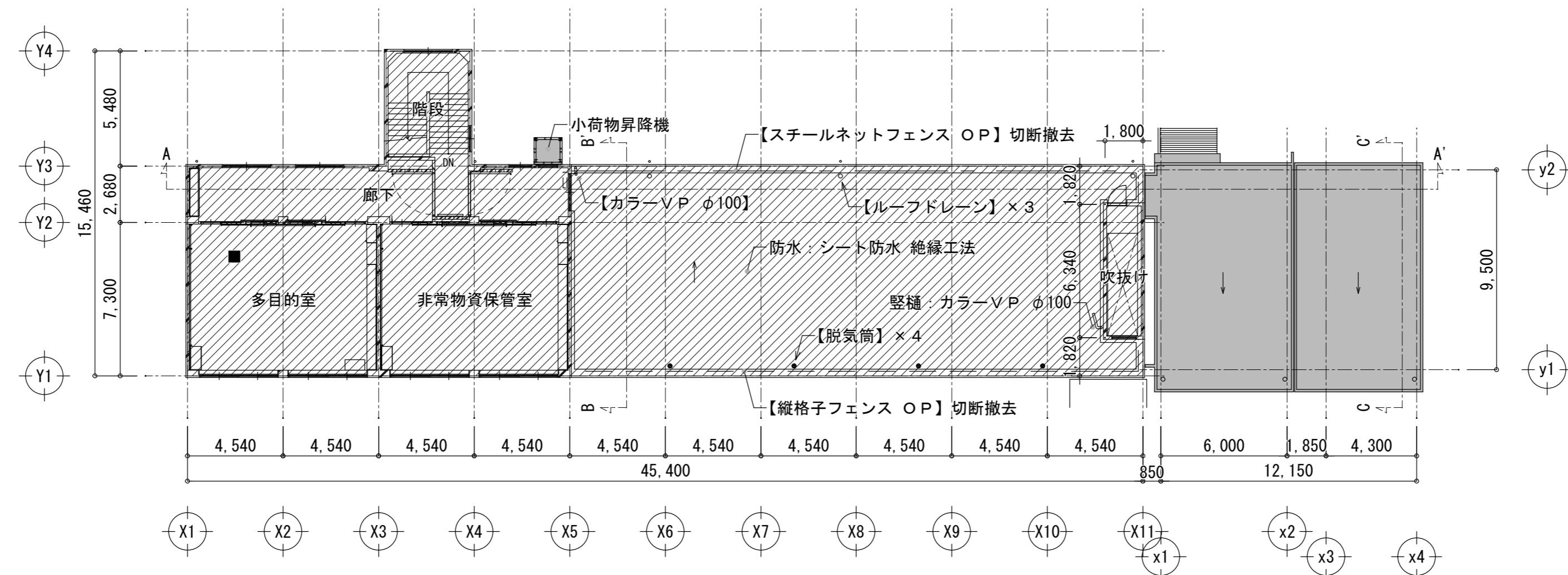
-  改修範囲を示す
-  改修範囲外を示す
- 工事着手前化学物質濃度測定箇所を示す



アルテック設計	一級建築士 第177266号 伊藤 公智	DRAWING BY DATA	原図: A2 【】内は撤去を示す。 《》内は新設を示す。 カッコ無しのものは既存のまます。	津市立安濃小学校長寿命化改修工事	平面図1 (改修後)	A - 14 S: 1/200
---------	-------------------------	--------------------	--	------------------	------------	--------------------



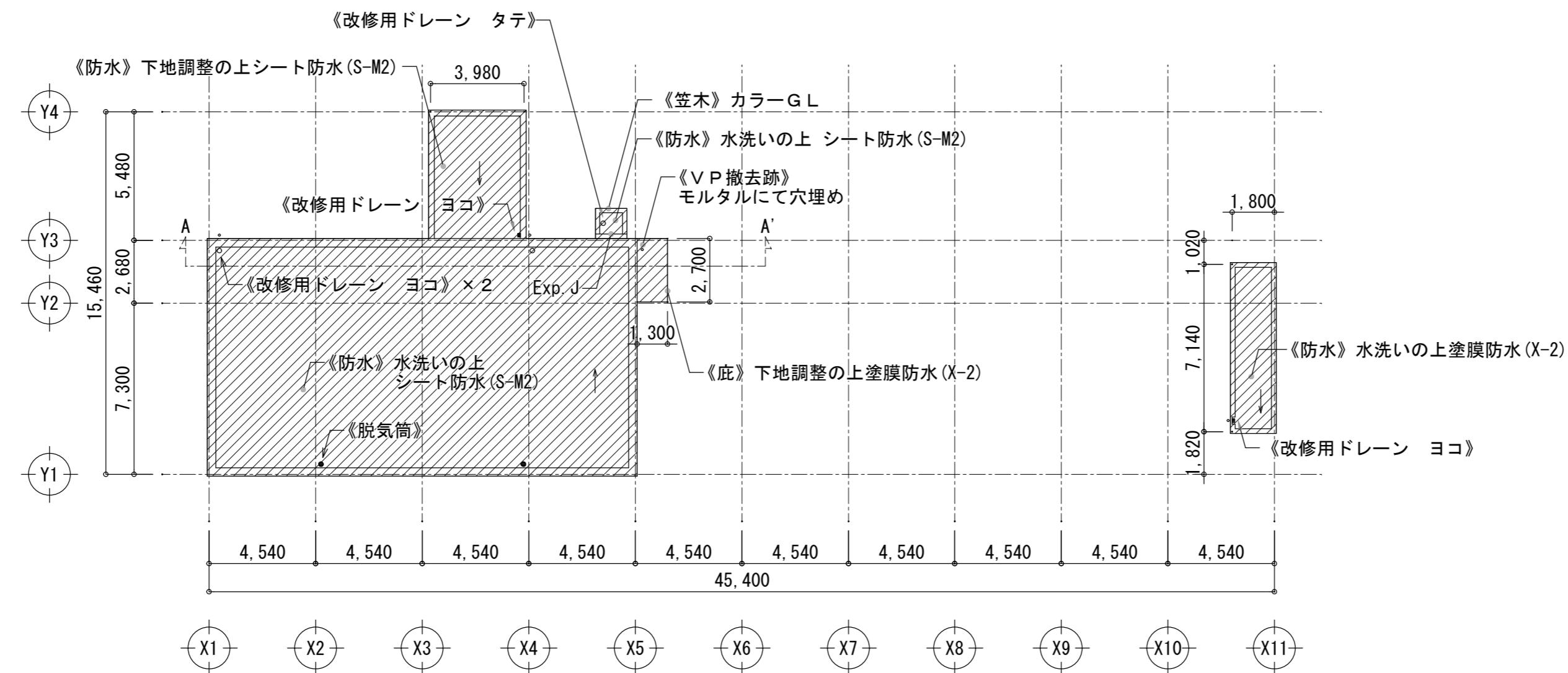
R階平面図 S: 1/200



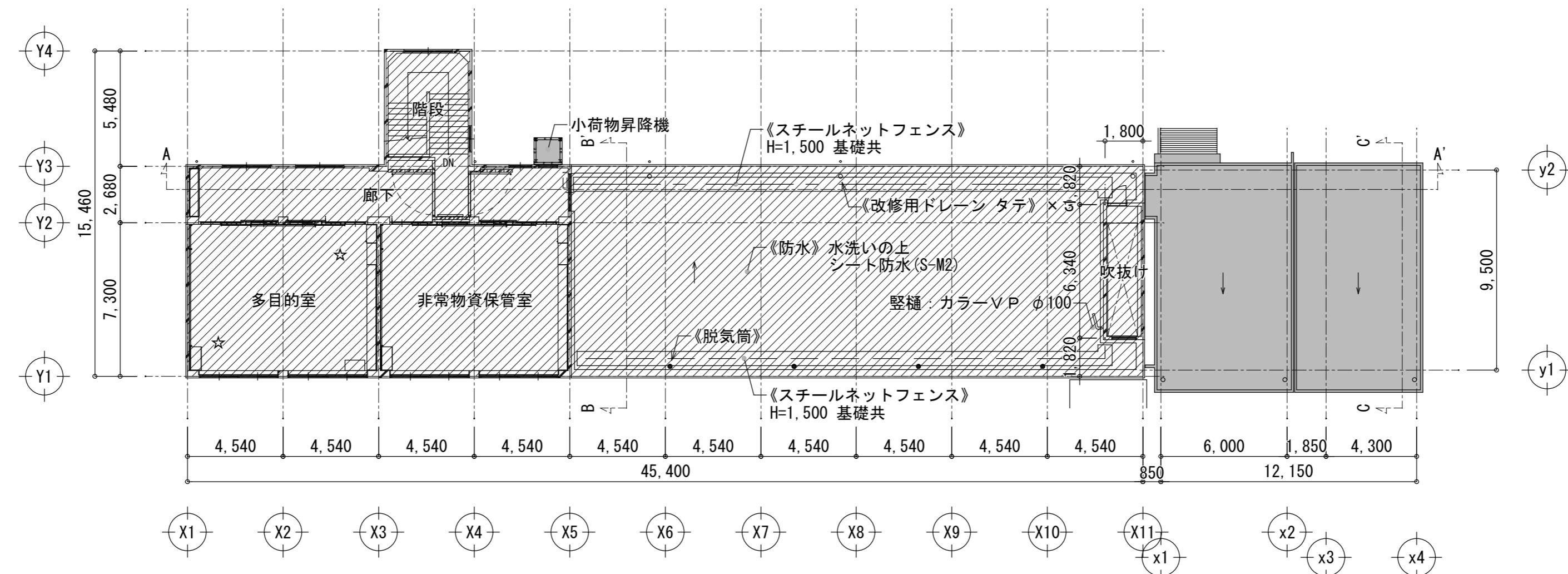
3階平面図 S: 1/200

- 凡例
- 改修範囲を示す
  - 改修範囲外を示す
  - 工事着手前化学物質濃度測定箇所を示す

アルテック設計	一級建築士 第177266号 伊藤 公智	DRAWING BY DATA	原図: A2 【】内は撤去を示す。 《》内は新設を示す。 カッコ無しのものは既存のまます。	津市立安濃小学校長寿命化改修工事	平面図2 (改修前)	A - 15 S: 1/200
---------	-------------------------	--------------------	--	------------------	------------	--------------------



R階平面図 S: 1/200



3階平面図 S: 1/200

凡例

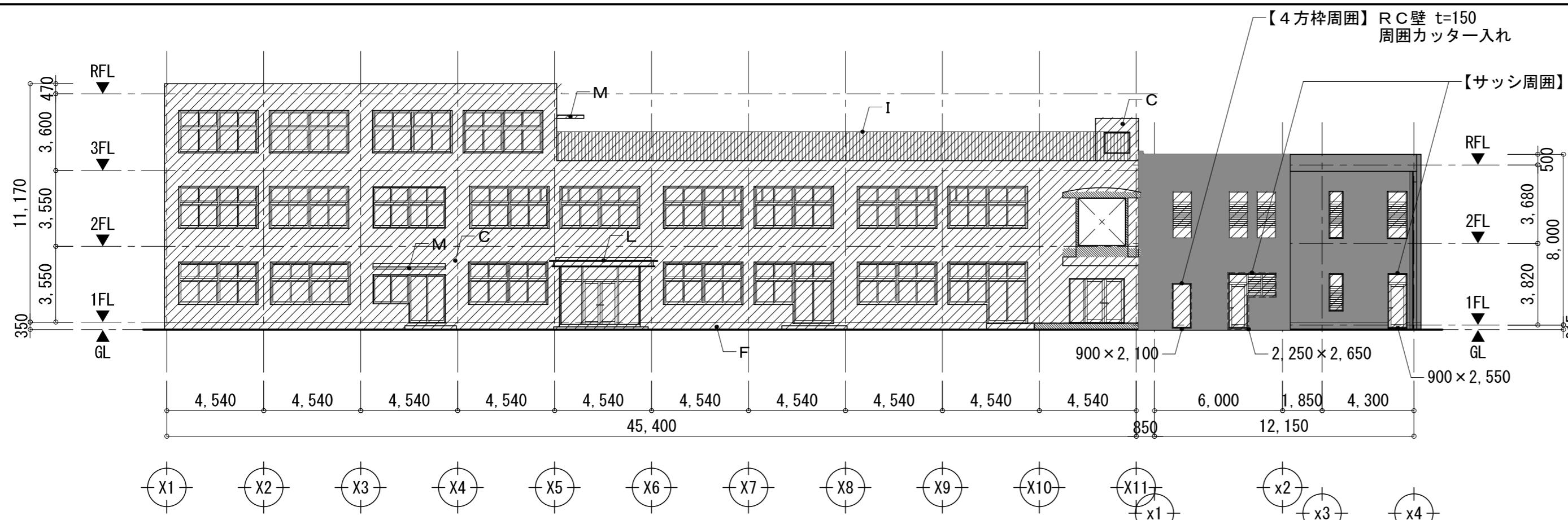
改修範囲を示す
改修範囲外を示す
工事完了時化学物質濃度測定箇所を示す

A - 16

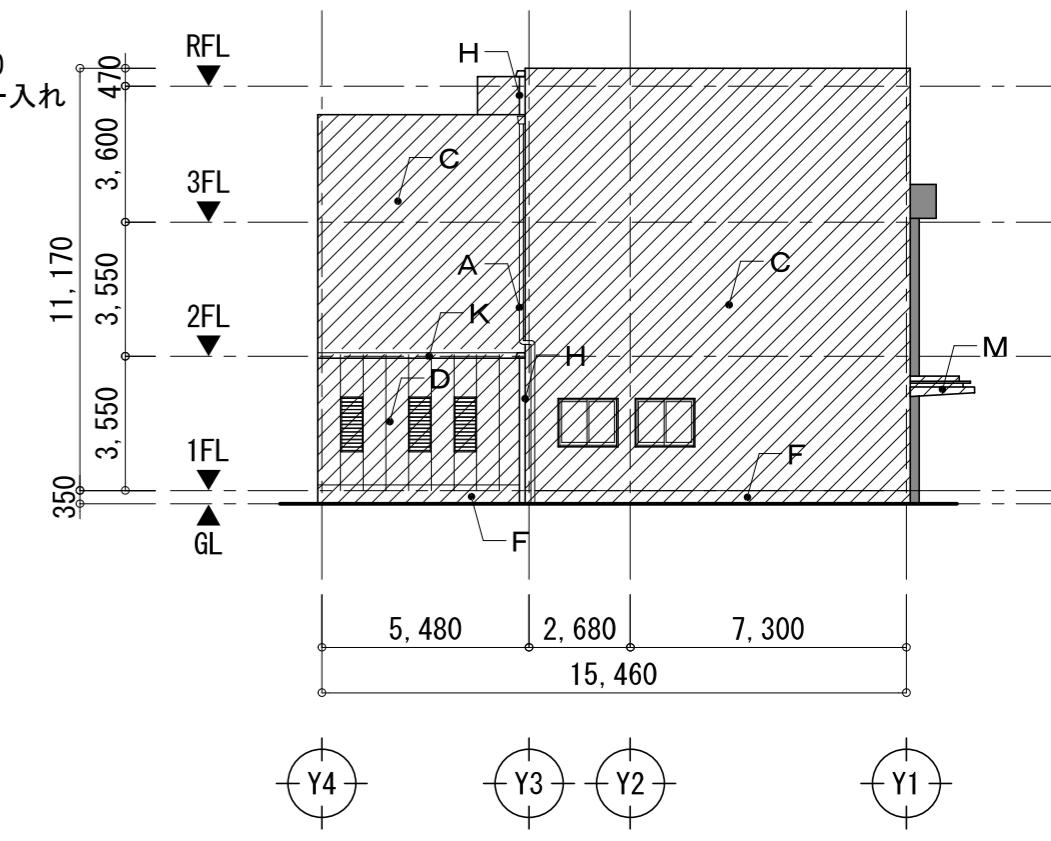
平面図2 (改修後)

S: 1/200

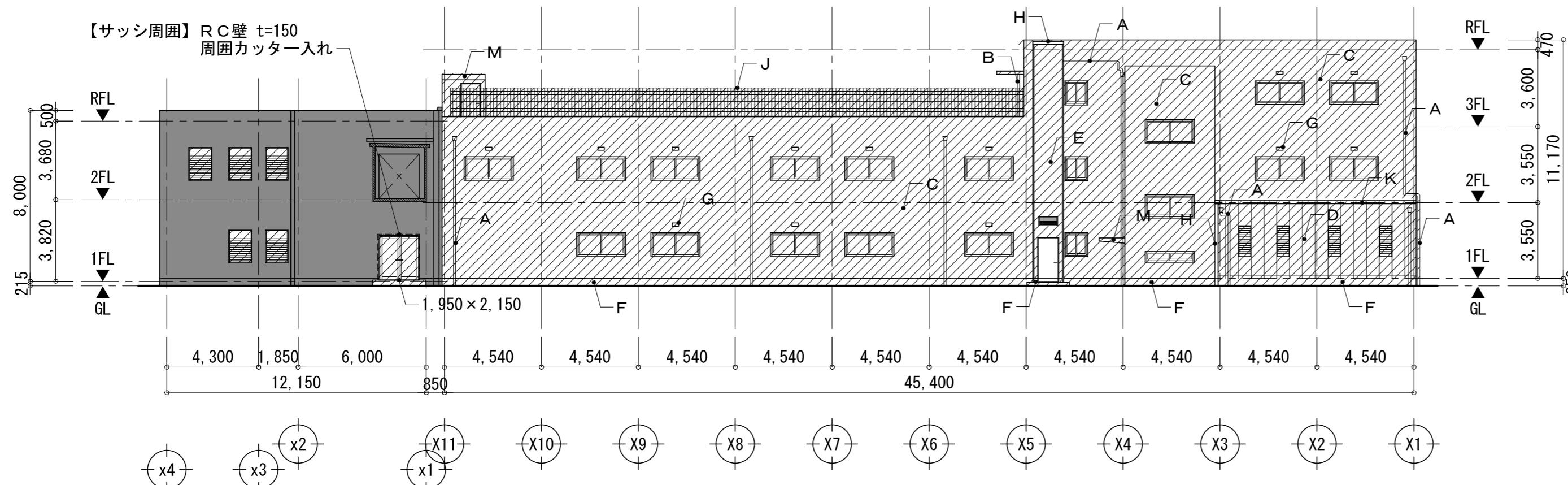
アルテック設計	一級建築士 第177266号 伊藤 公智	DRAWING BY DATA	原図: A2 【】内は撤去を示す。 〔〕内は新設を示す。 カッコ無しのものは既存のまます。	津市立安濃小学校長寿命化改修工事	A - 16
津市大谷町233番地 TEL 059-225-1602				平面図2 (改修後)	S: 1/200



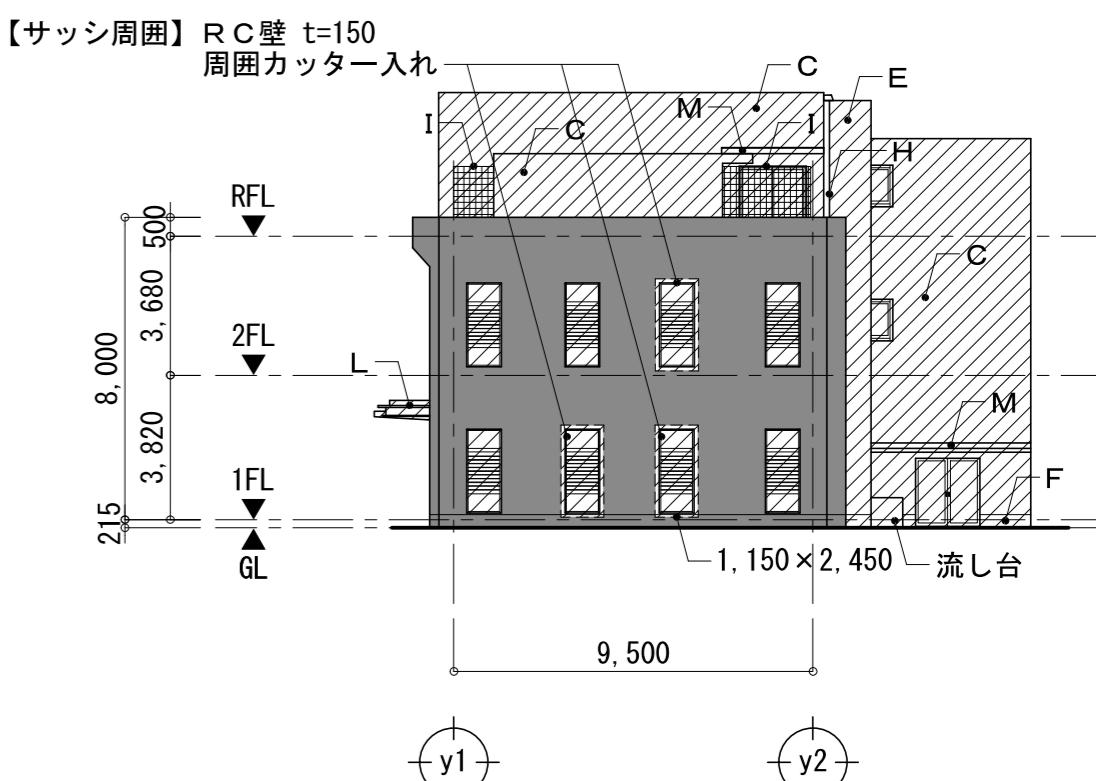
南立面図 S: 1/200



西立面図 S: 1/200



北立面図 S: 1/200



東立面図 S: 1/200

外部仕上表 (改修前)									
A	壁	カラーV P $\phi$ 100	H	EXP. J	SUS製 1時間耐火				
B		【カラーV P $\phi$ 100】撤去跡穴埋め	I	フェンス	【スチールネットフェンス OP】切削撤去				
C		校舎本体 外装薄塗材E モルタル下地	J		【縦格子フェンス OP】切削撤去				
D	外壁	校舎増築部 A L Cパネル t=100 複層塗材E	K	パラベット	アルミ笠木				
E		小荷物昇降機 ケイカル積層板 t=30 A E P	L	庇見付け	玄関庇 アルミパネル加工				
F	巾木	モルタル刷毛引き仕上げ	M		躯体庇 外装薄塗材E モルタル下地				
G	壁換気孔	パンチングメタル S OP 13ヶ所							

躯体の改修について(パラベット・庇・外壁・巾木・犬走り)

◆躯体浮きの改修方法

- ・アンカービンディング部分エポキシ樹脂注入工法 (一般部: 16本/m<sup>2</sup>、25ml/穴)
- ・アンカービンディング部分エポキシ樹脂注入工法 (見上面、庇鼻先、マグサ隅角部: 25本/m<sup>2</sup>、25ml/穴)

◆躯体ひび割れの改修方法

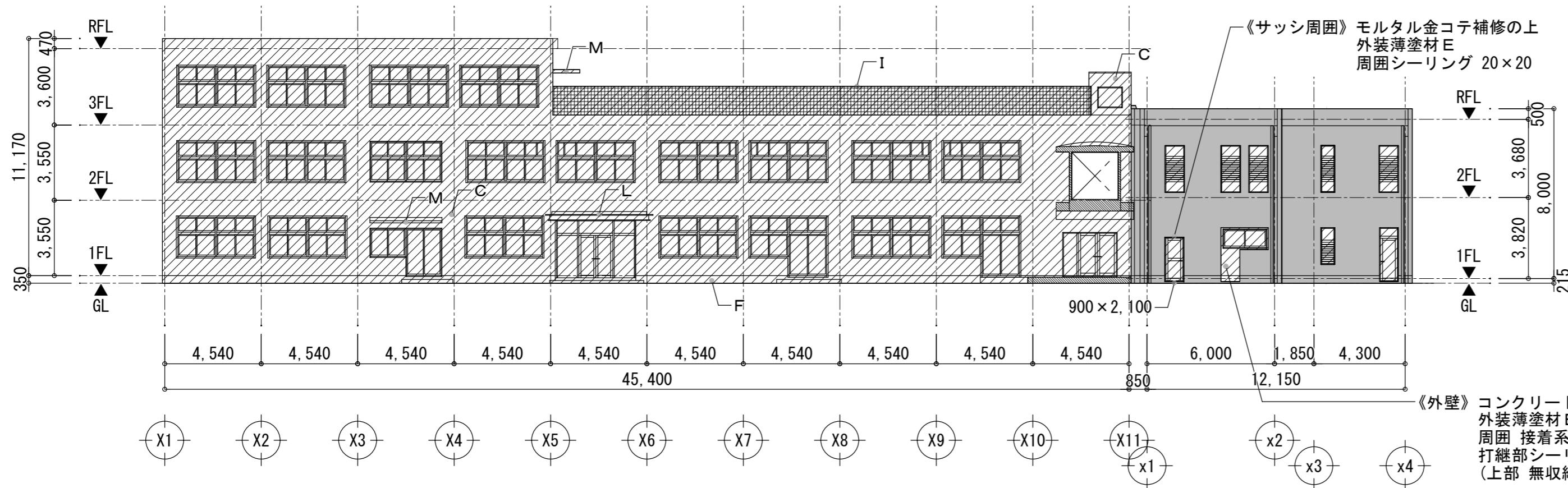
- ・自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 (1mm以下)
- ・Uカットシール材充填工法 (1mm以上)

凡例

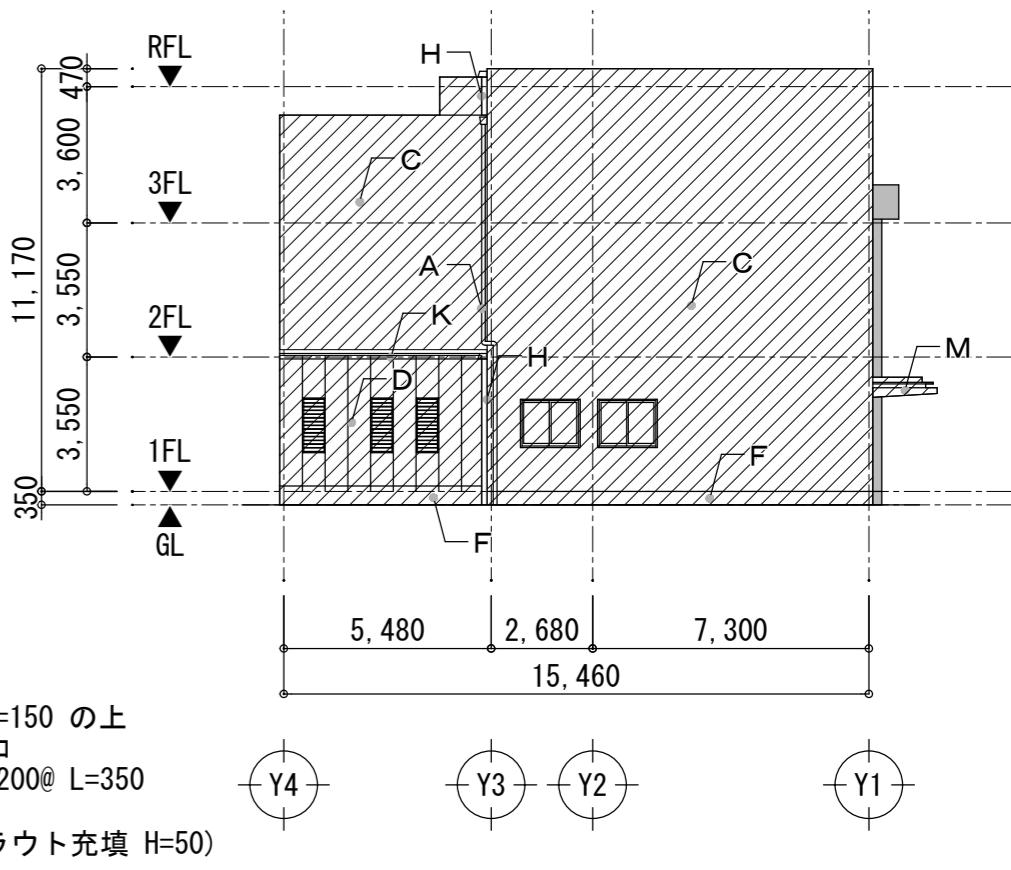
改修範囲を示す

- ◆躯体欠損、爆裂の改修方法
- ・鉄筋防錆の上、樹脂モルタル充填
- ◆打継誘発目地はシール打替えを行う。
- ◆既存フィルム貼り撤去すること。

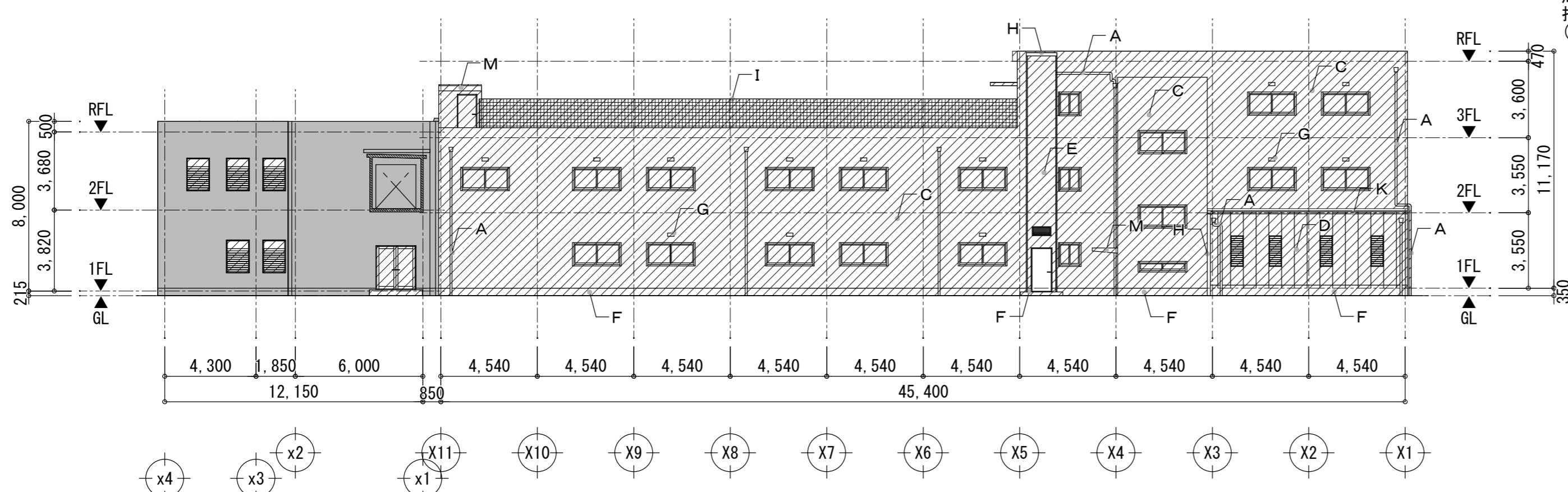
改修範囲外を示す



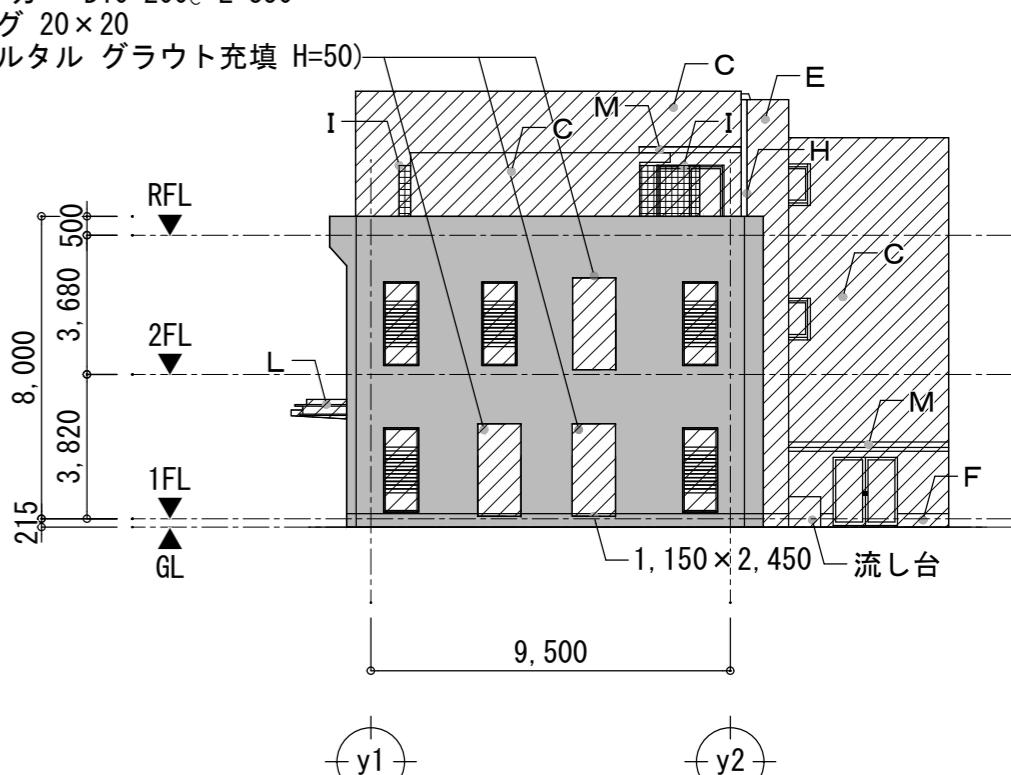
南立面図 S: 1/200



西立面図 S: 1/200



北立面図 S: 1/200



東立面図 S: 1/200

外部仕上表 (改修後)						
A	壁	《下地調整の上 E P塗替え》	H	EXP. J	SUS製 1時間耐火	
B	壁		I	フェンス	《スチールネットフェンス》 H=1,500 基礎共	
C	外壁	校舎本体《水洗いの上 複層塗材E塗替え》	J			
D	外壁	校舎増築部《水洗いの上 複層塗材E塗替え》	K	パラペット	アルミ笠木	
E		小荷物昇降機《水洗いの上 下地調整 複層塗材E塗替え》	L	庇見付け	玄関庇 アルミパネル加工	
F	巾木	《水洗い》	M		躯体庇《水洗いの上 外装薄塗材E塗替え》	
G	壁換気孔	《下地調整RB種の上 DP塗替え》13ヶ所				

躯体の改修について(パラペット・庇・外壁・巾木・犬走り)

◆躯体浮きの改修方法

- ・アンカービンニング部分エポキシ樹脂注入工法 (一般部: 16本/m<sup>2</sup>、25ml/穴)
- ・アンカービンニング部分エポキシ樹脂注入工法 (見上面、庇鼻先、マグサ隅角部: 25本/m<sup>2</sup>、25ml/穴)

◆躯体ひび割れの改修方法

- ・自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 (1mm以下)
- ・Uカットシール材充填工法 (1mm以上)

◆躯体欠損、爆裂の改修方法

- ・鉄筋防鏽の上、樹脂モルタル充填

凡例

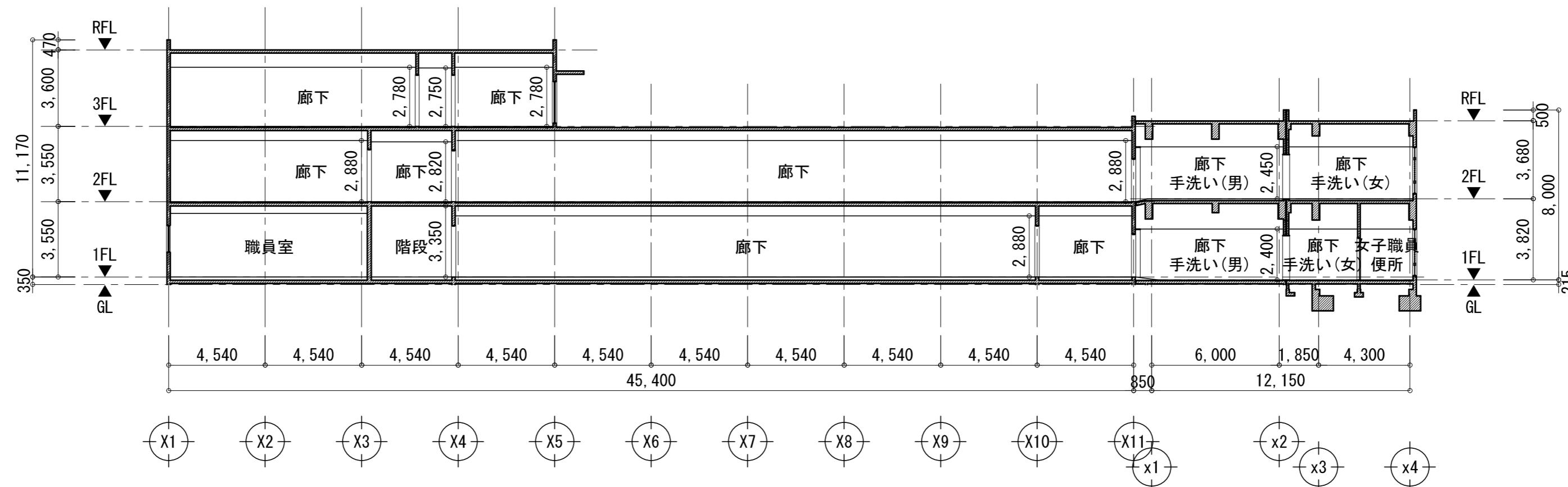
改修範囲を示す

◆打継誘発目地はシール打替えを行う。

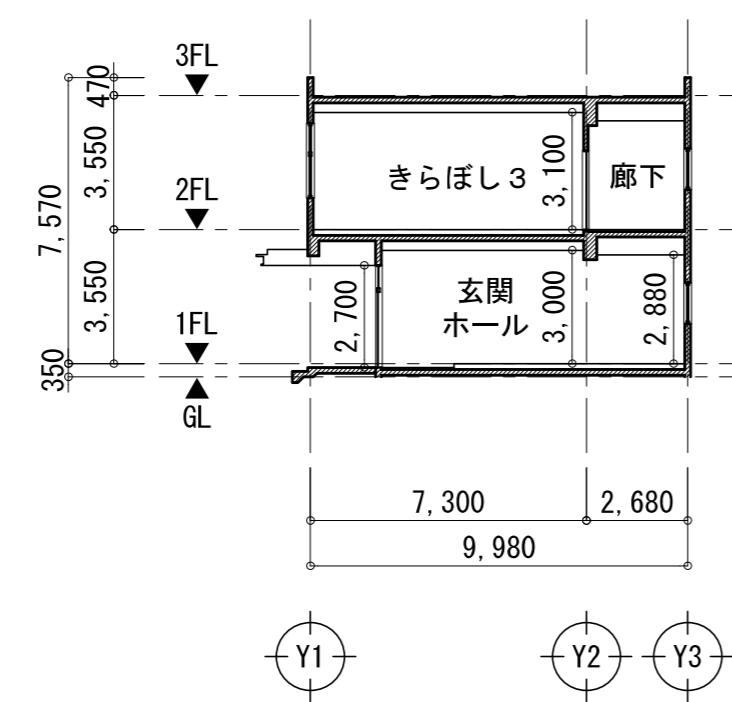
◆盤・BOX等については、下地調整RB種の上、DP塗りとする。

◆フィルム貼新設とする。(設置箇所は、建具表による)

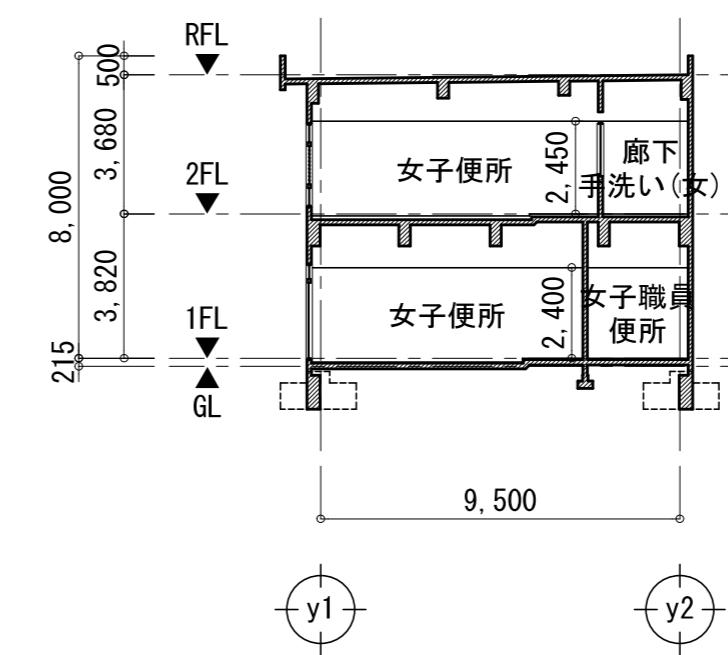
改修範囲外を示す



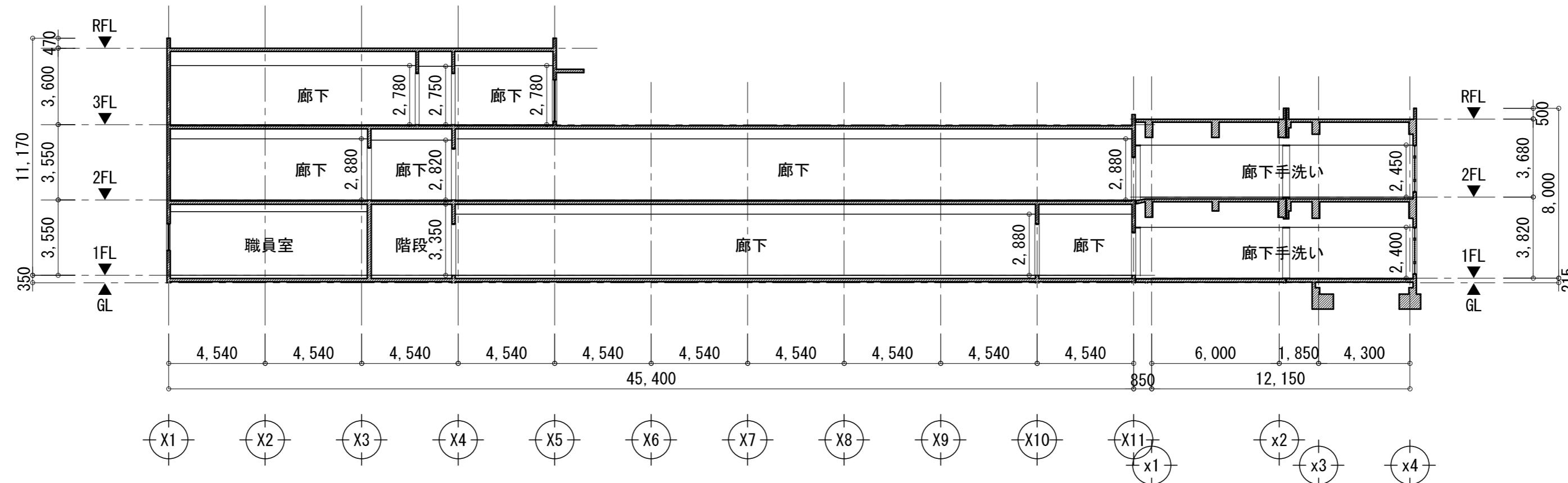
A-A' 断面図 S: 1/200



B-B' 断面図 S: 1/200

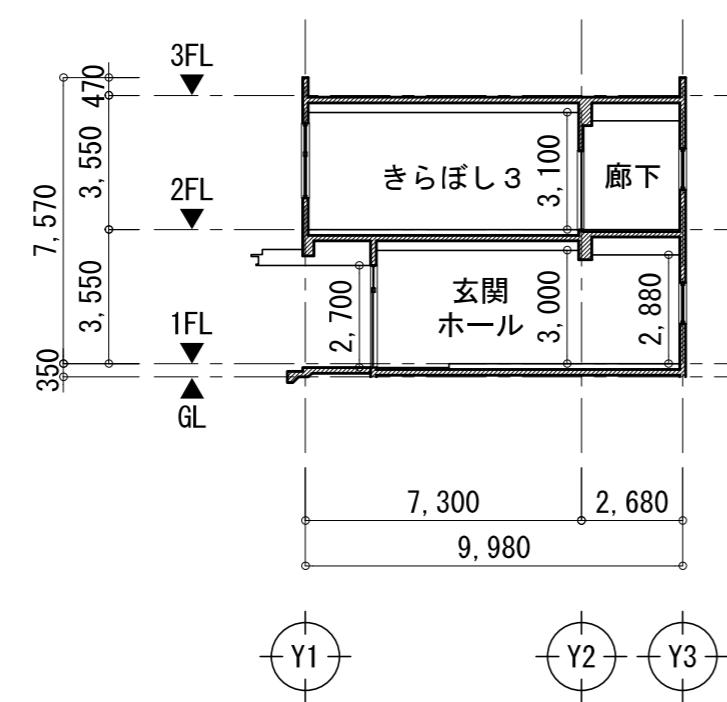


C-C' 断面図 S: 1/200

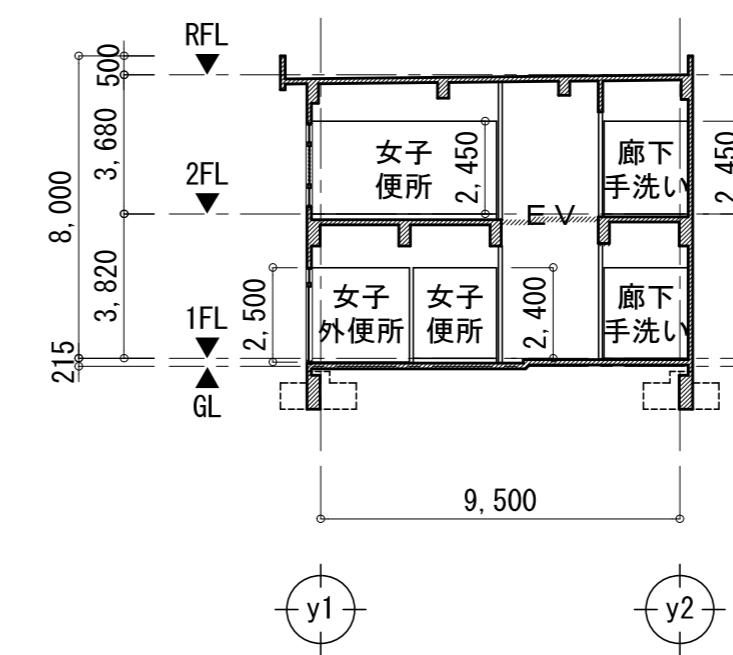


A-A' 断面図

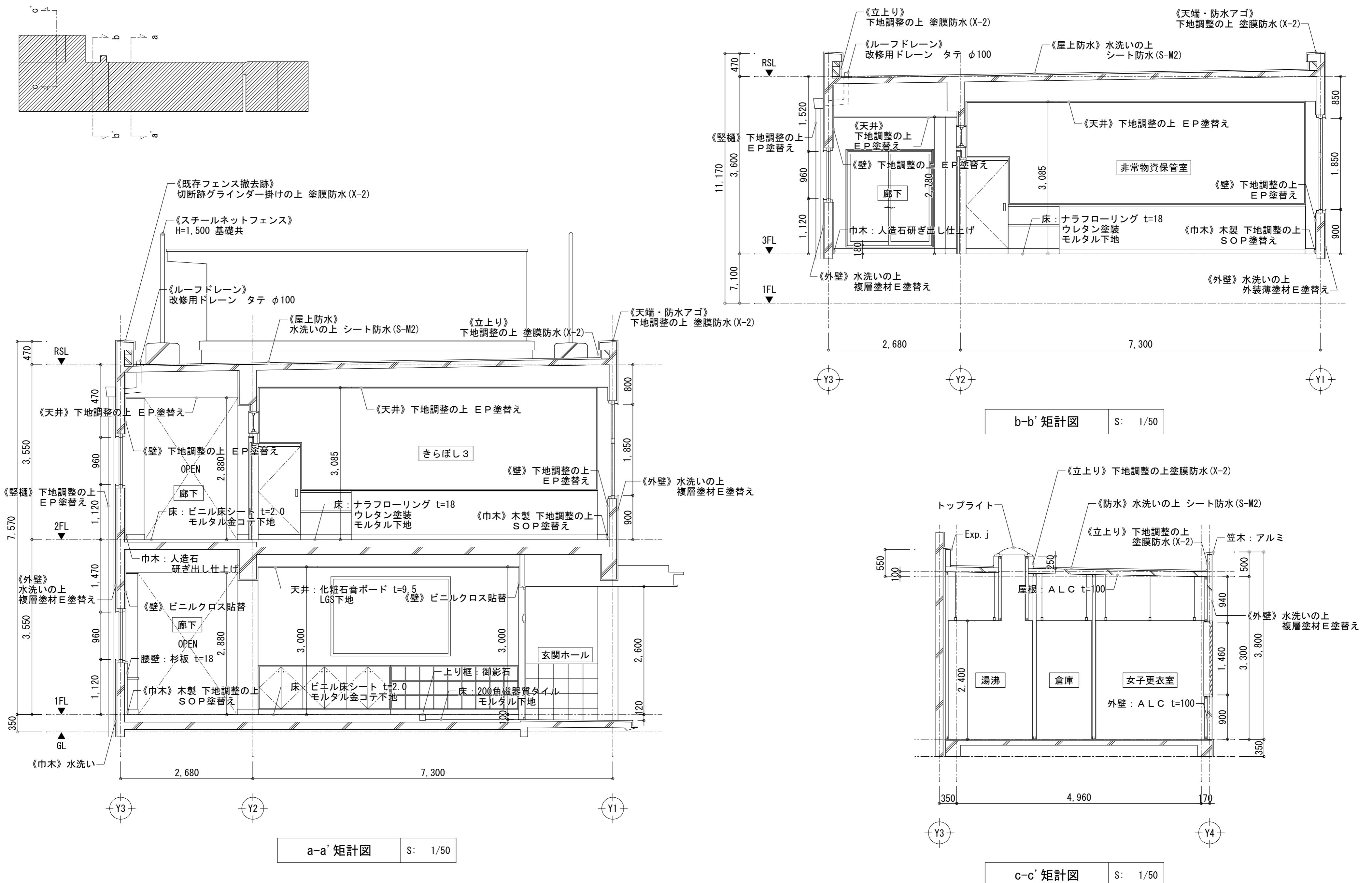
※ 便所棟 1 F L = 校舎中央棟 1 F L-135  
※ 便所棟 2 F L = 校舎中央棟 2 F L+135

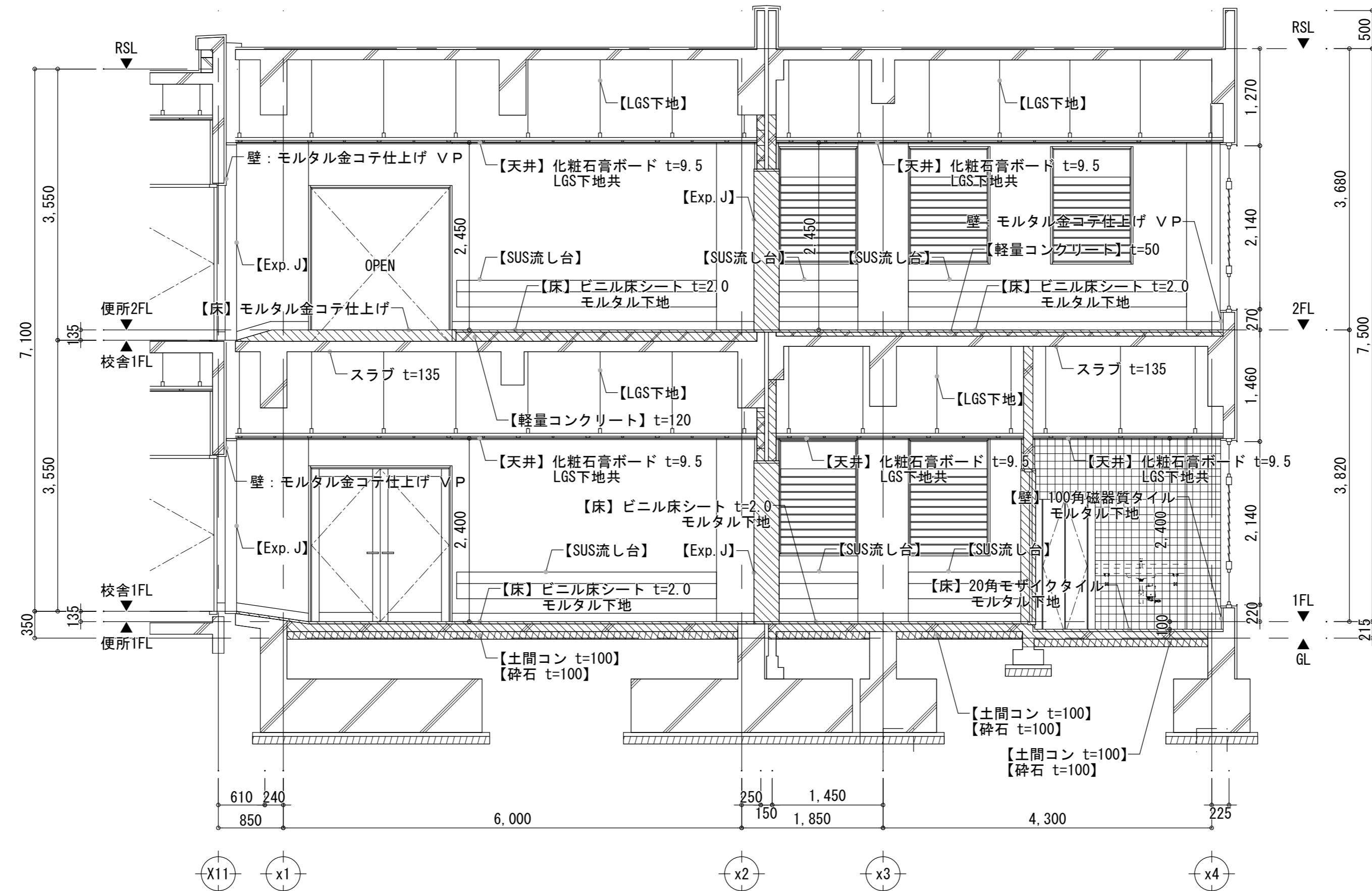
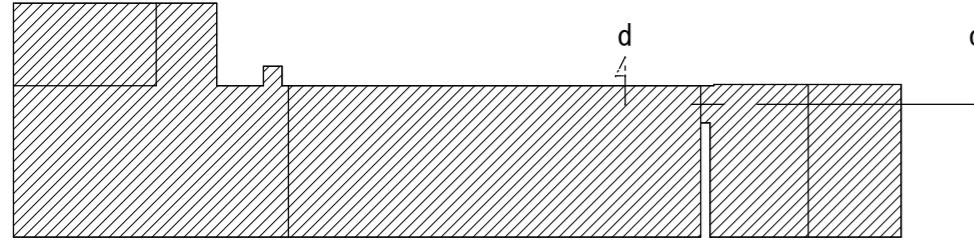


B-B' 断面図 S: 1/20



C-C' 断面図





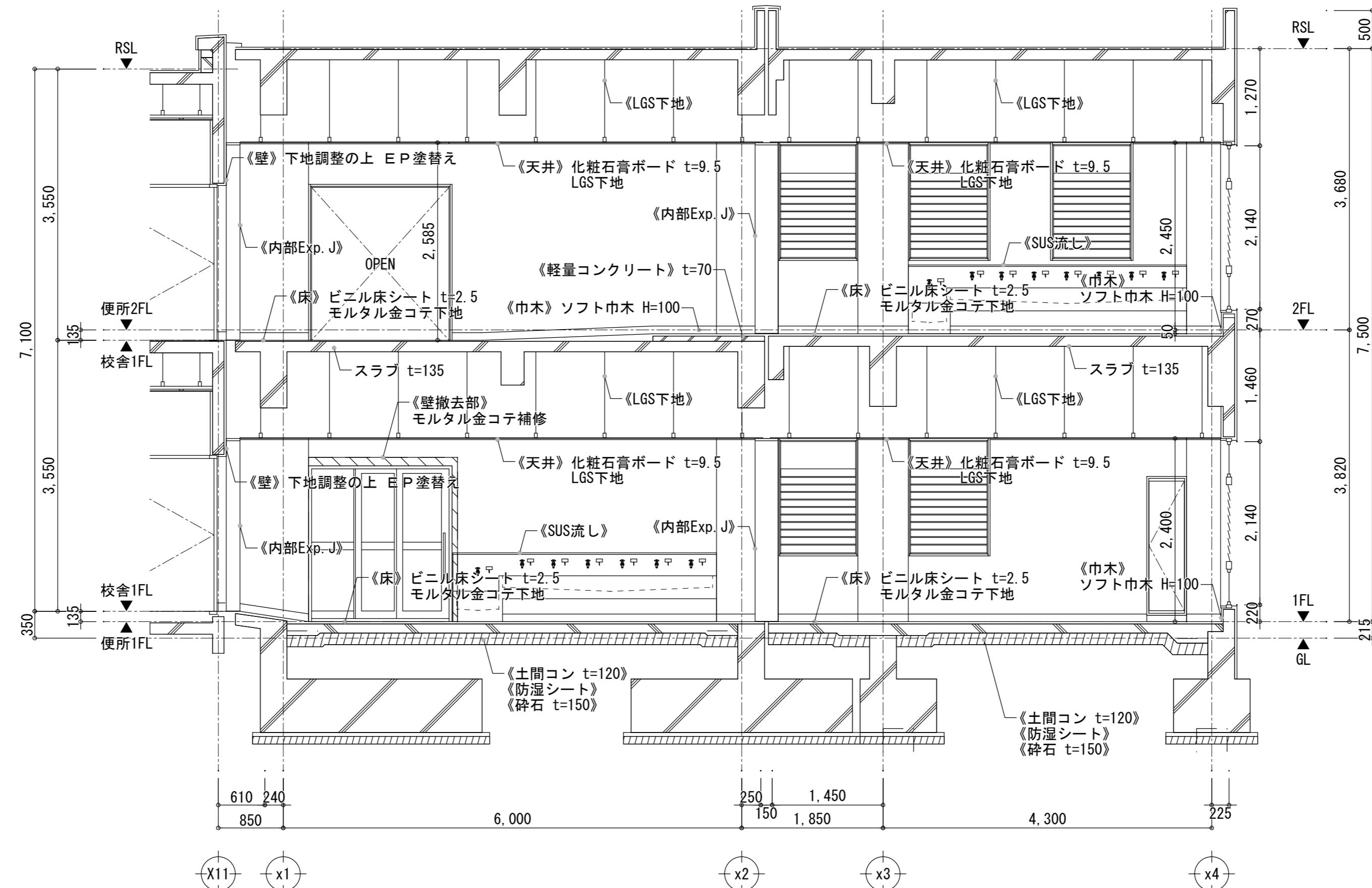
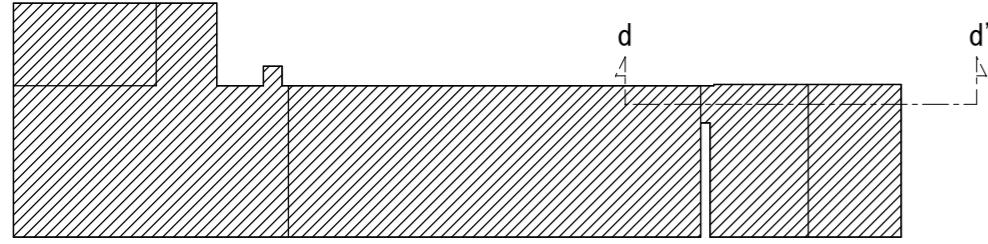
d-d' 矩計図

S: 1/50

凡例

撤去範囲を示す  
周囲カッター入れ共 (R C・C B)

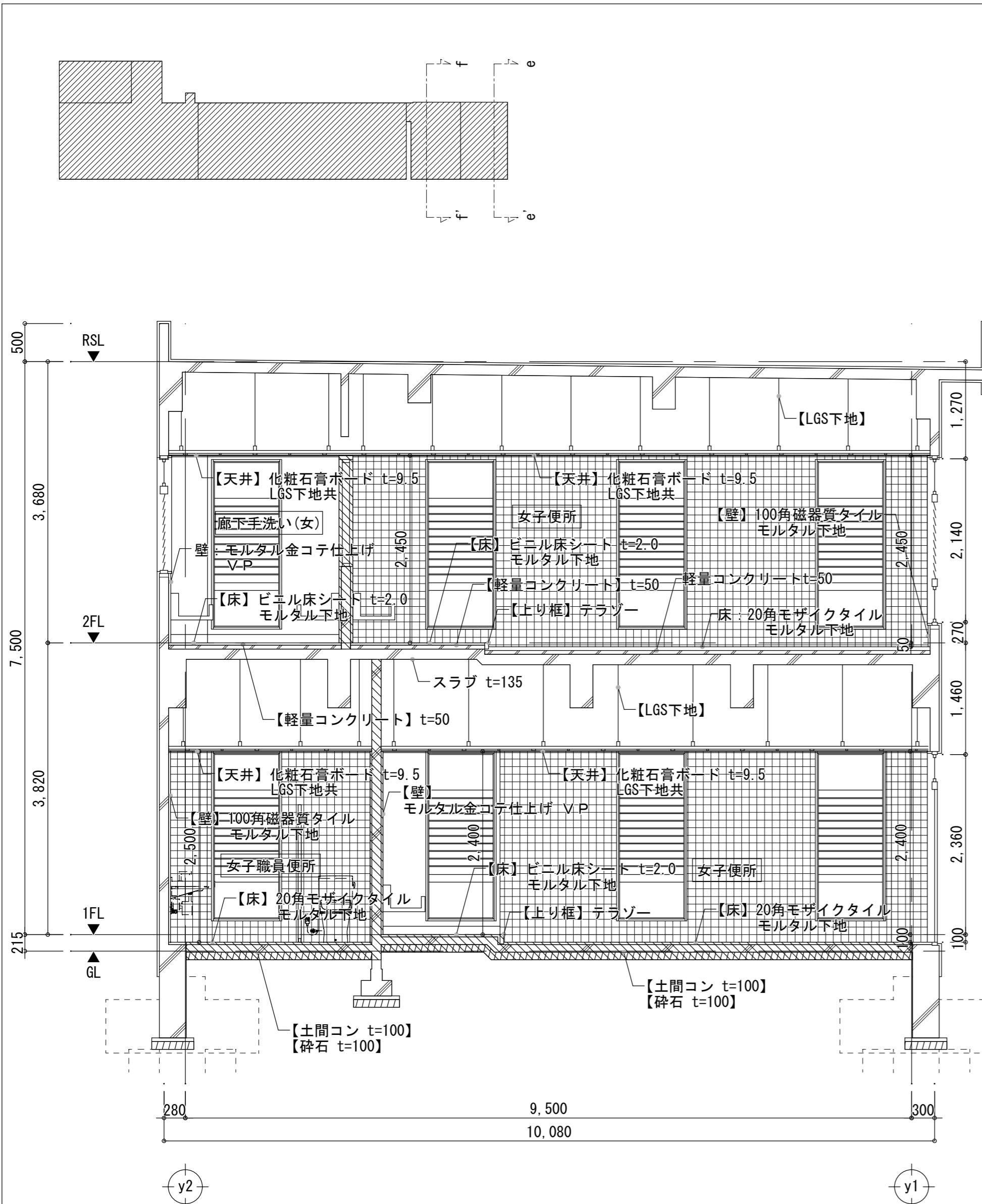
アルテック設計	一級建築士 第177266号 伊藤 公智	DRAWING BY DATA	原図: A2 【】内は撤去を示す。 《》内は新設を示す。 カッコ無しのものは既存のまます。	津市立安濃小学校長寿命化改修工事	便所棟矩計図1(改修前)	A - 22 S: 1/50
---------	-------------------------	--------------------	--	------------------	--------------	-------------------



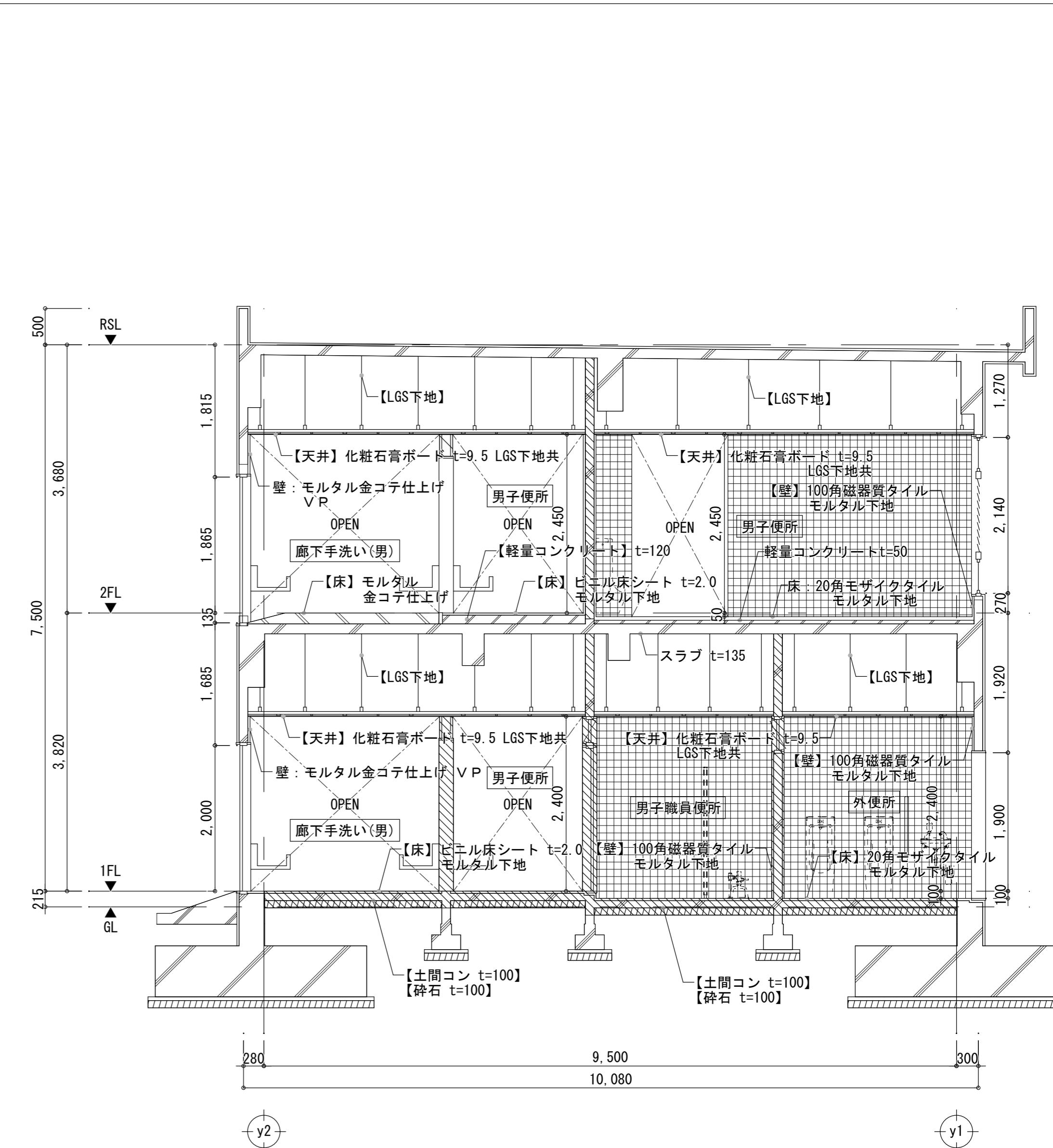
d-d' 矩計図

S: 1/50

アルテック設計	一級建築士 第177266号 伊藤 公智	DRAWING BY DATA	原図: A2 【】内は撤去を示す。 《》内は新設を示す。 カッコ無しのものは既存のまます。	津市立安濃小学校長寿命化改修工事	便所棟矩計図1(改修後)	A - 23 S: 1/50
津市大谷町233番地 TEL 059-225-1602						



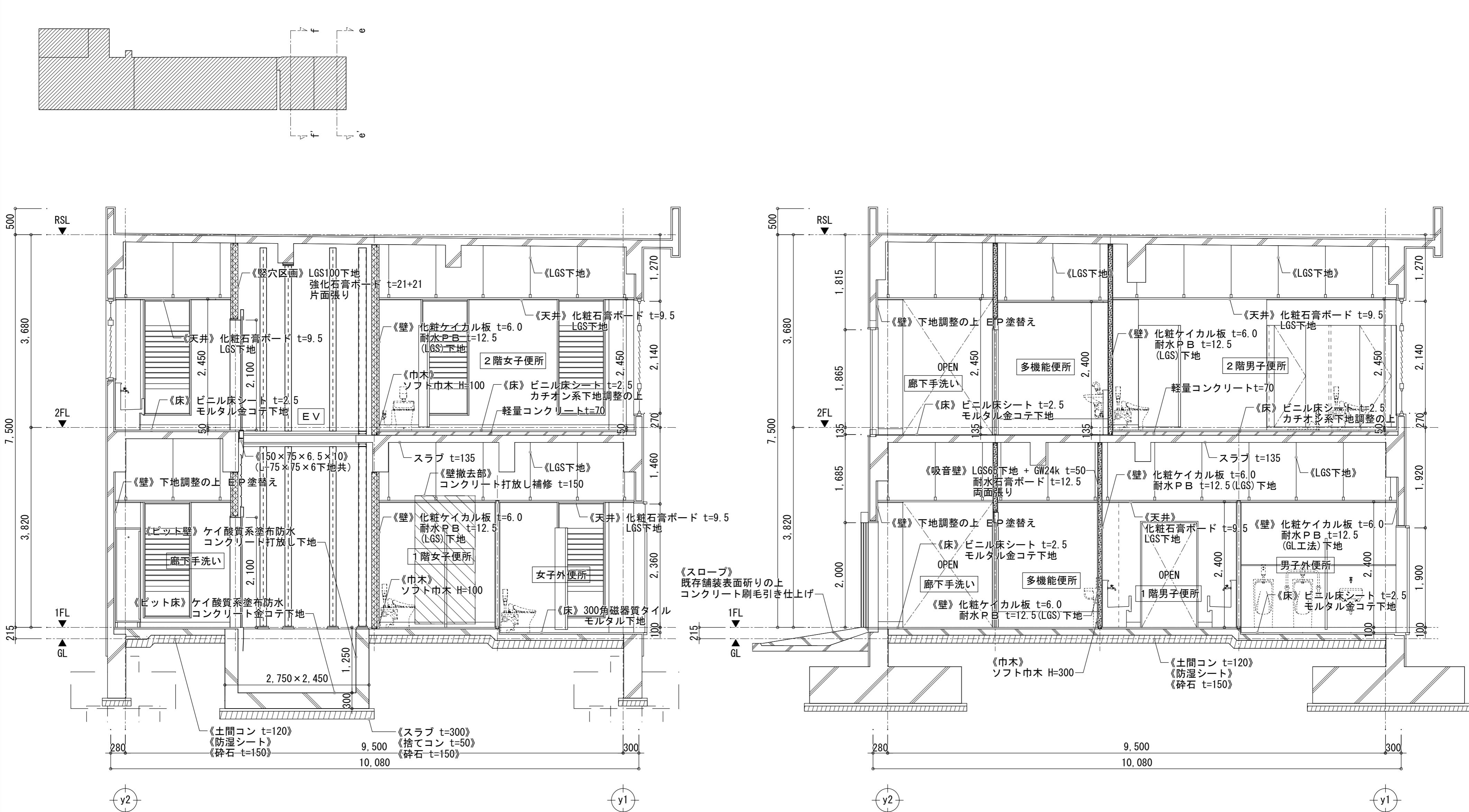
e-e' 矩計図 S: 1/50



f-f' 矩計図 S: 1/50

凡例  
撤去範囲を示す  
周囲カッター入れ共 (R C・C B)

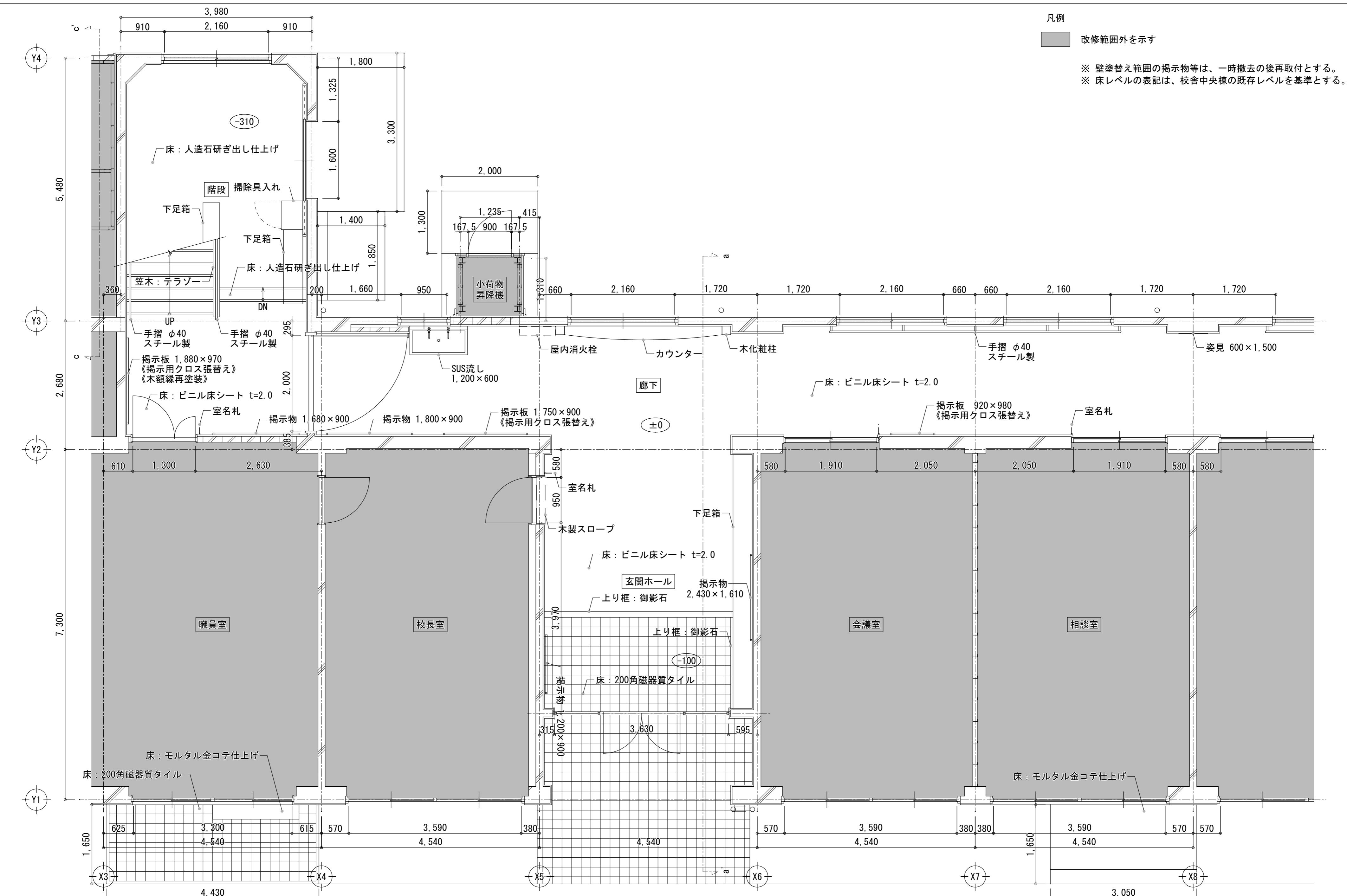
アルテック設計 津市大谷町233番地 TEL 059-225-1602	一級建築士 第177266号 伊藤 公智	DRAWING BY DATA	原図: A2 【】内は撤去を示す。 《》内は新設を示す。 カッコ無しのものは既存のまます。	津市立安濃小学校長寿命化改修工事	便所棟矩計図2(改修前)	A - 24 S: 1/50
--	-------------------------	--------------------	--	------------------	--------------	-------------------

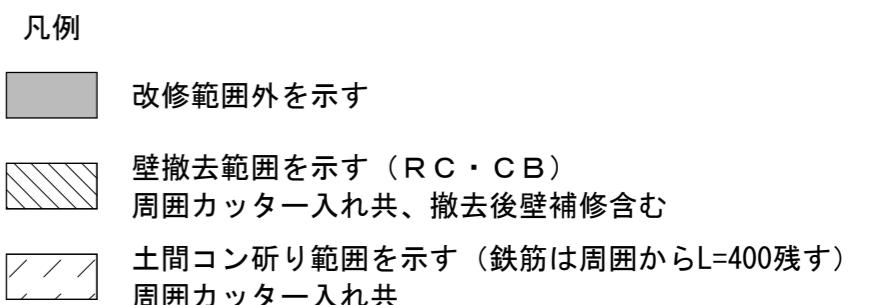


凡例

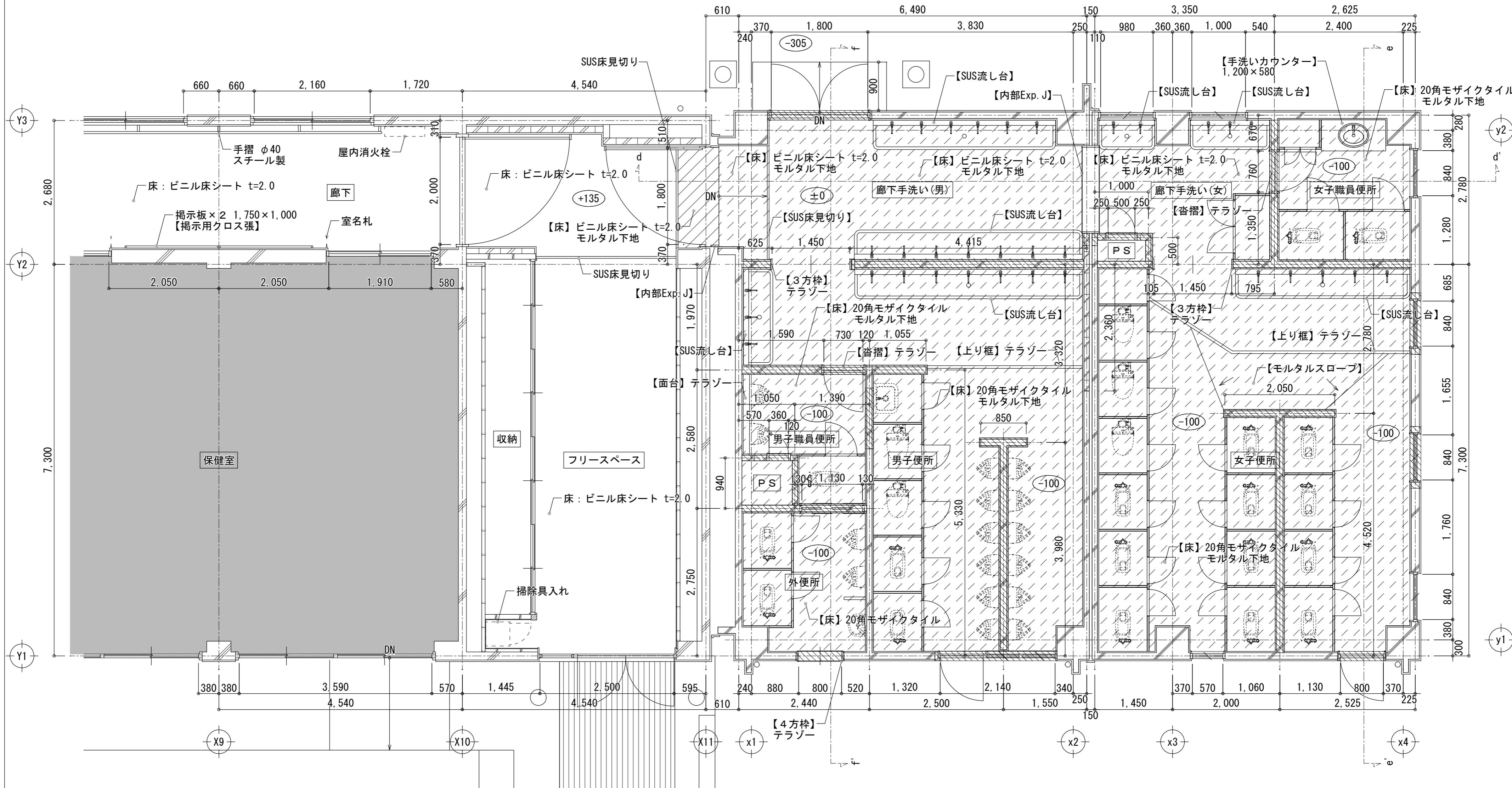
《縦穴区画》 LGS100下地 + 強化石膏ボード t=21+21 片面張り  
軽量壁下地、ボード共に上部スラブまで達しめること。

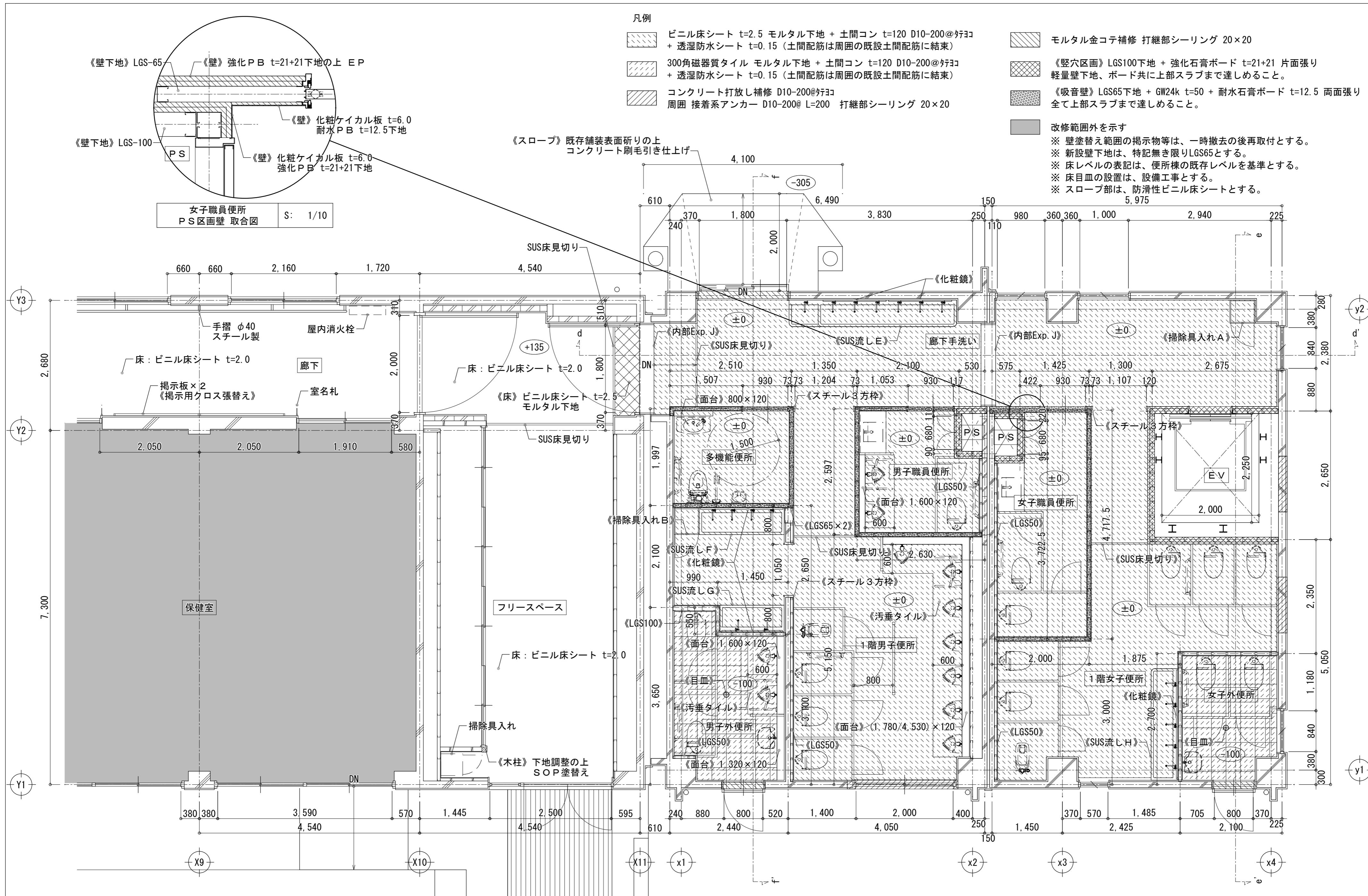
《吸音壁》 LGS65下地 + GW24k t=50 + 耐水石膏ボード t=12.5 両面張り  
全て上部スラブまで達しめること。

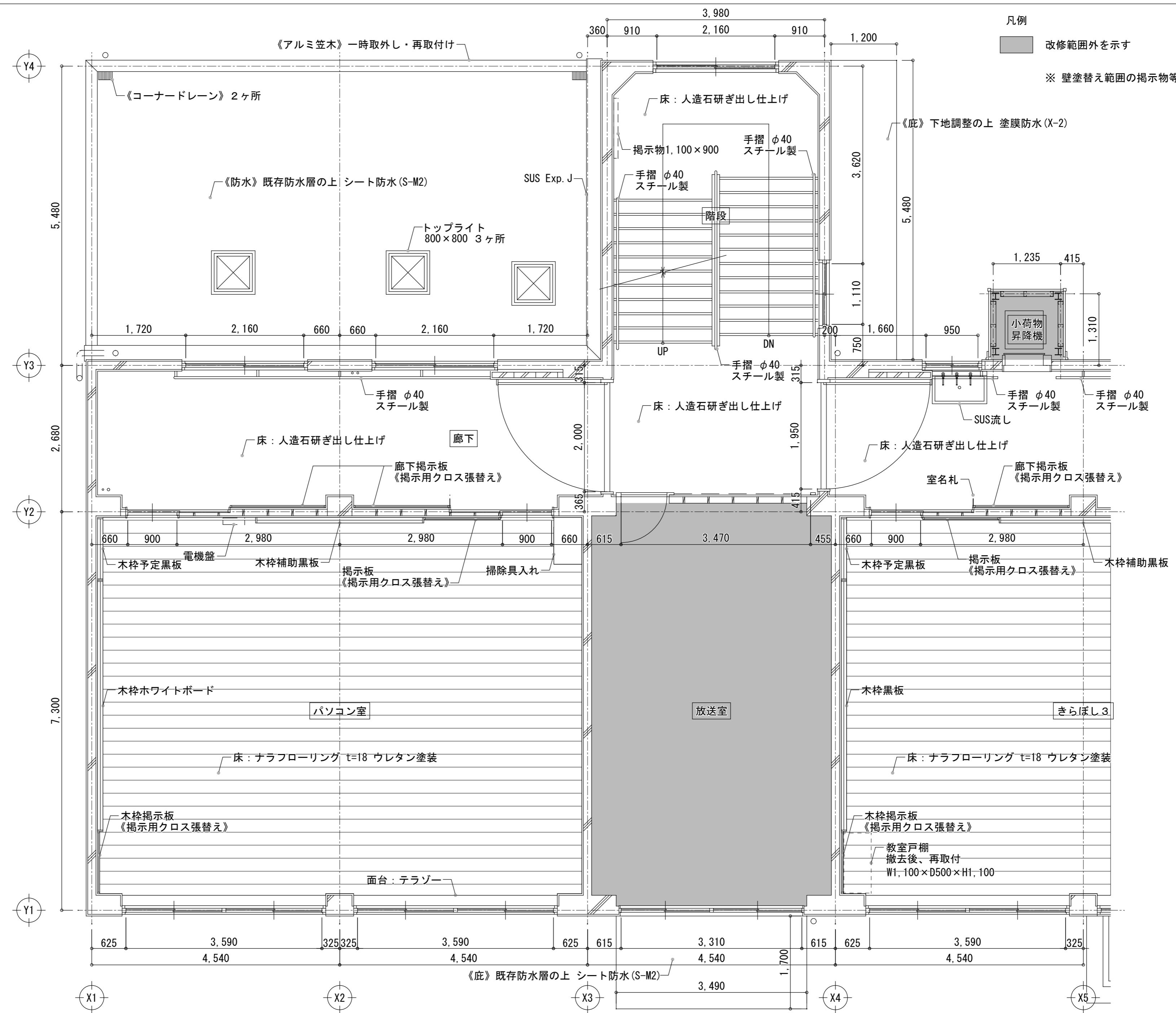


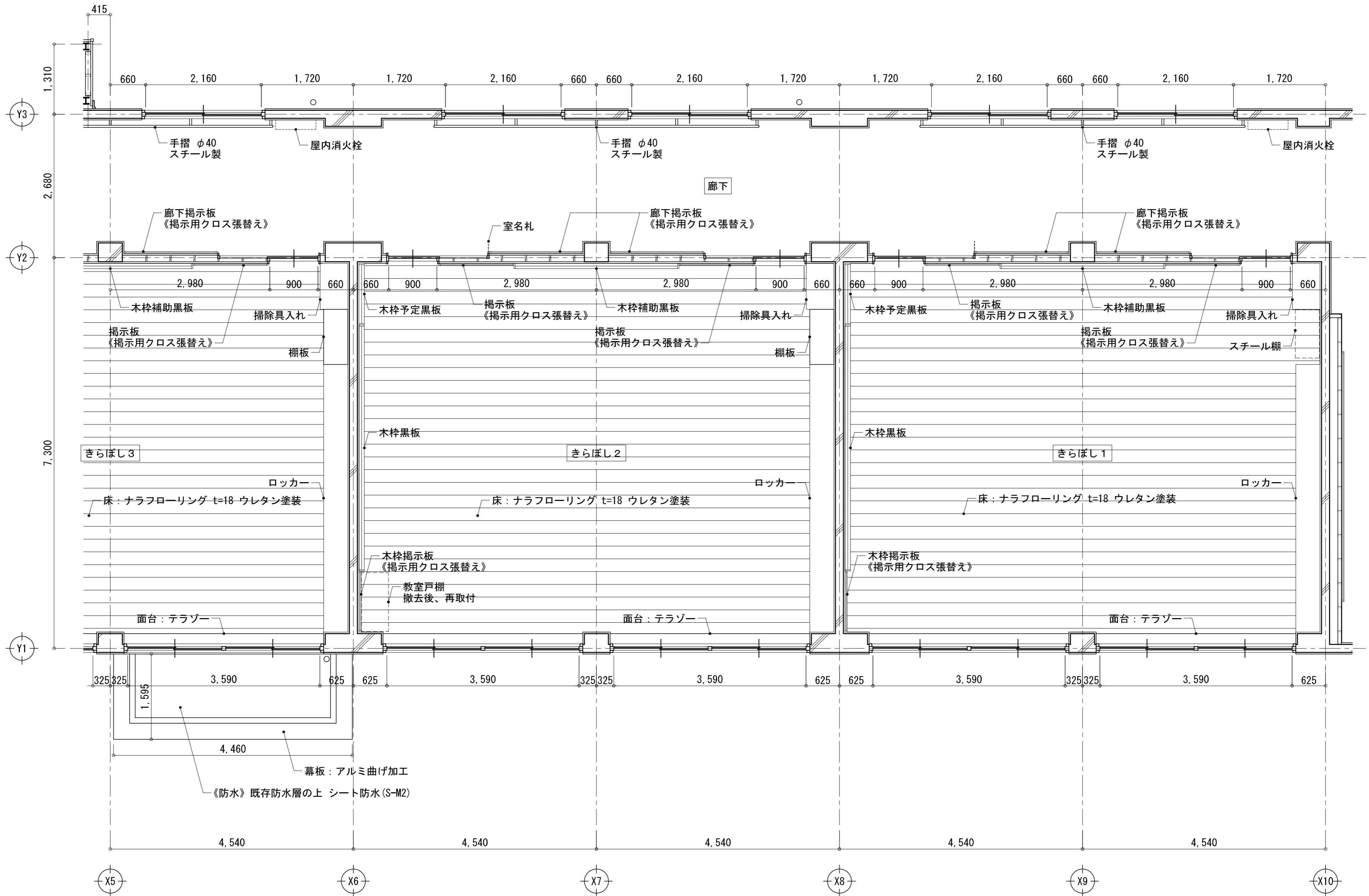


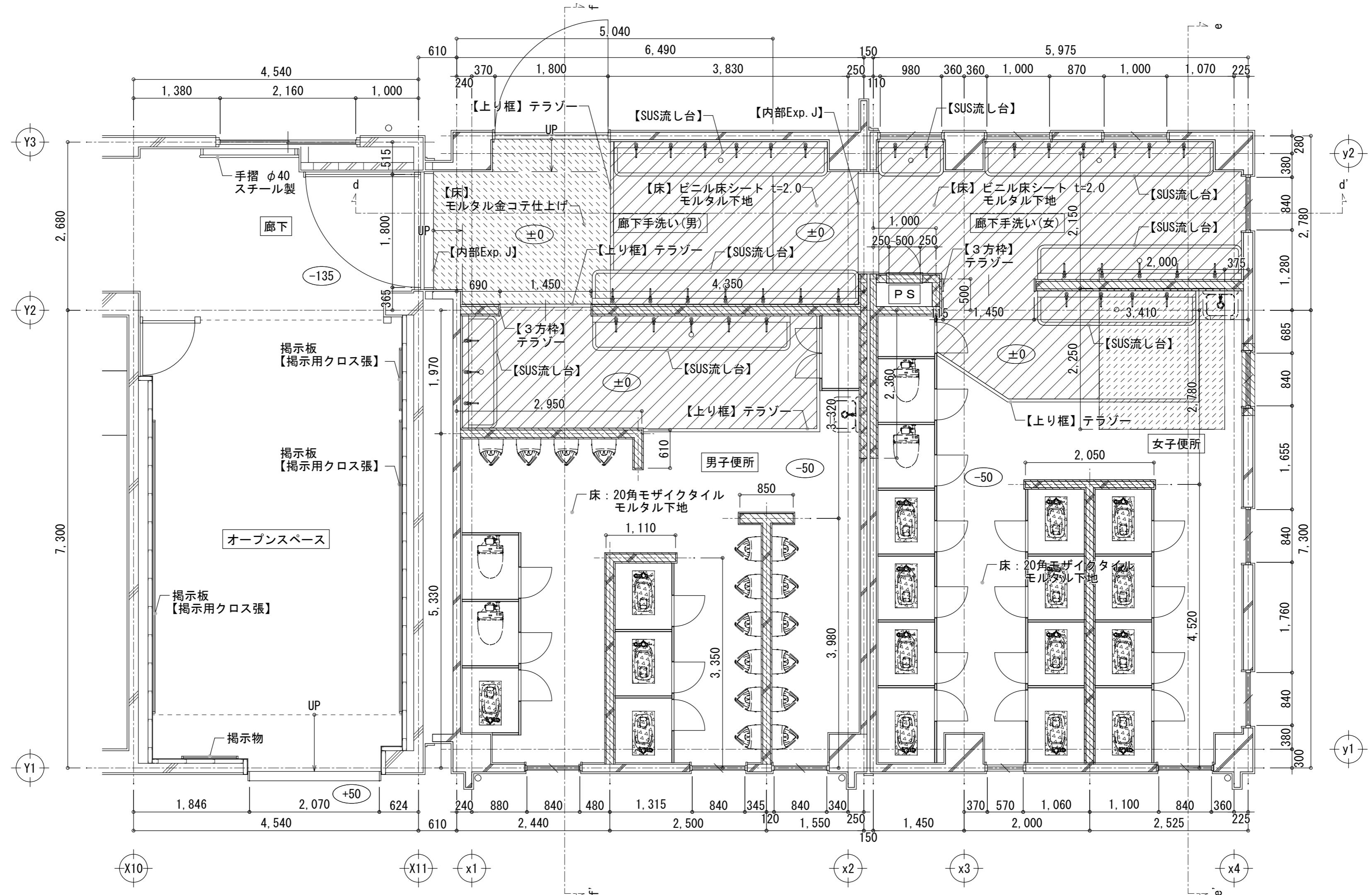
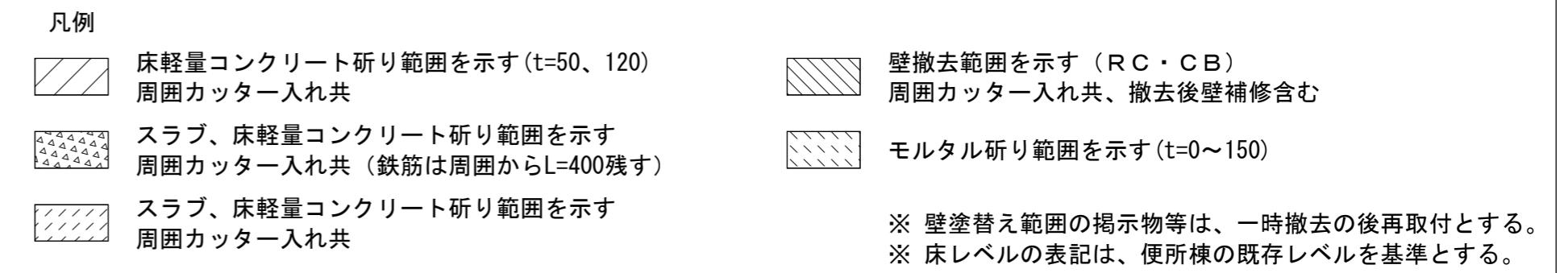
- ※ 壁塗替え範囲の掲示物等は、一時撤去の後再取付とする。
- ※ 床レベルの表記は、便所棟の既存レベルを基準とする。











## 凡例

ビニル床シート t=2.5 + モルタル金コテ下地 t=15~100

ビニル床シート t=2.5 + モルタル金コテ下地 t=35

ビニル床シート t=2.5  
(カチオン系下地調整材にて既存タイル目地埋め)ビニル床シート t=2.5 + モルタル金コテ下地 t=30  
軽量コンクリート t=90 + ワイヤーメッシュ  $\phi 6 \times 100 \times 100$ 

床スラブ復旧 t=135 D10-200@ 外ヨコ共(既存取合部:差筋アンカー D10-200@)

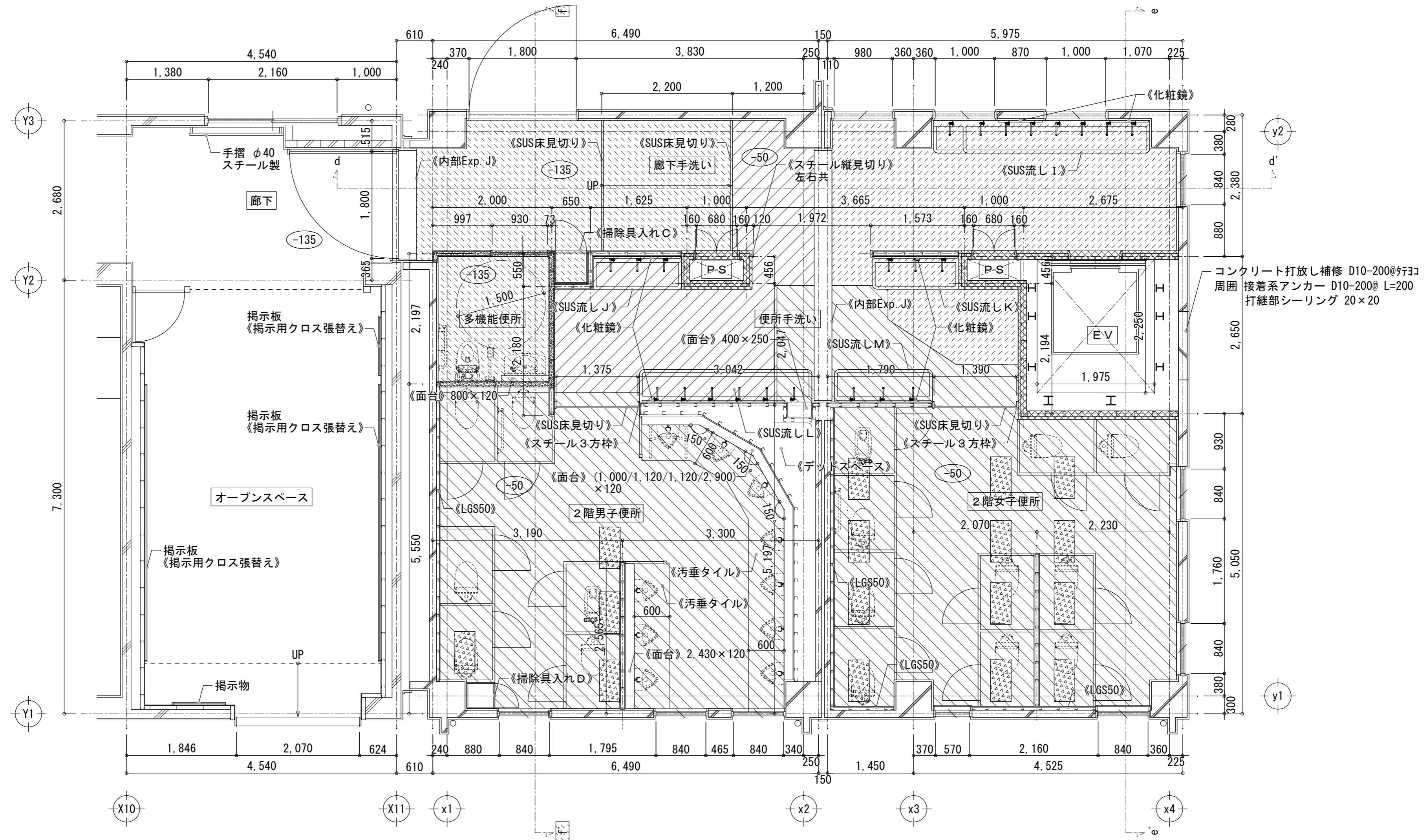
ビニル床シート t=2.5 + 軽量コンクリート t=100  
+ ワイヤーメッシュ  $\phi 6 \times 100 \times 100$ 《縦穴区画》LGS100下地 + 強化石膏ボード t=21+21 片面張り  
軽量壁下地、ボード共に上部スラブまで達しめること。《吸音壁》LGS65下地 + GW24k t=50 + 耐水石膏ボード t=12.5 両面張り  
全て上部スラブまで達しめること。

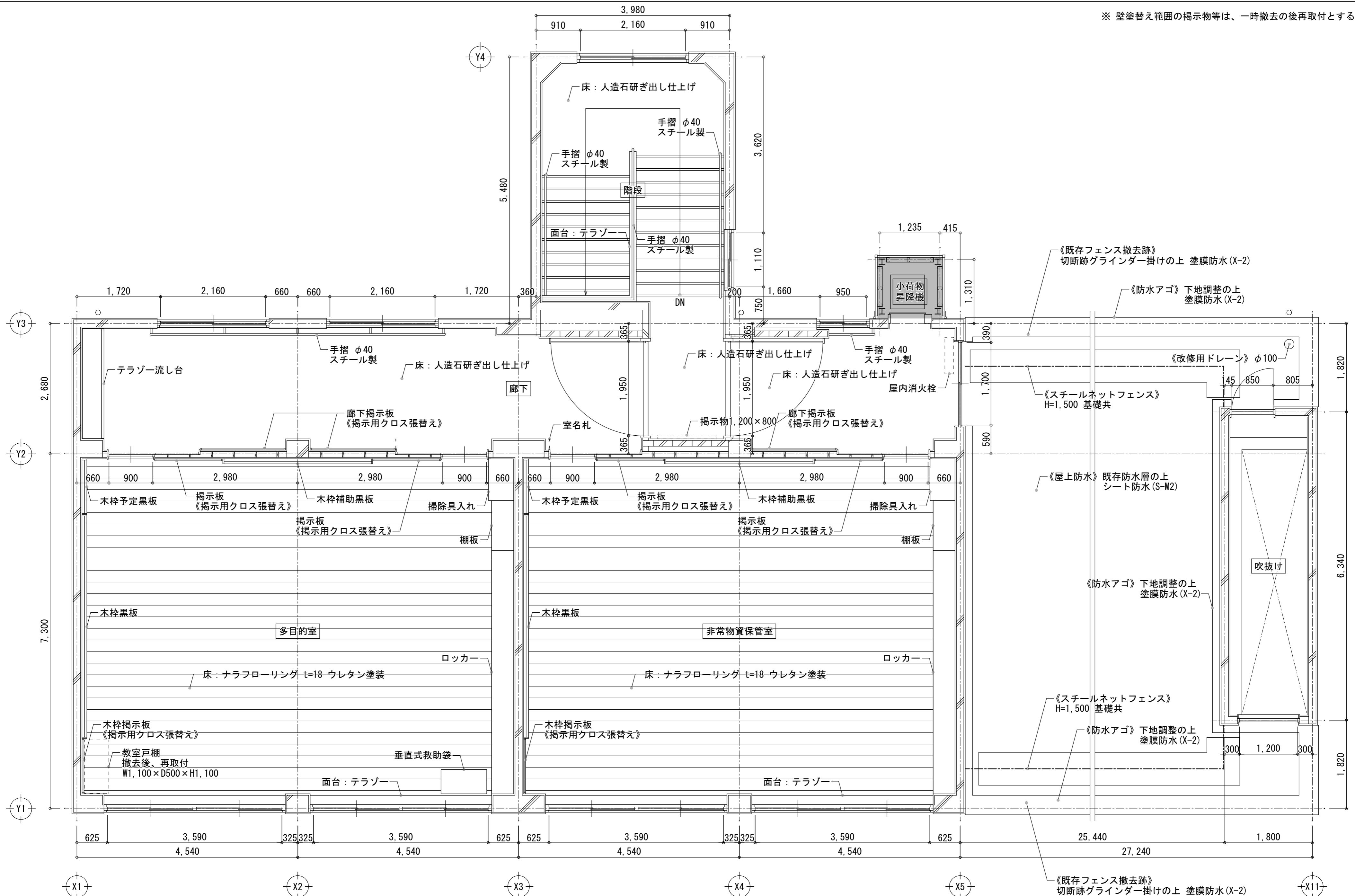
※ 壁塗替え範囲の掲示物等は、一時撤去の後再取付とする。

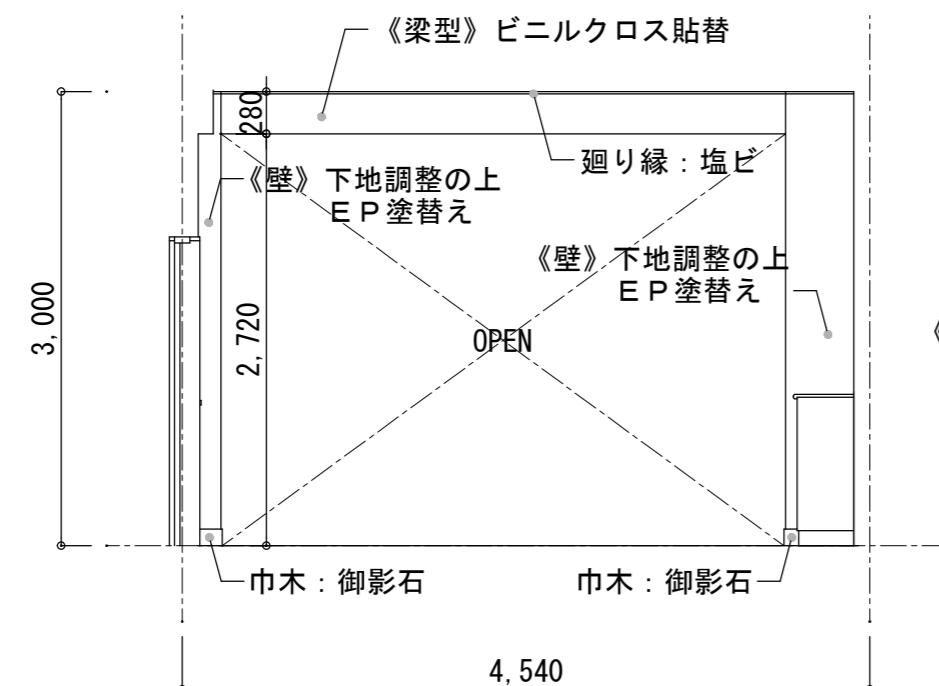
※ 新設壁下地は、特記無き限りLGS65とする。

※ 床レベルの表記は、便所棟の既存レベルを基準とする。

※ スロープ部は、防滑性ビニル床シートとする。







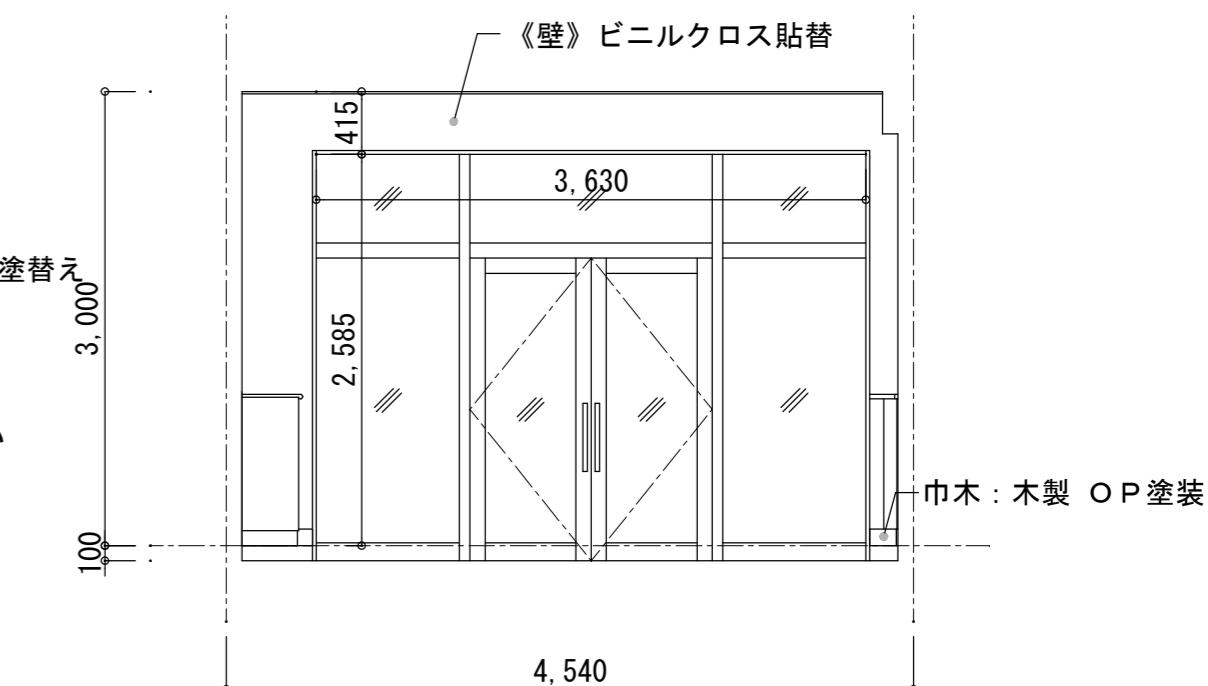
X5

玄関ホール A

X6

Y2

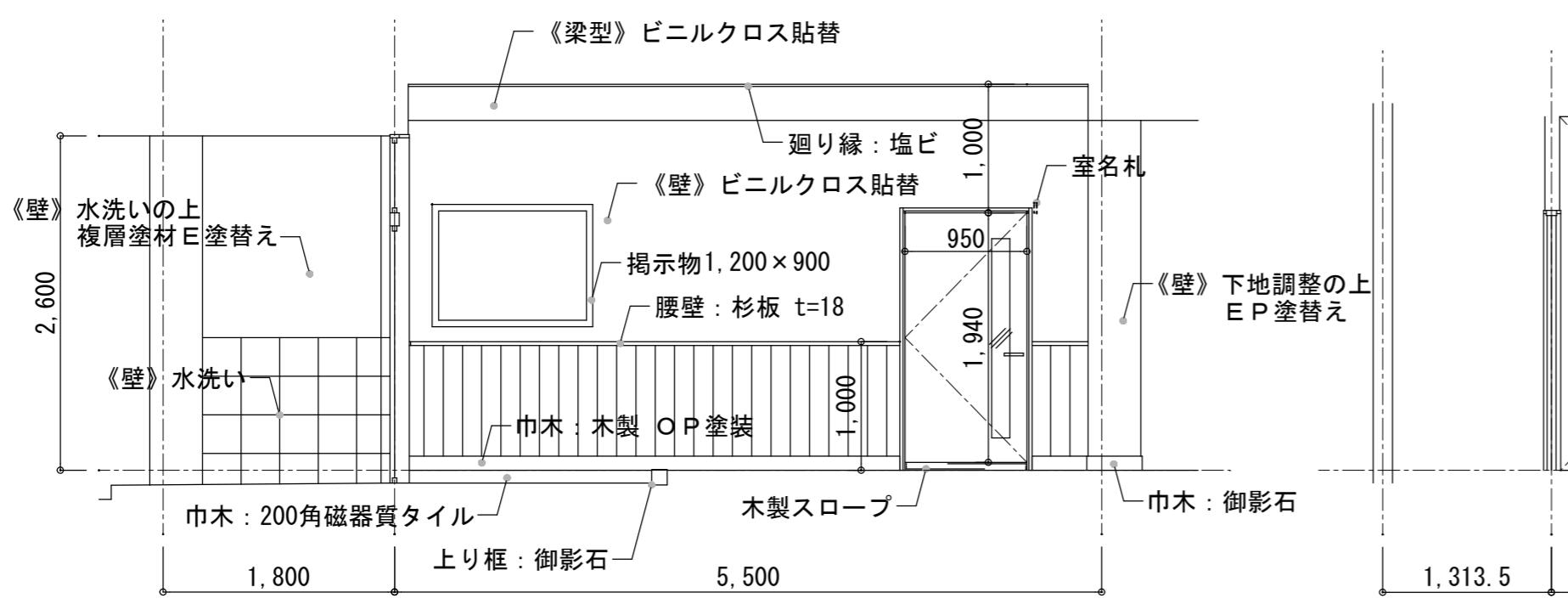
玄関ホール B



X6

玄関ホール C

X5



Y1

玄関ホール D

Y2

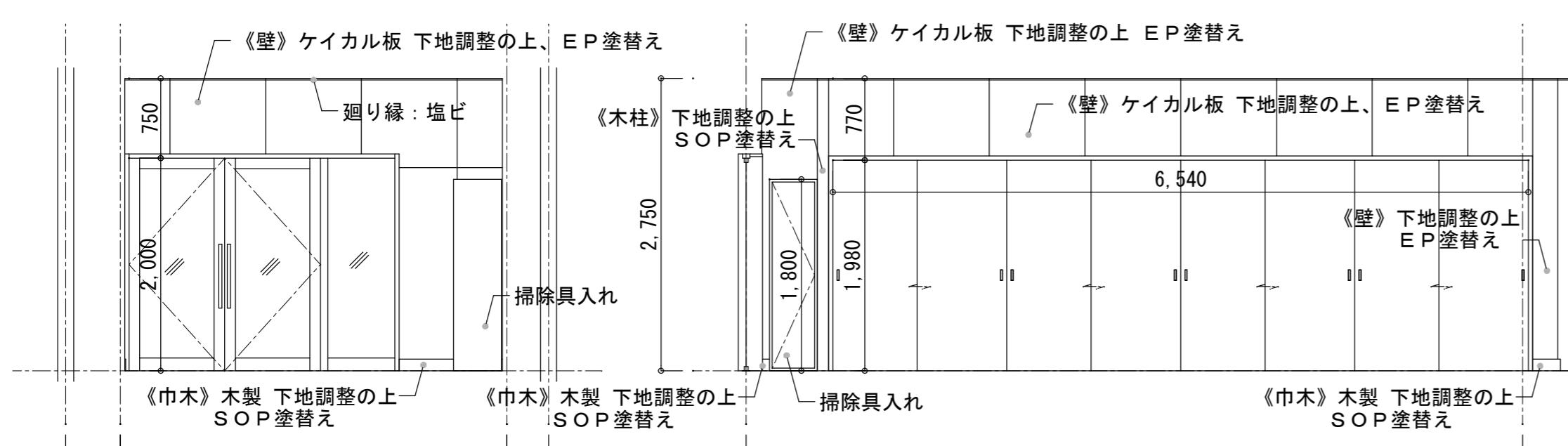
X10

フリースペース A

X11

フリースペース B

Y1

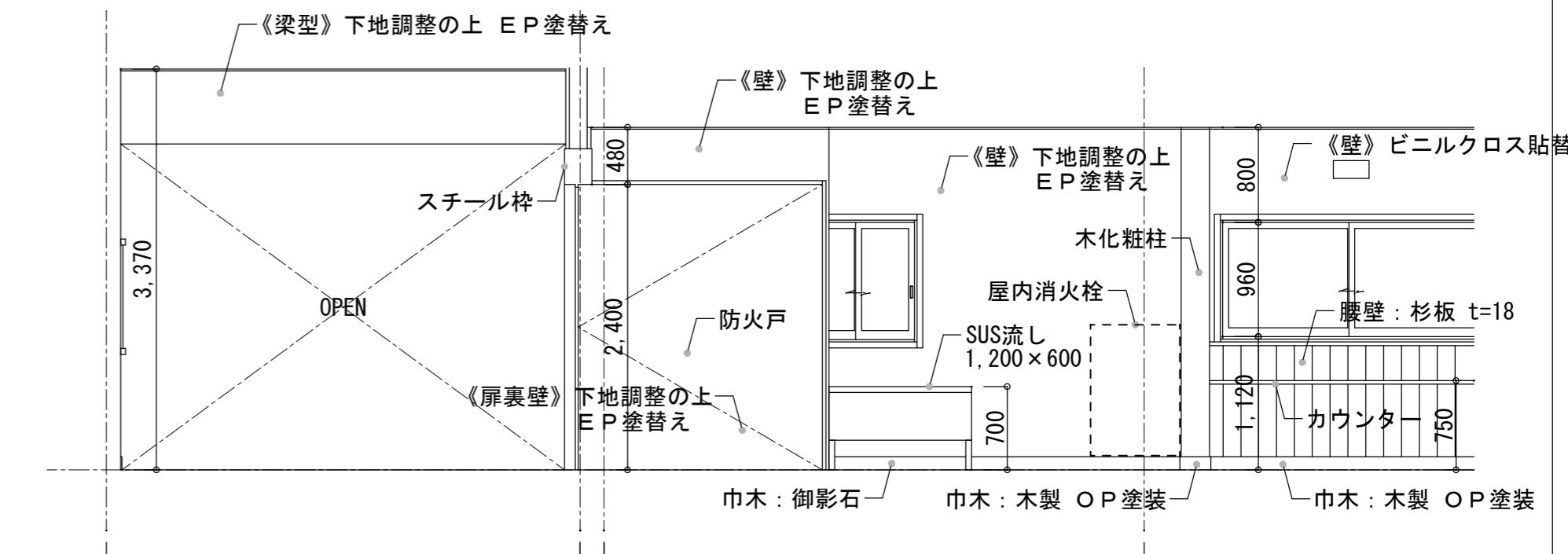


フリースペース C

Y1

フリースペース D

Y2

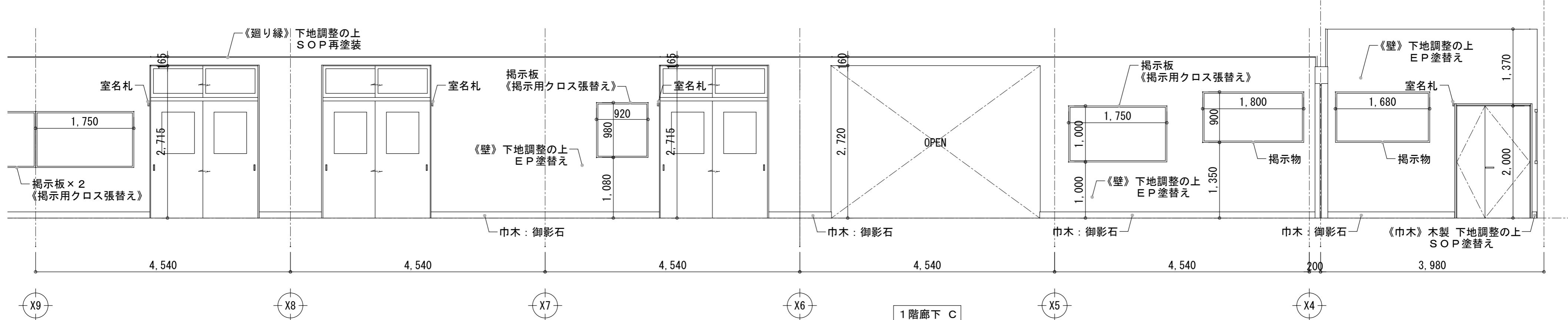
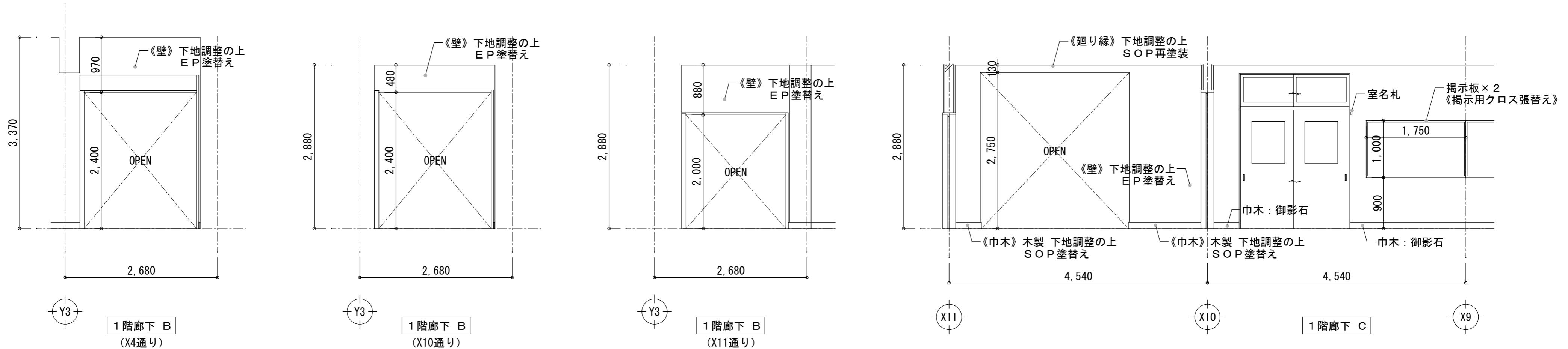
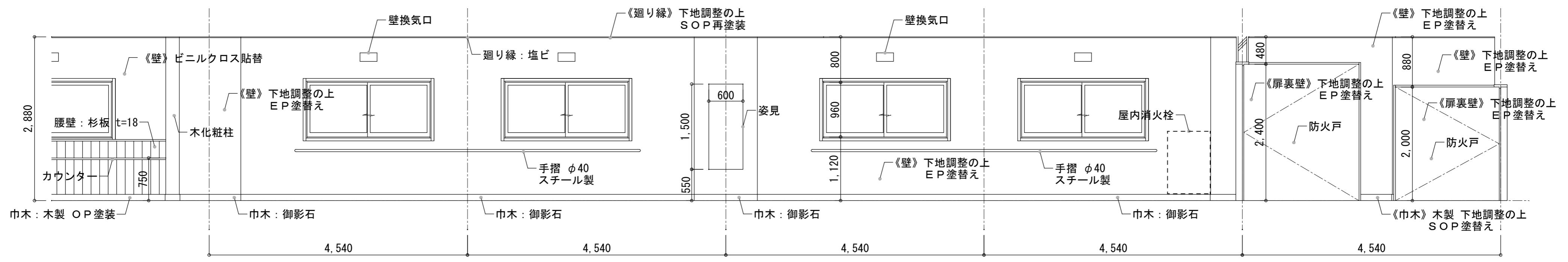


X4

1階廊下 A

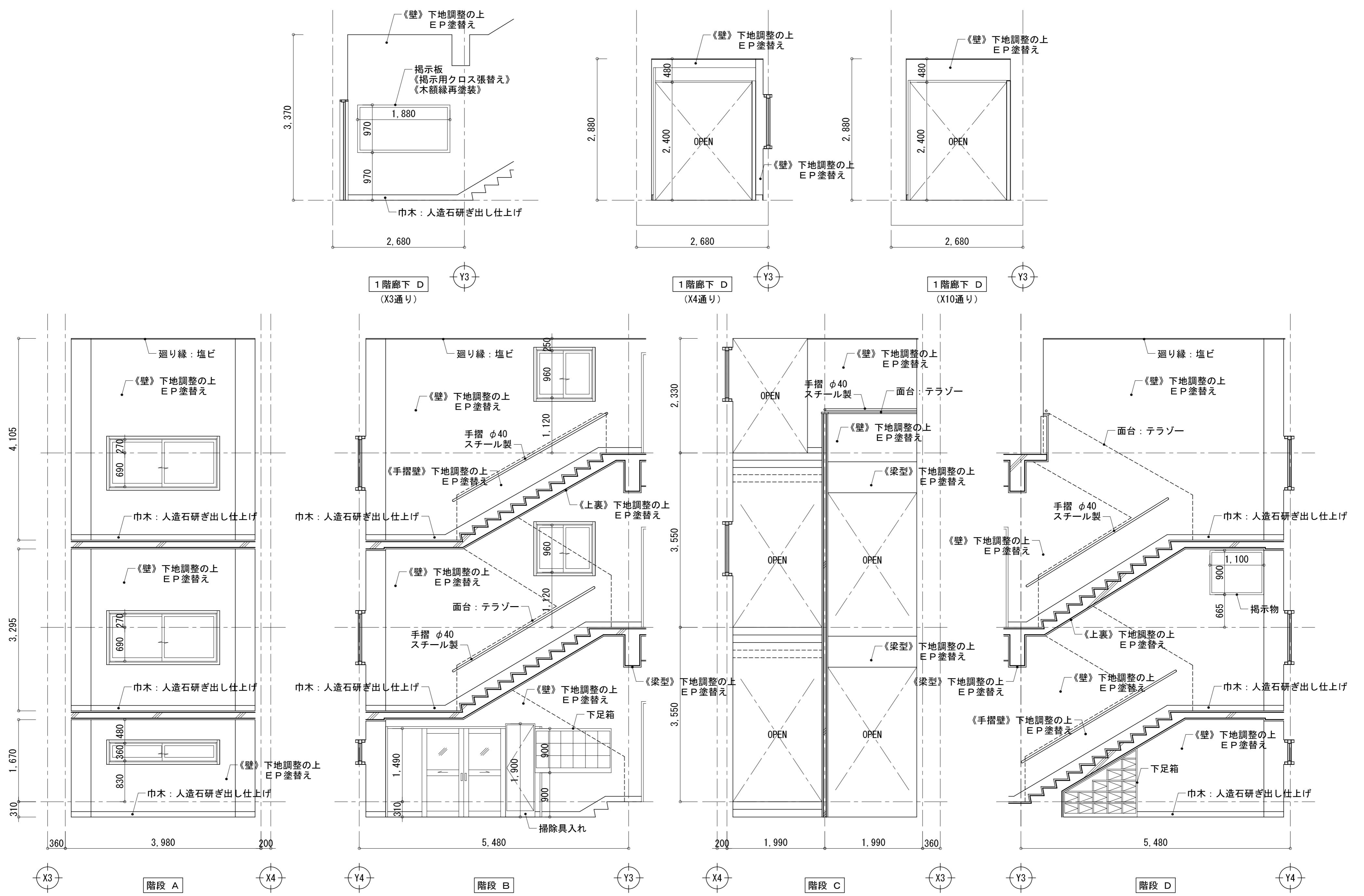
X5

※ 壁塗替え範囲の掲示物等は、一時撤去の後再取付とする。

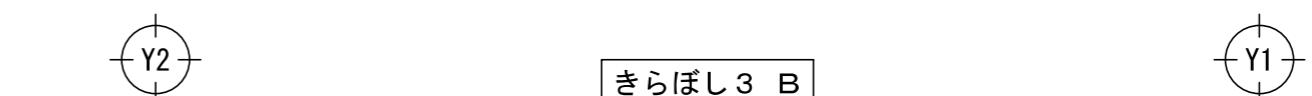
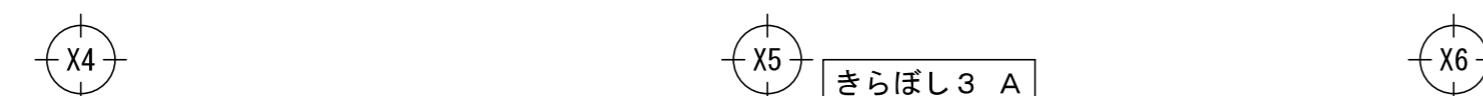
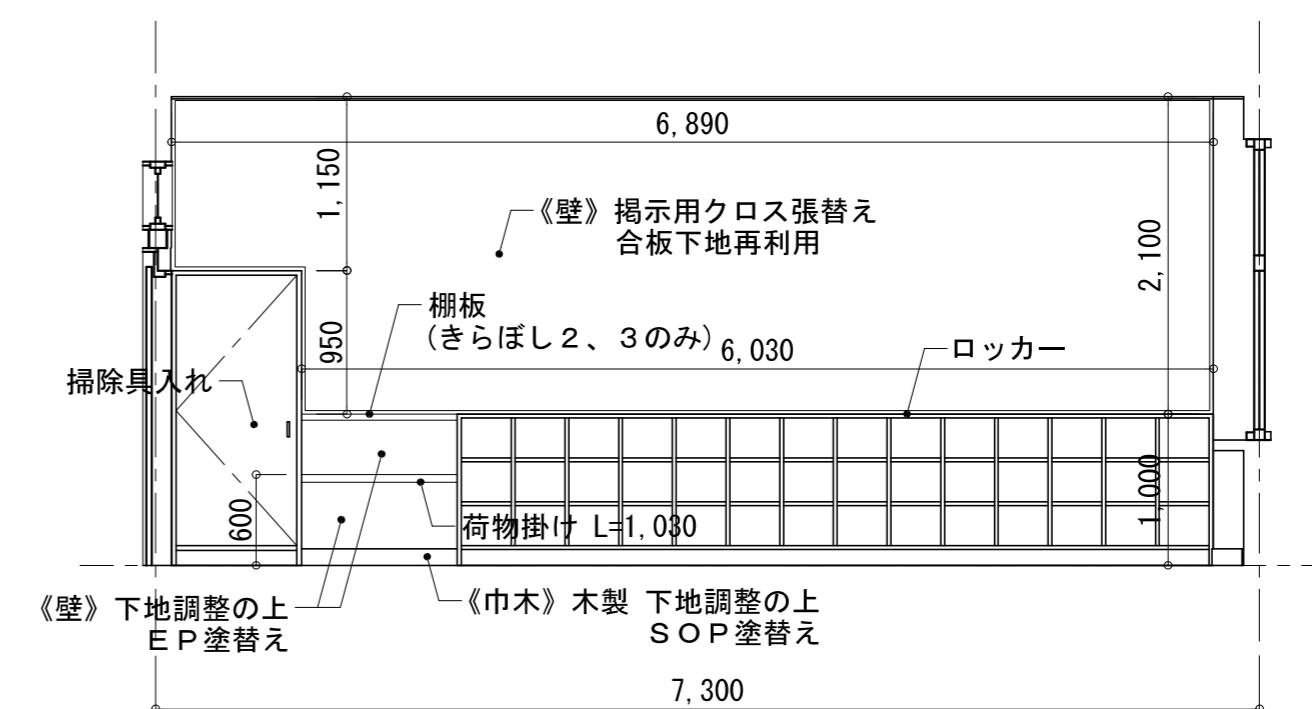
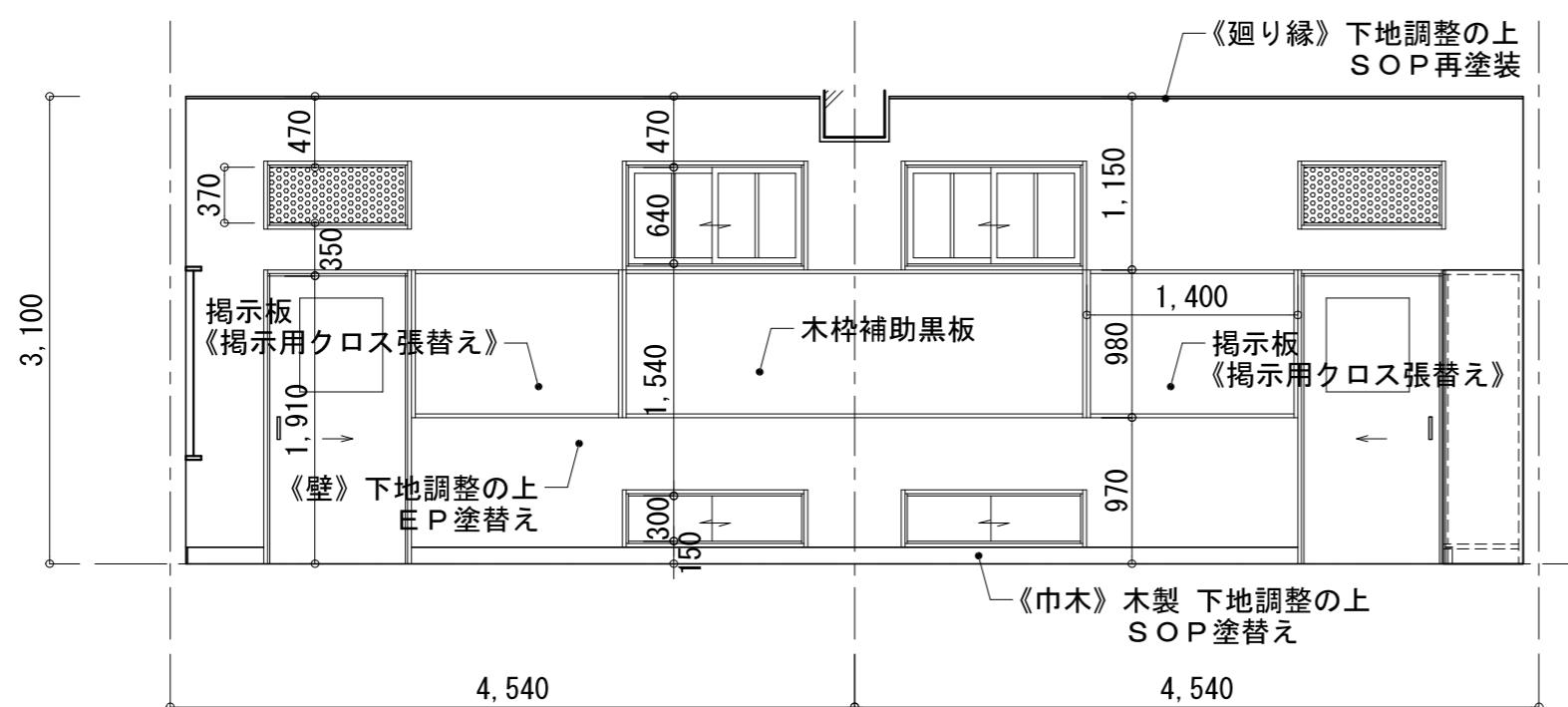
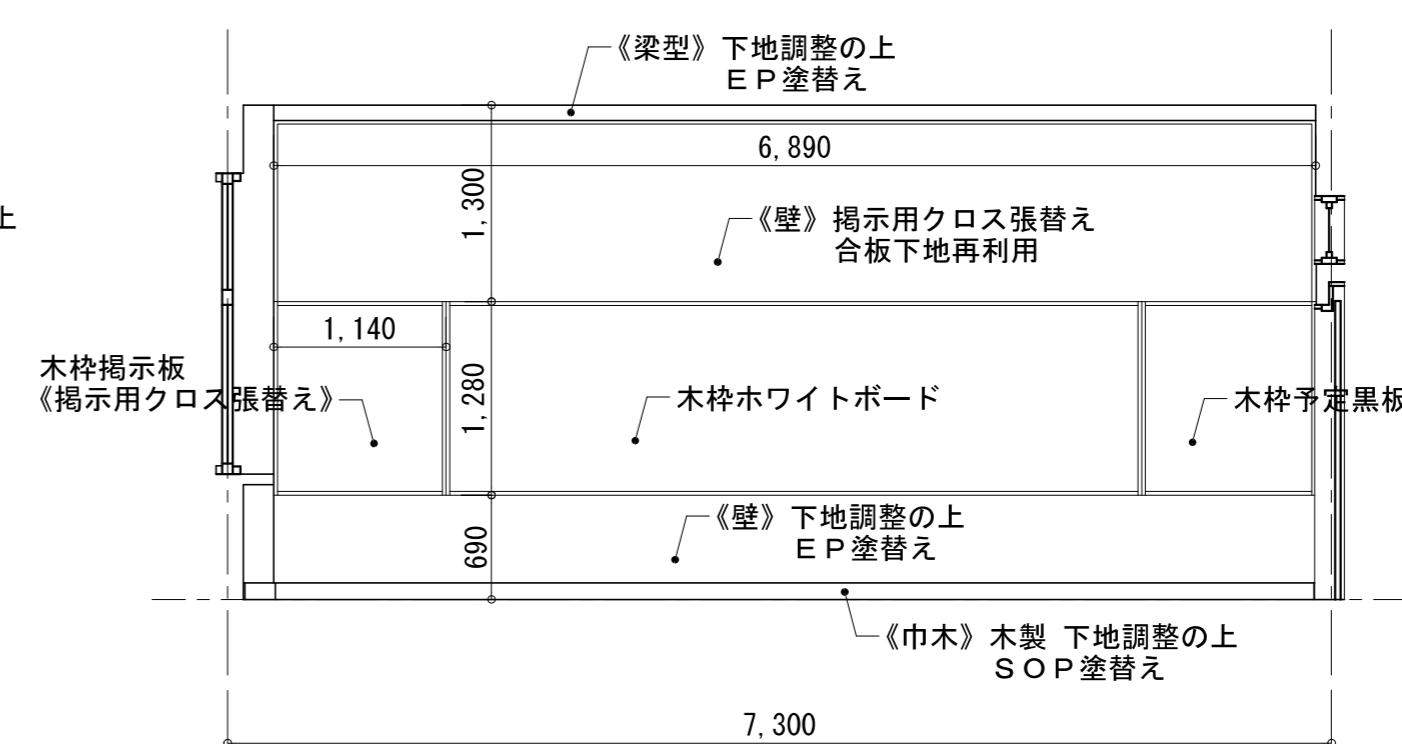
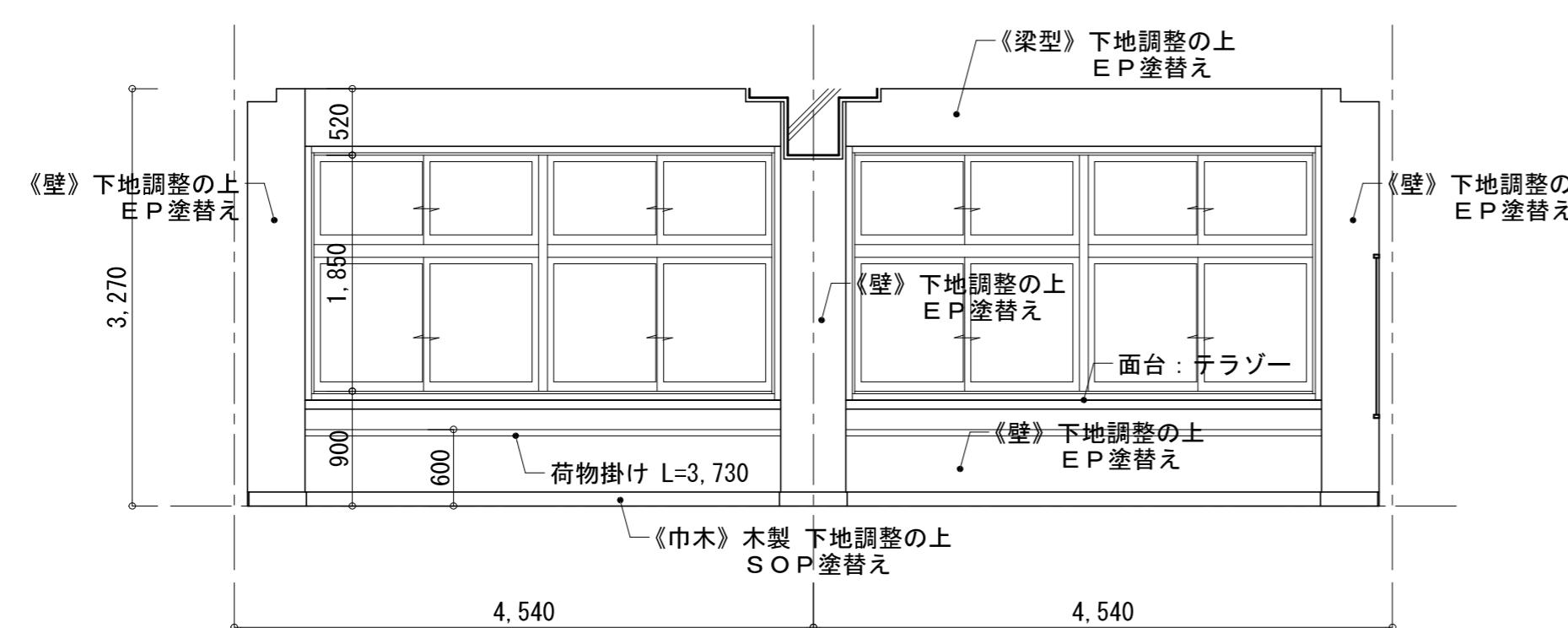
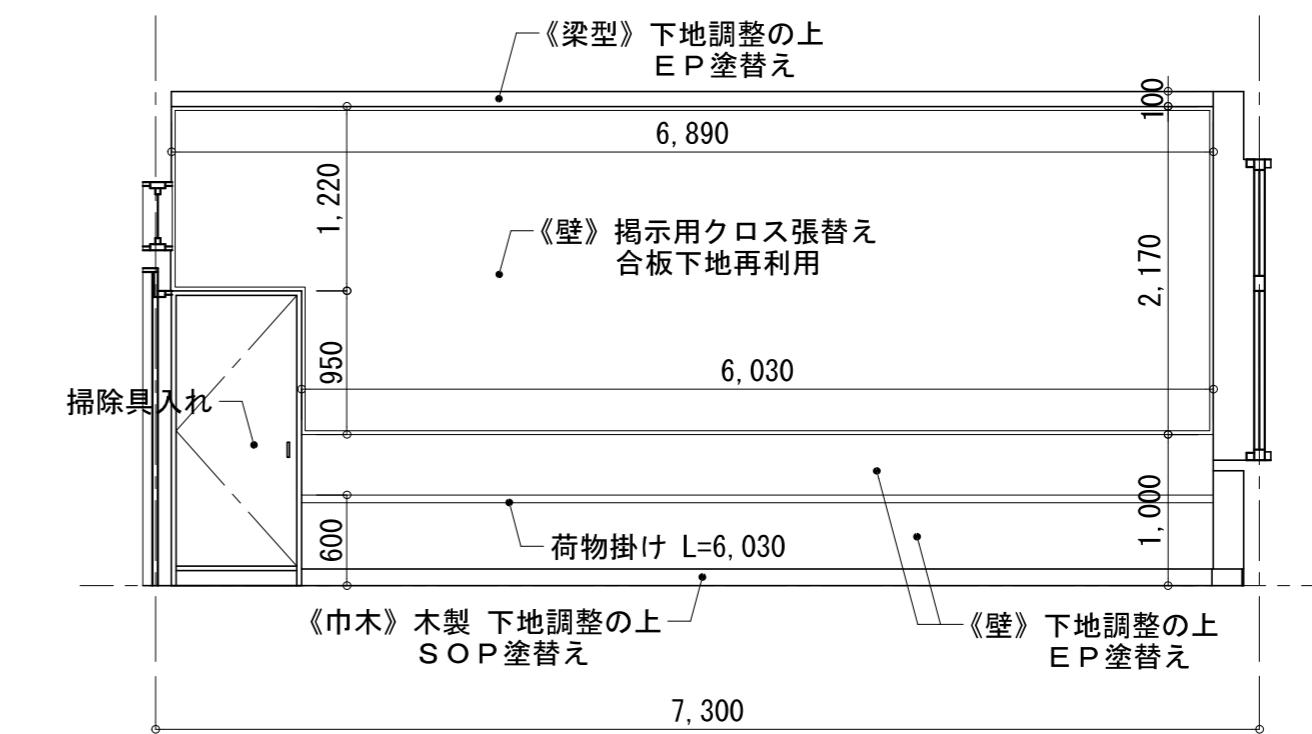
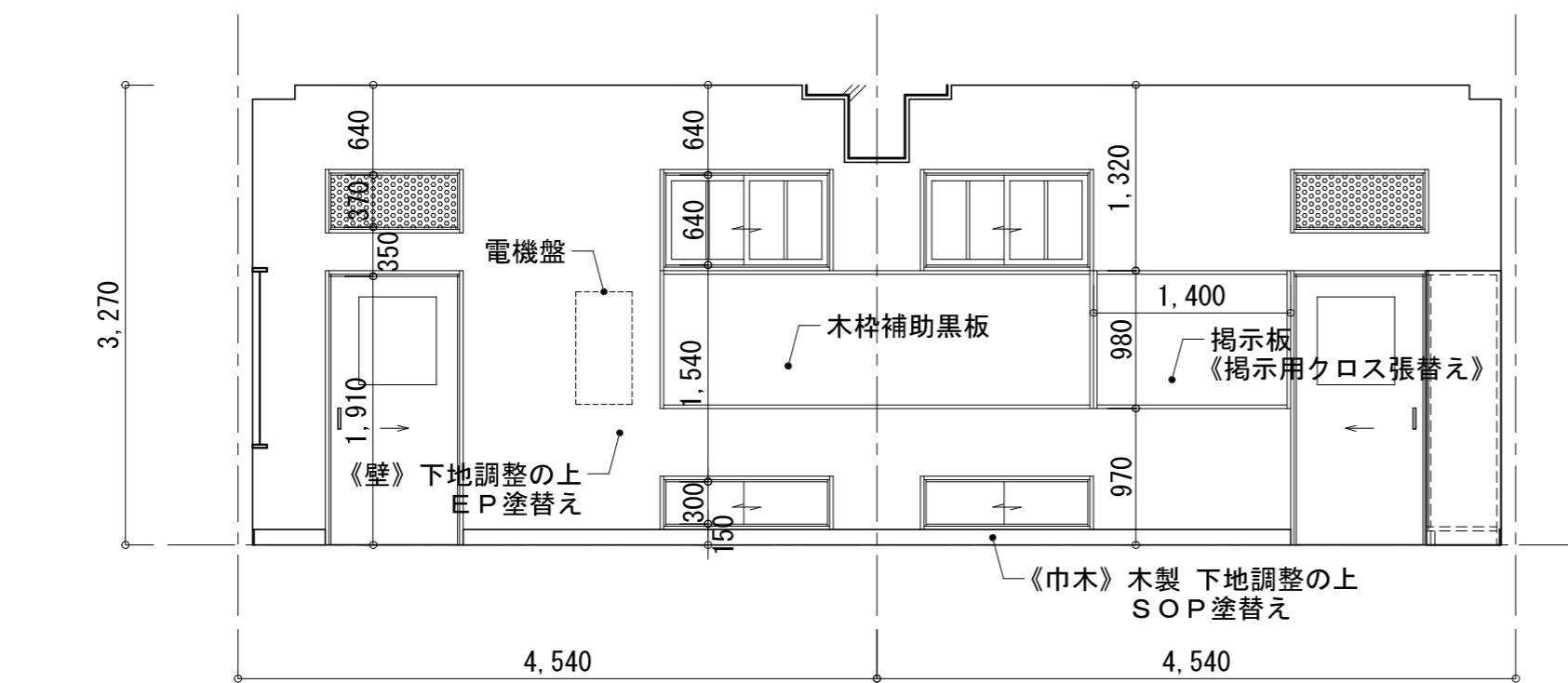


※ 壁塗替え範囲の掲示物等は、一時撤去の後再取付とする。

アルテック設計	一級建築士 第177266号 伊藤 公智	DRAWING BY DATA	原図: A2 【】内は撤去を示す。 《》内は新設を示す。 カッコ無しのものは既存のまます。	津市立安濃小学校長寿命化改修工事	校舎中央棟 1階展開図 2	A - 35 S: 1/50
---------	-------------------------	--------------------	--	------------------	---------------	-------------------

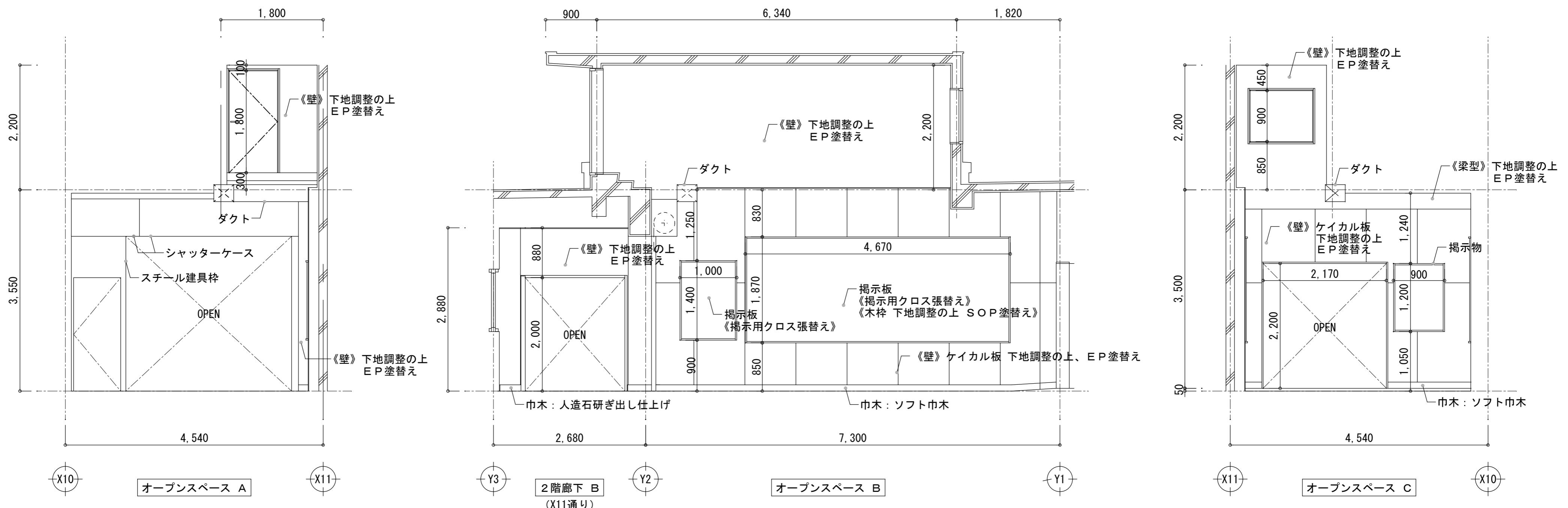
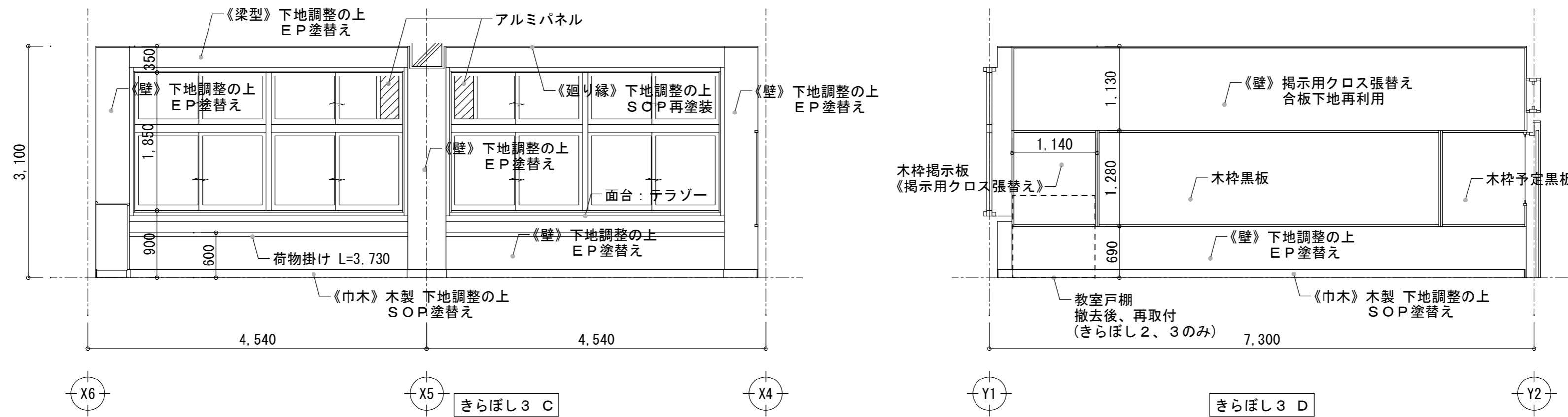


※ 壁塗替え範囲の掲示物等は、一時撤去の後再取付とする。



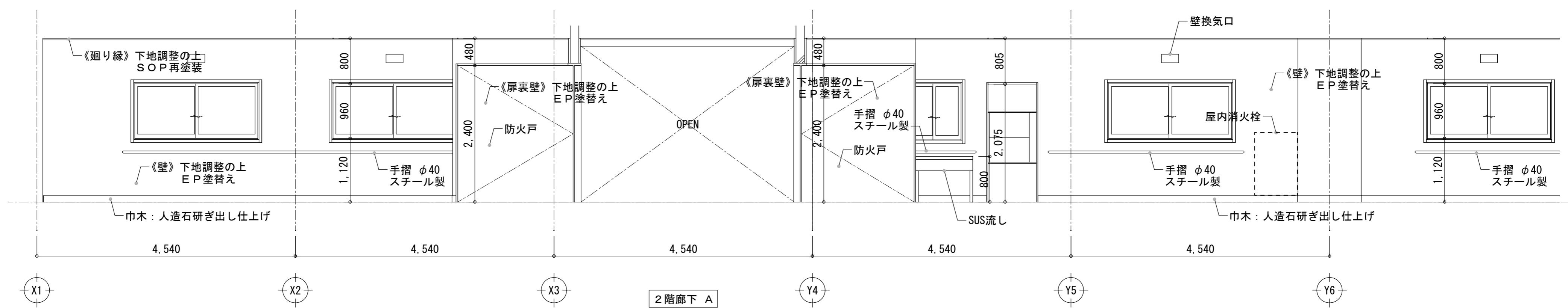
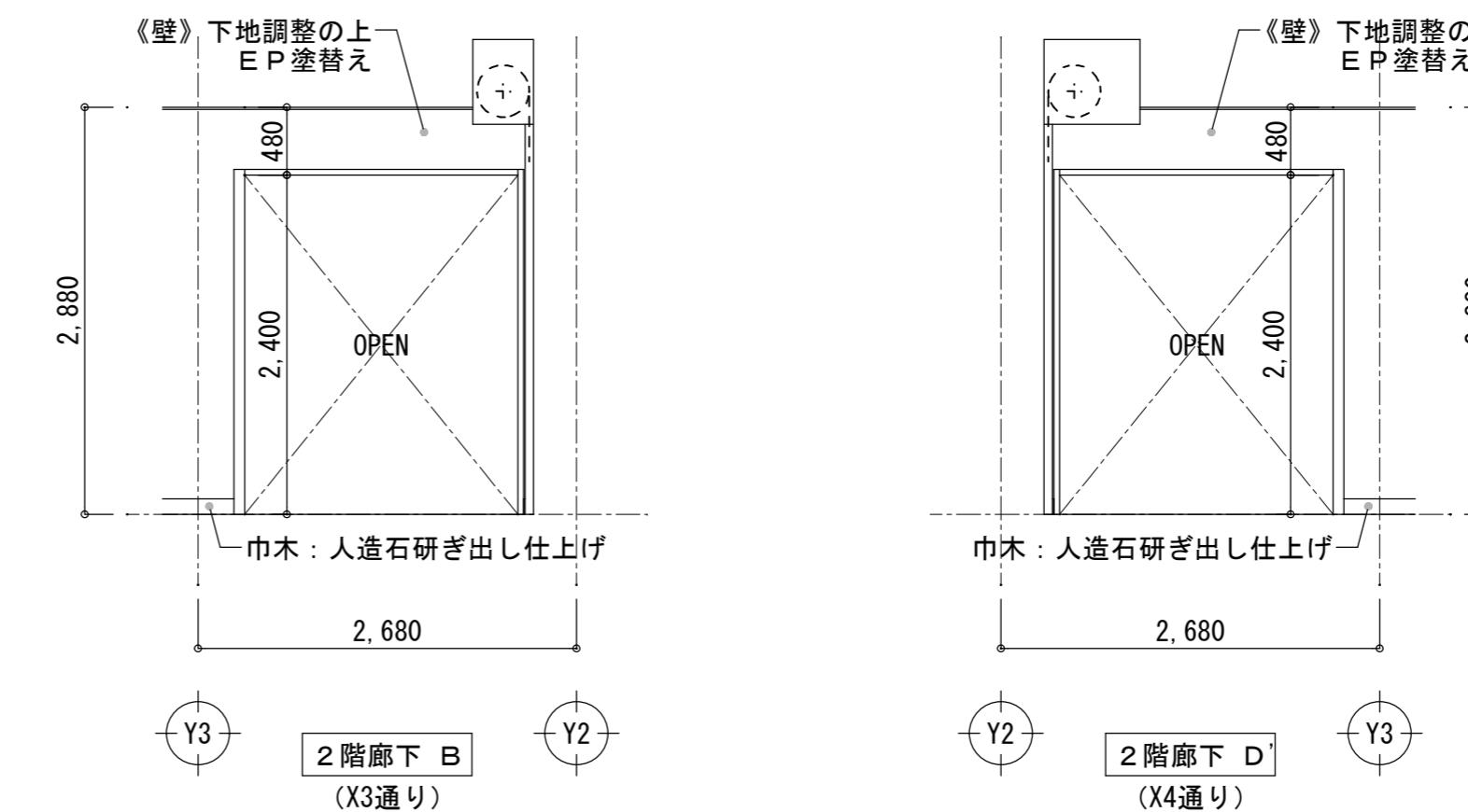
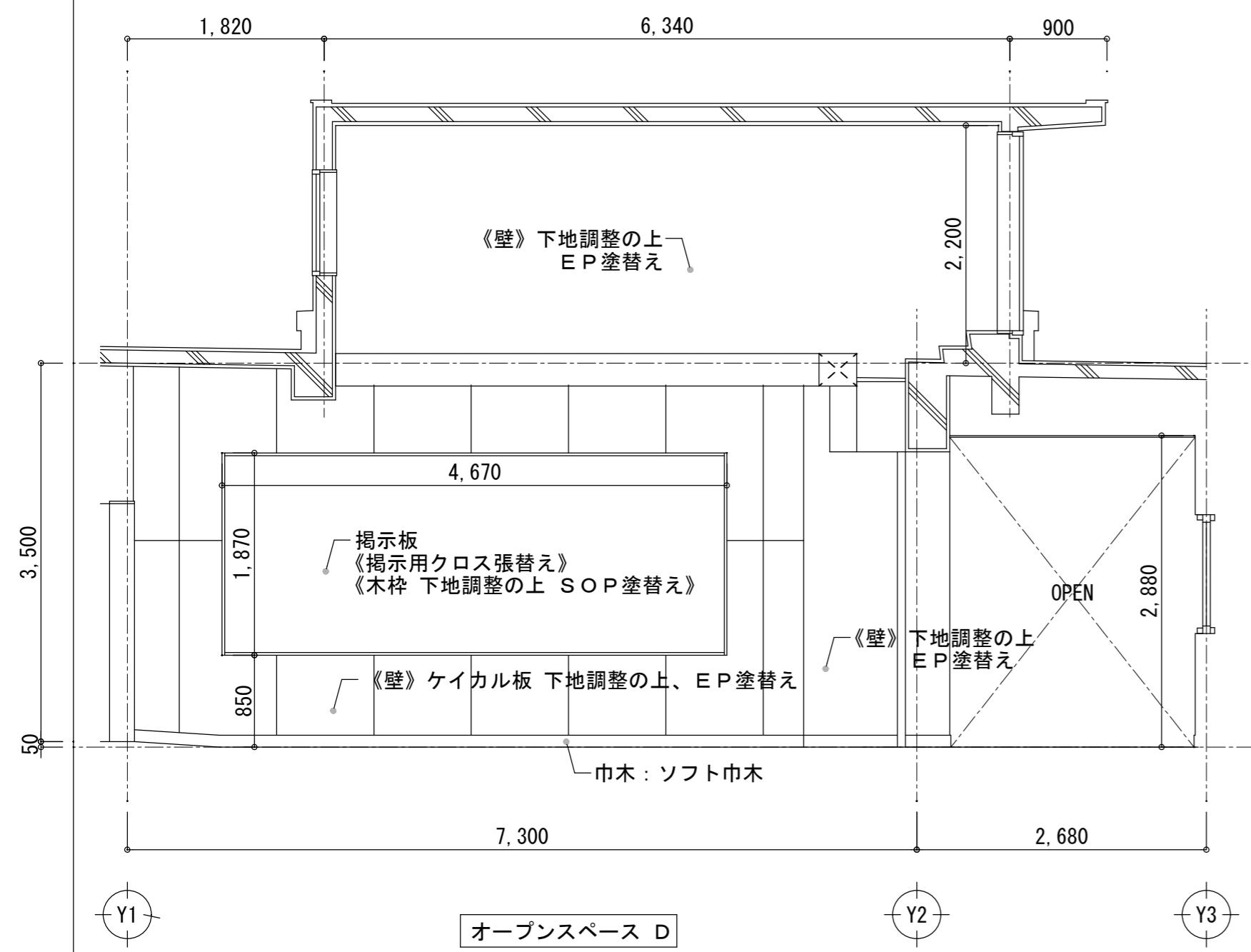
※ きらぼし 1、2はきらぼし 3に準ずる。

※ 壁塗替え範囲の掲示物等は、一時撤去の後再取付とする。



※ きらぼし1、2はきらぼし3に準ずる。

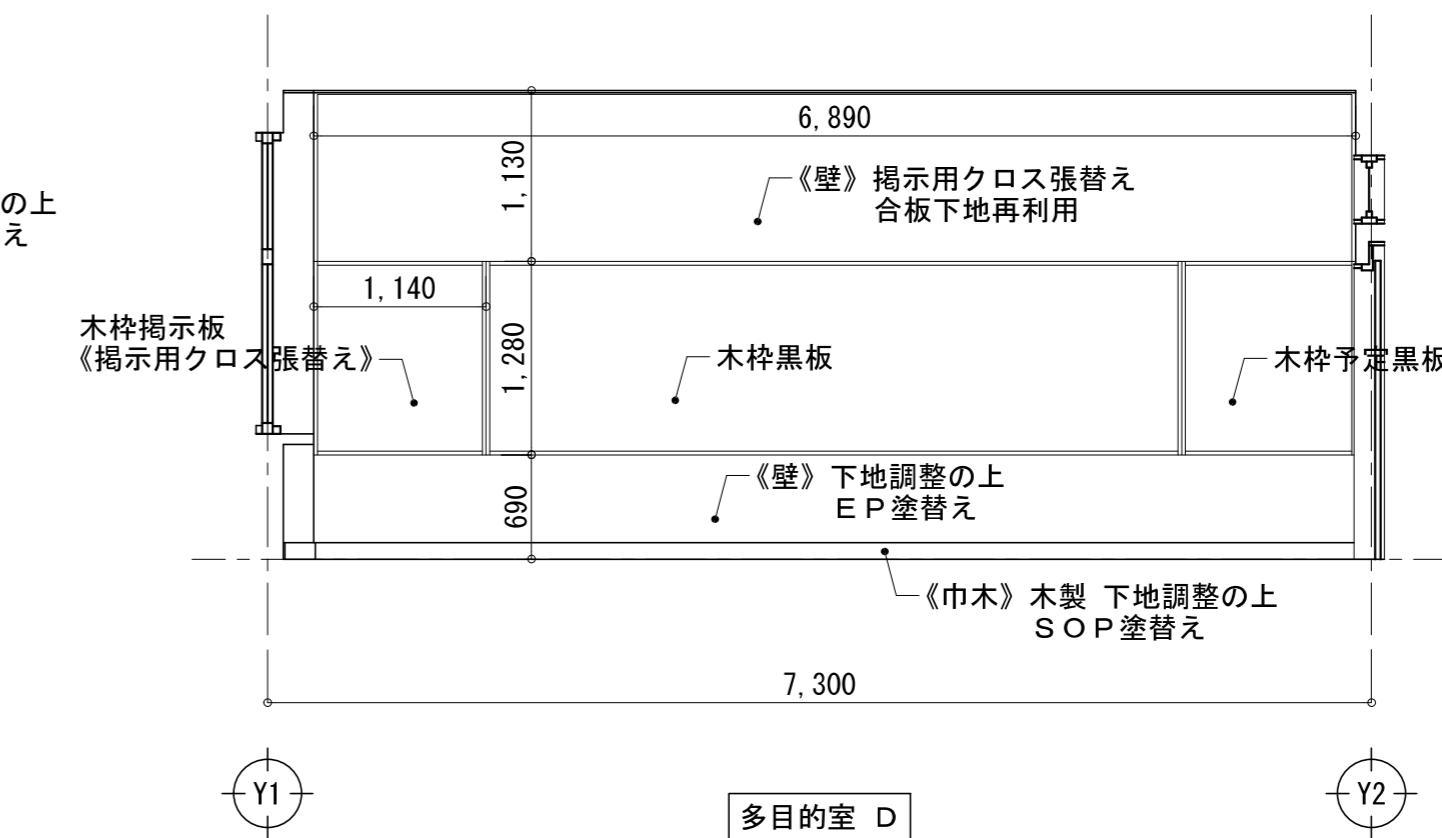
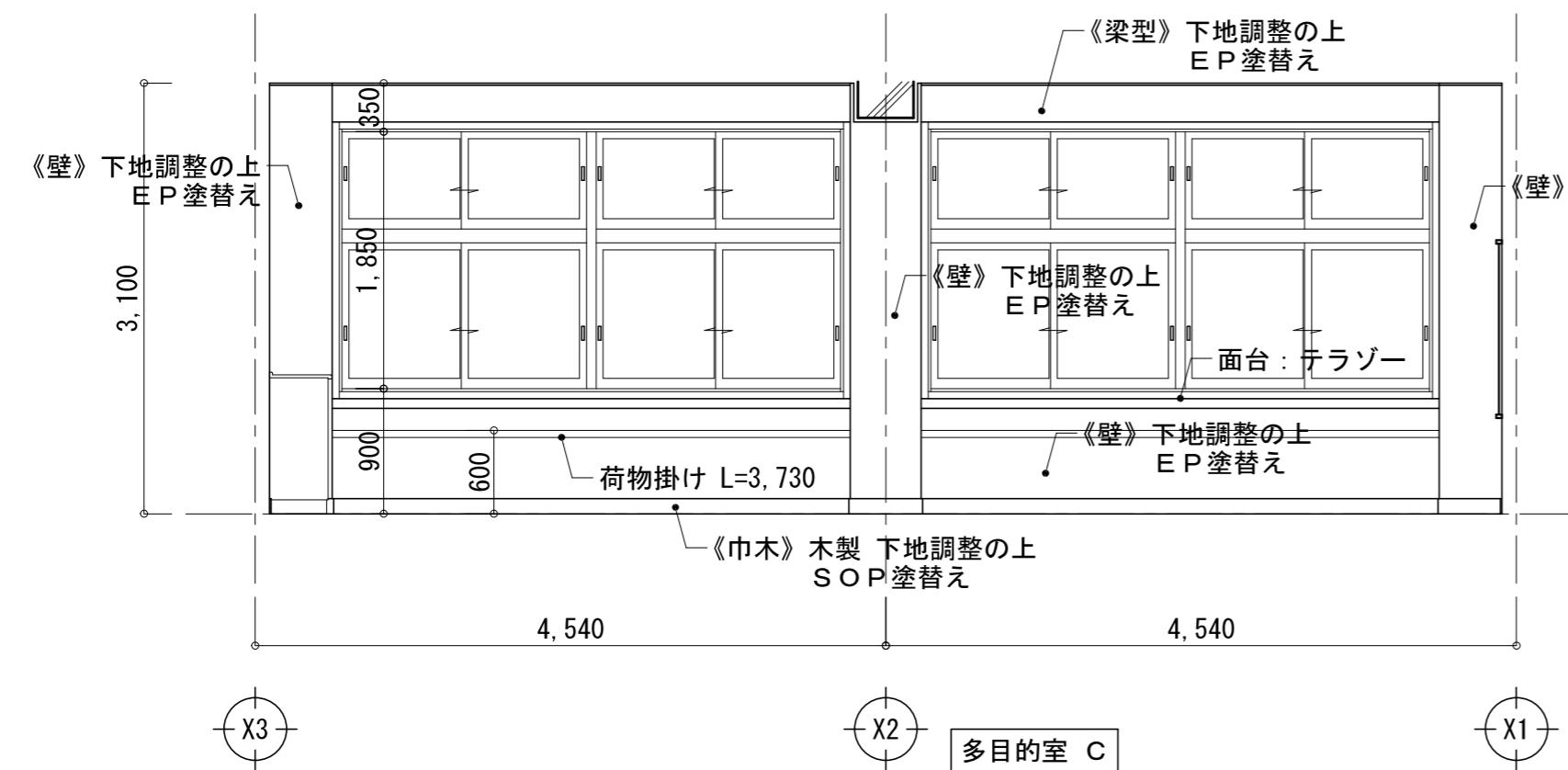
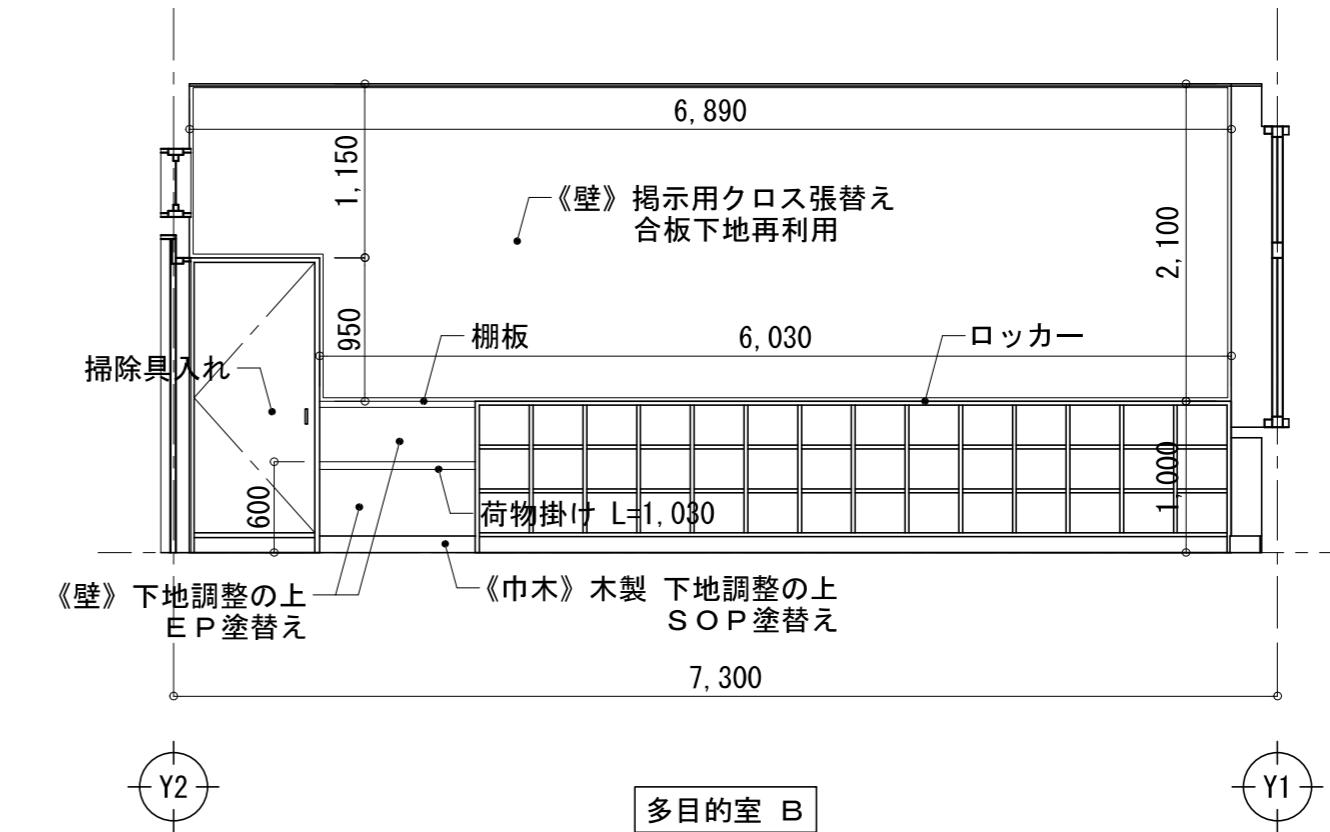
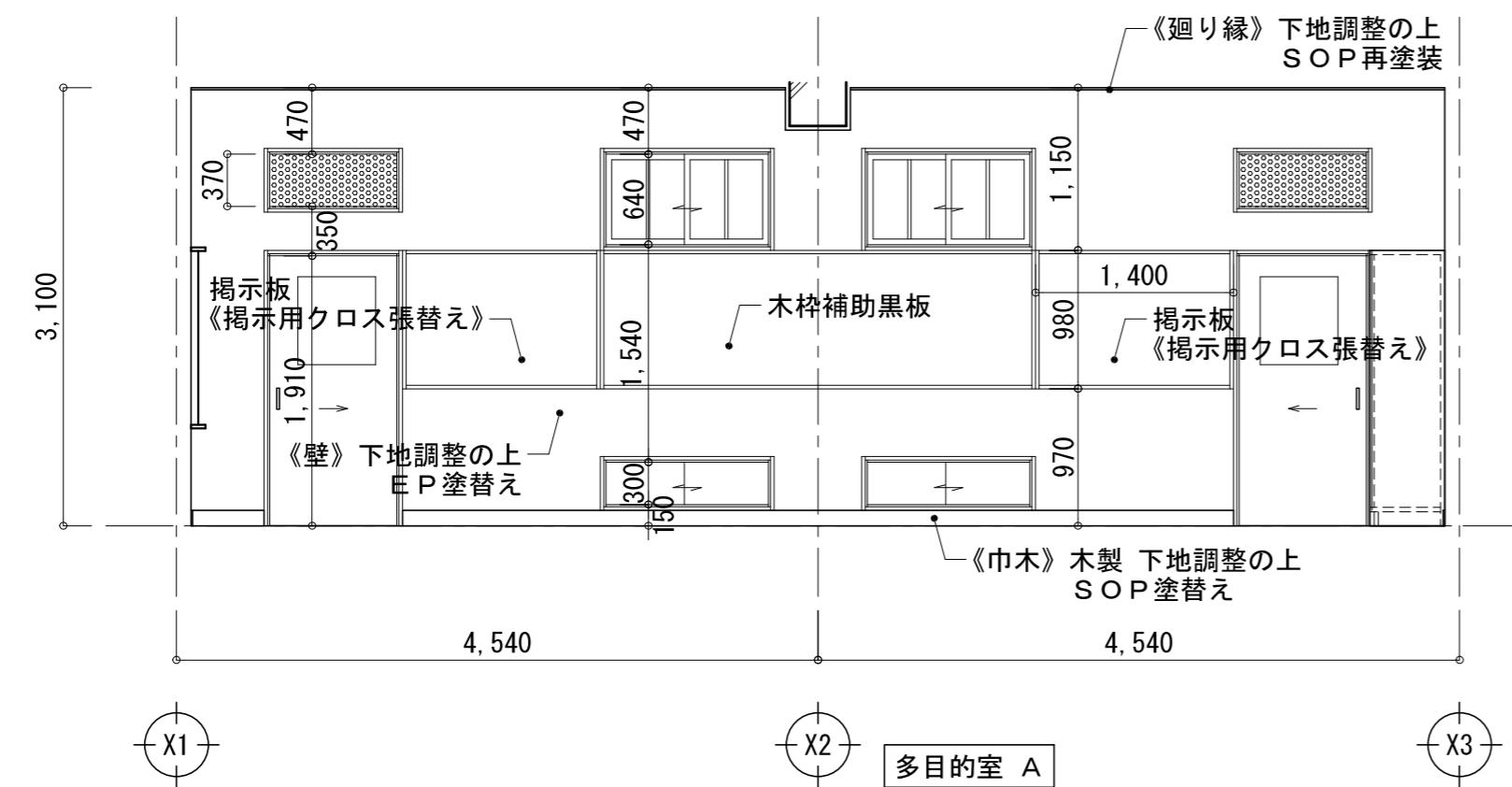
※ 壁塗替え範囲の掲示物等は、一時撤去の後再取付とする。





※ 壁塗替え範囲の掲示物等は、一時撤去の後再取付とする。

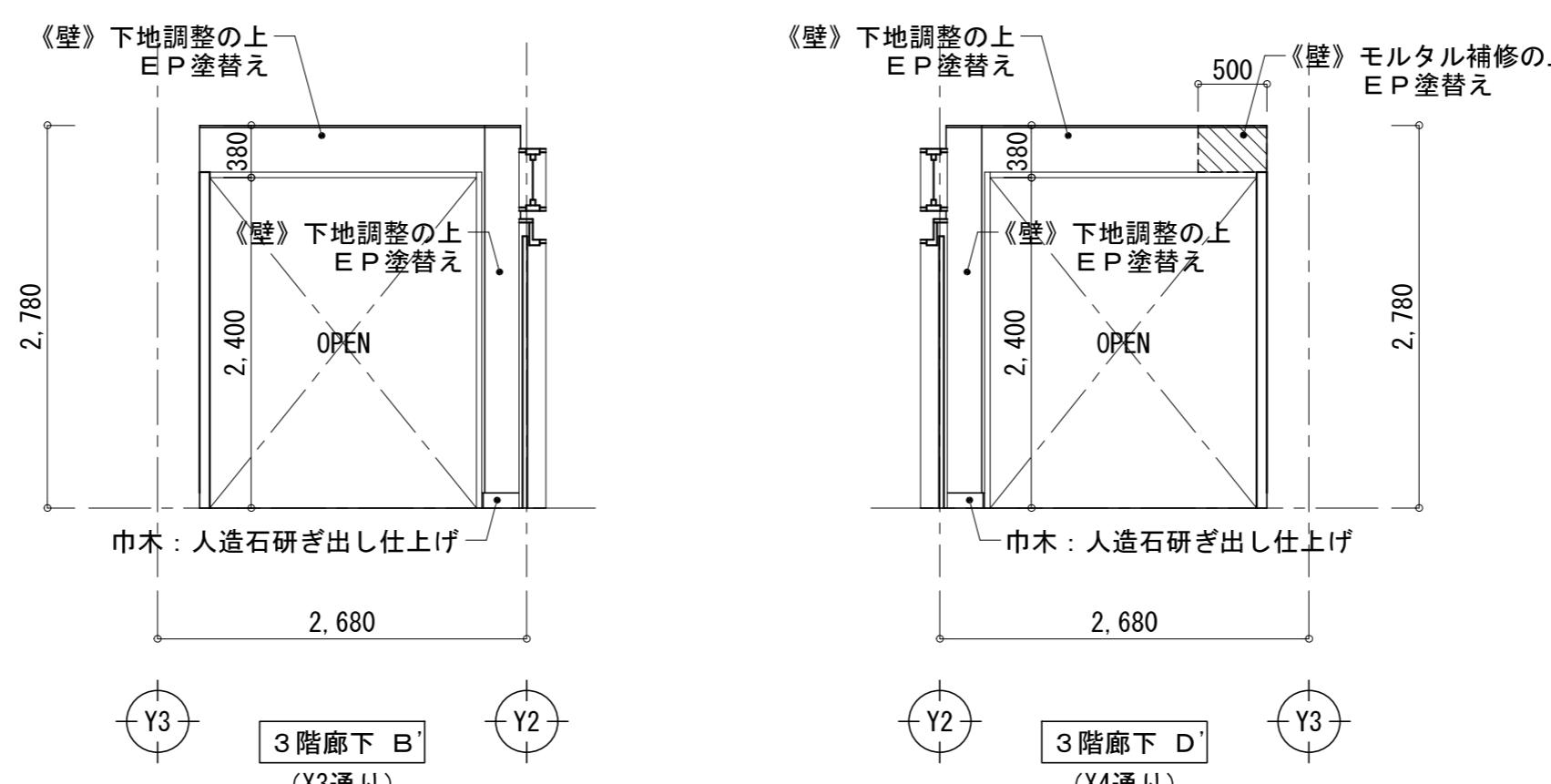
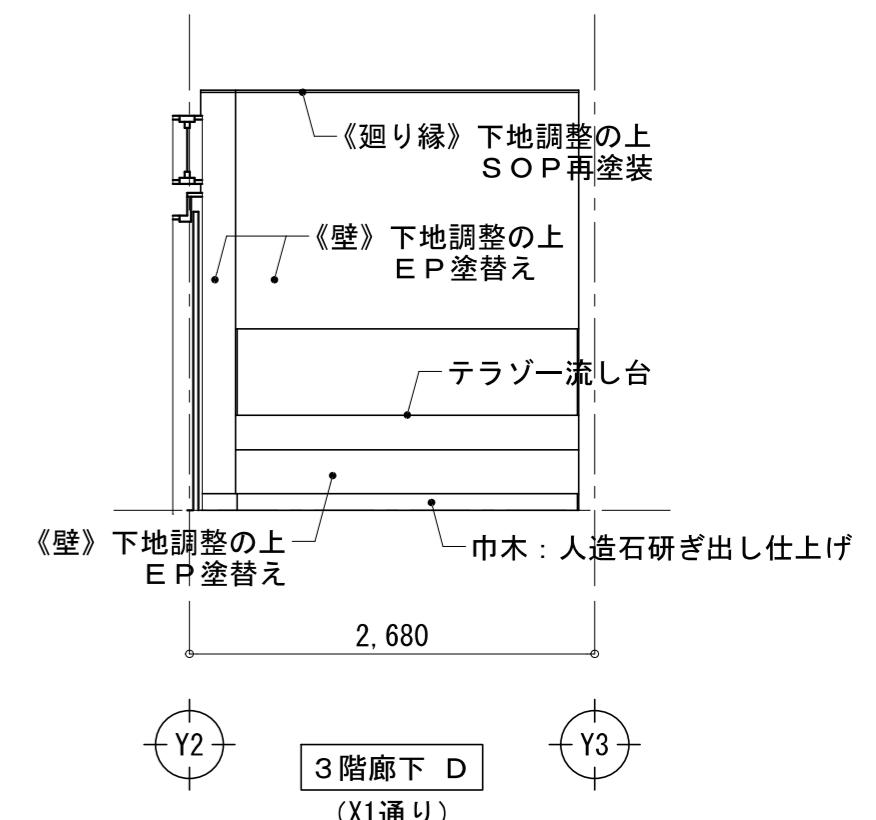
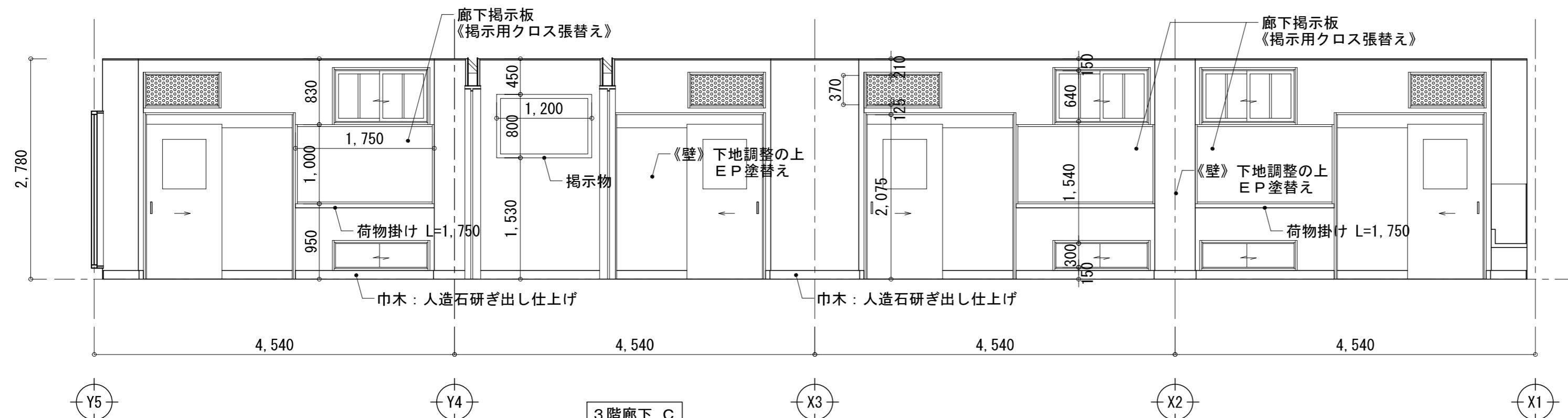
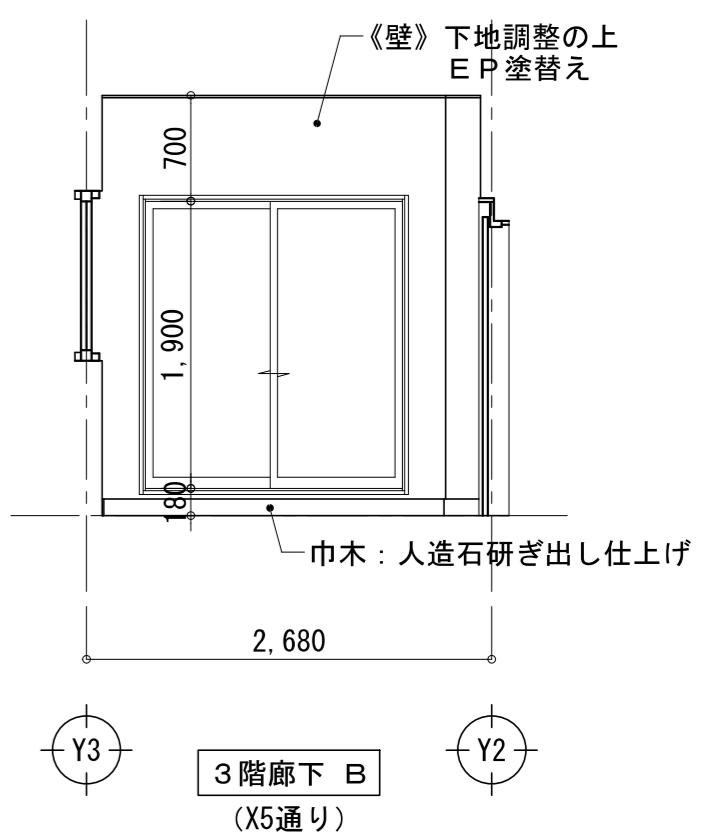
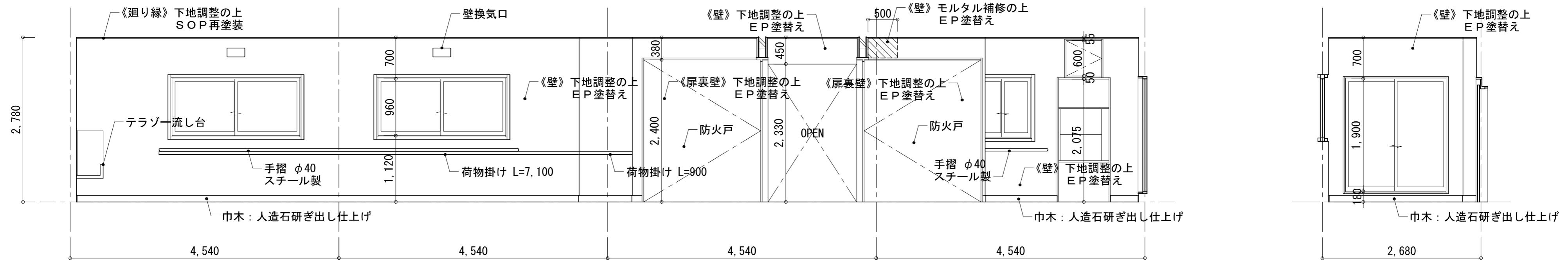
アルテック設計	一級建築士 第177266号 伊藤 公智	DRAWING BY DATA	原図: A2 【】内は撤去を示す。 《》内は新設を示す。 カッコ無しのものは既存のまます。	津市立安濃小学校長寿命化改修工事	校舎中央棟 2階展開図4	A - 40
津市大谷町233番地 TEL 059-225-1602						S: 1/50



※ 非常物資保管室は多目的室に準ずる。

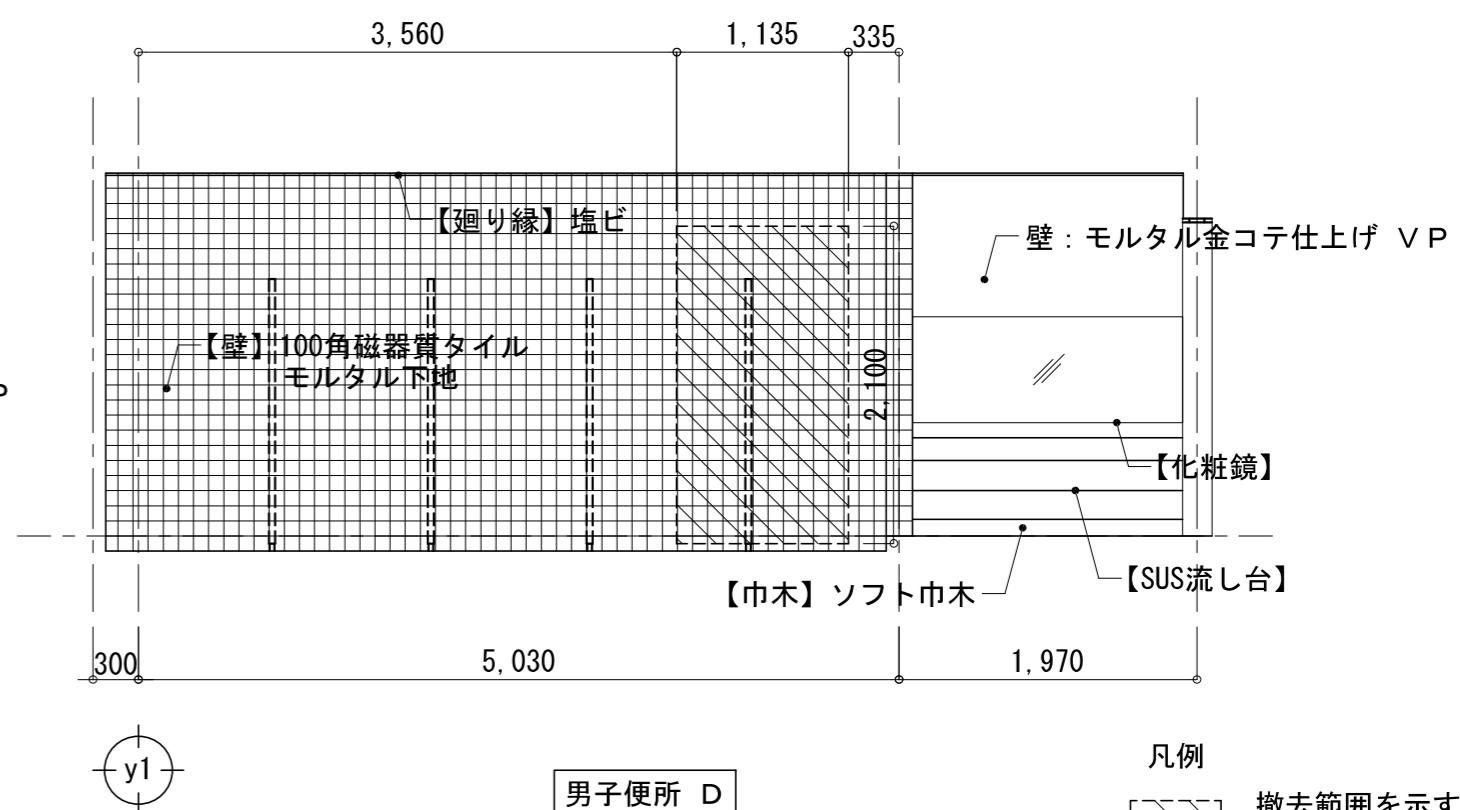
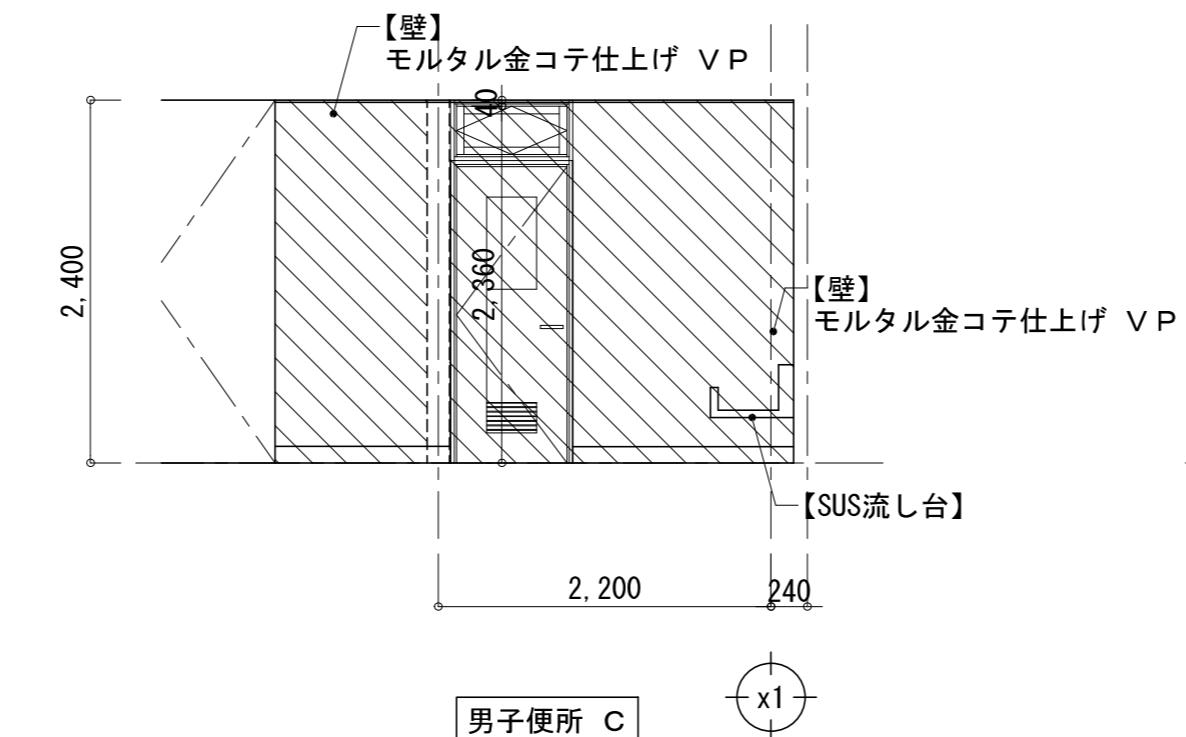
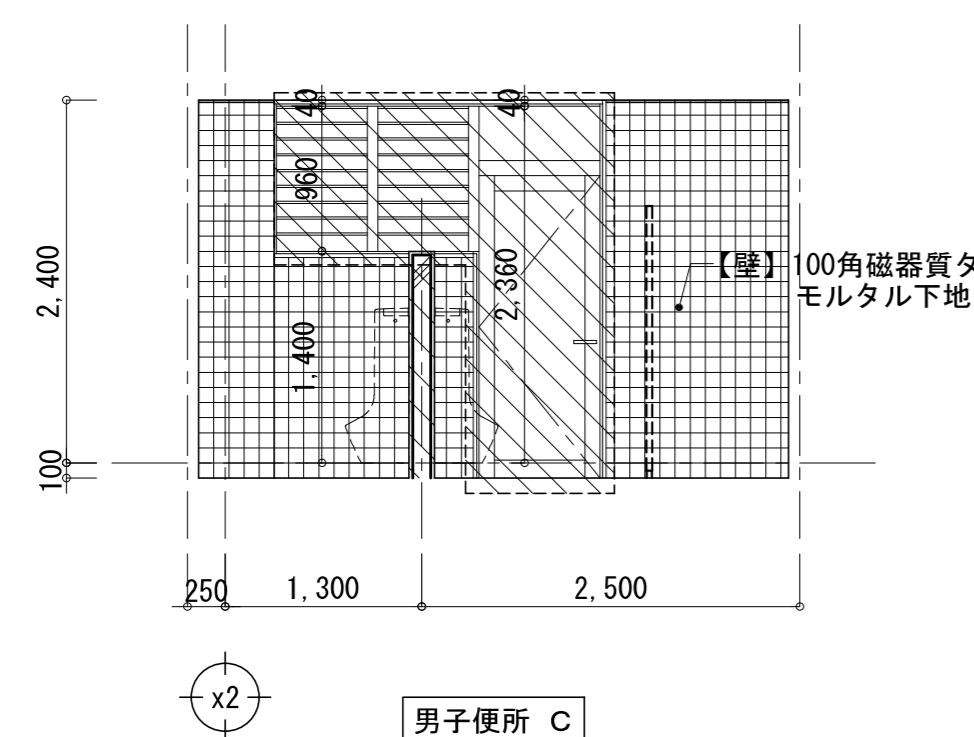
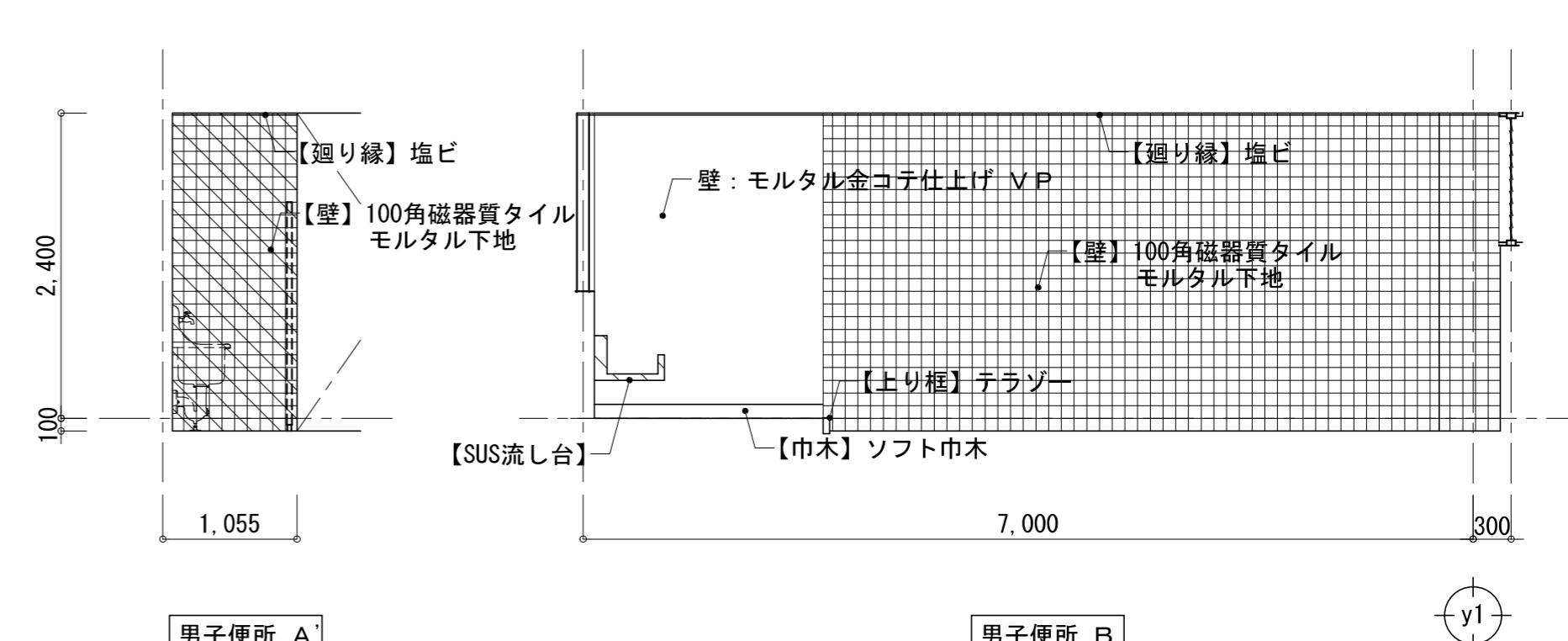
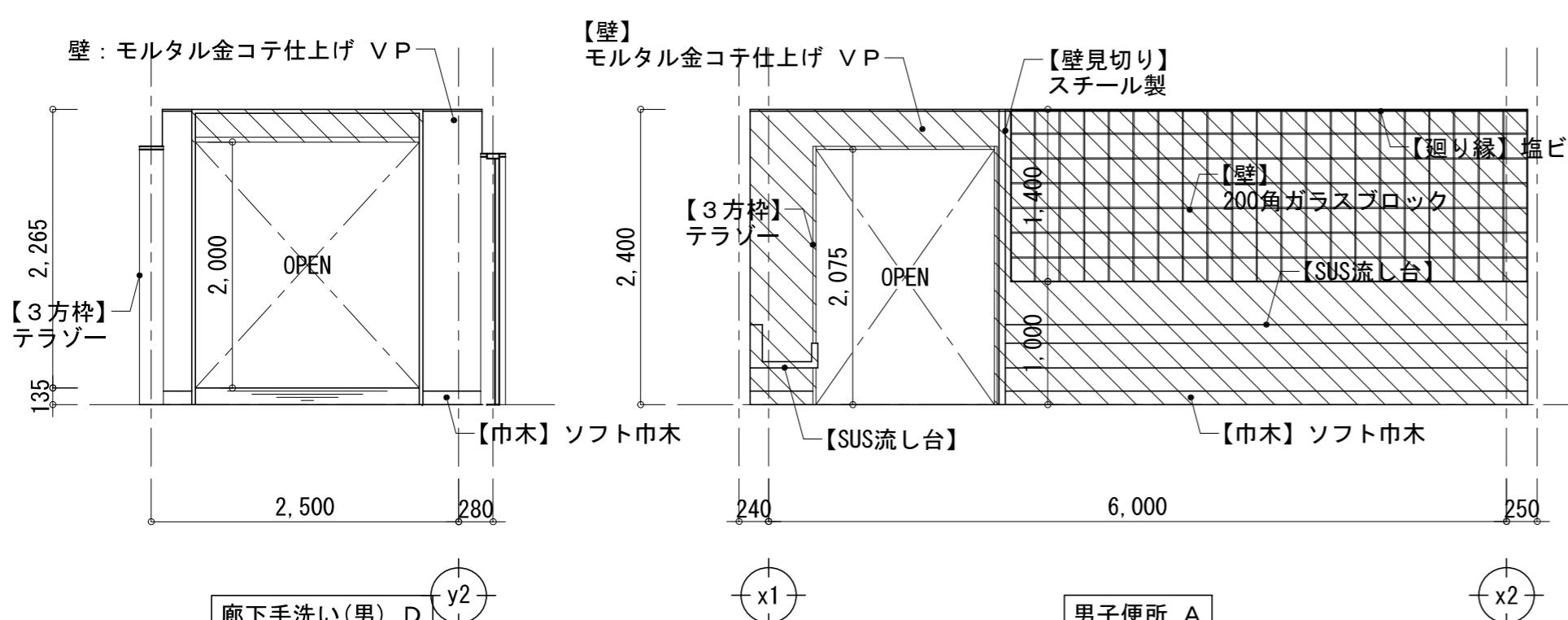
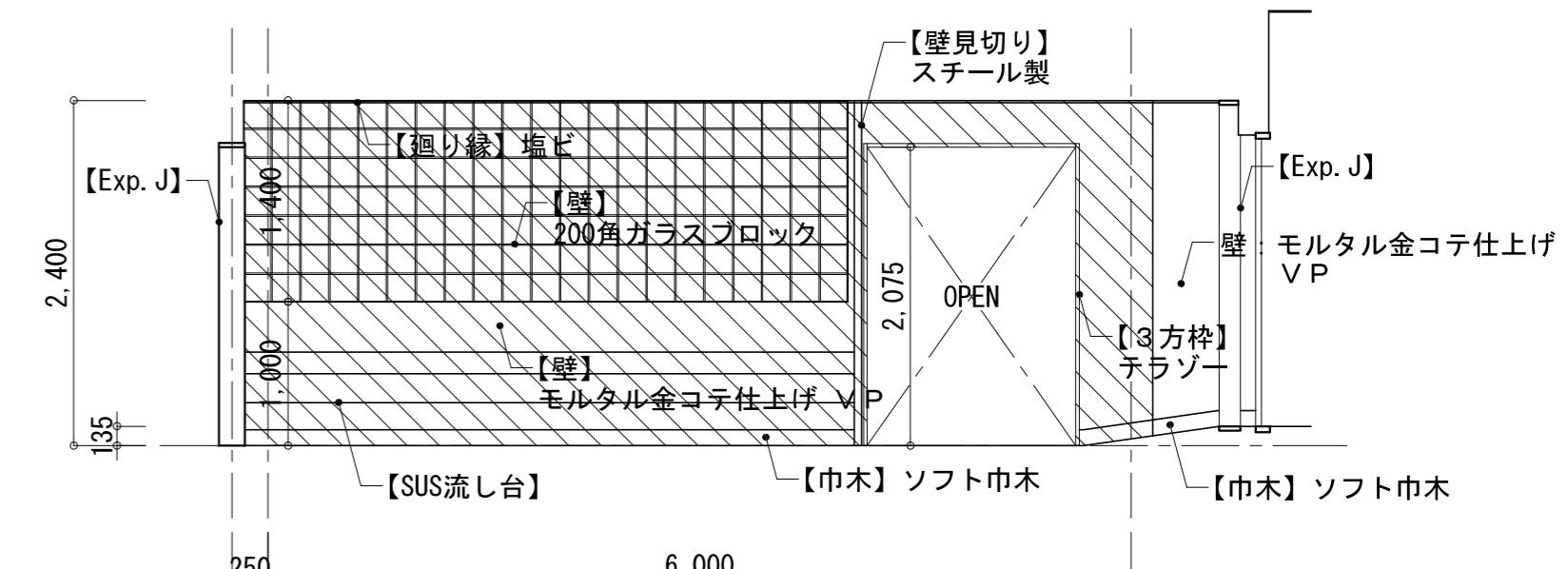
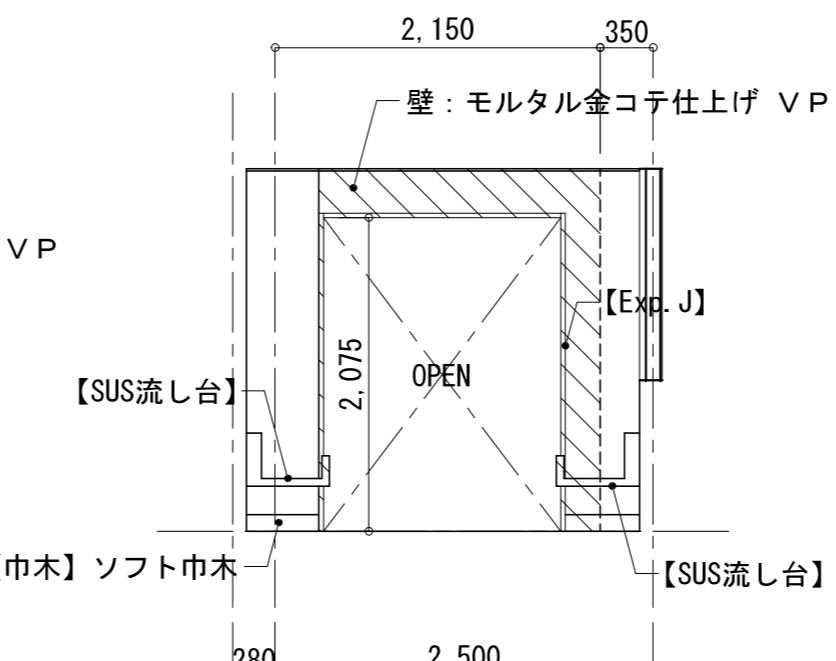
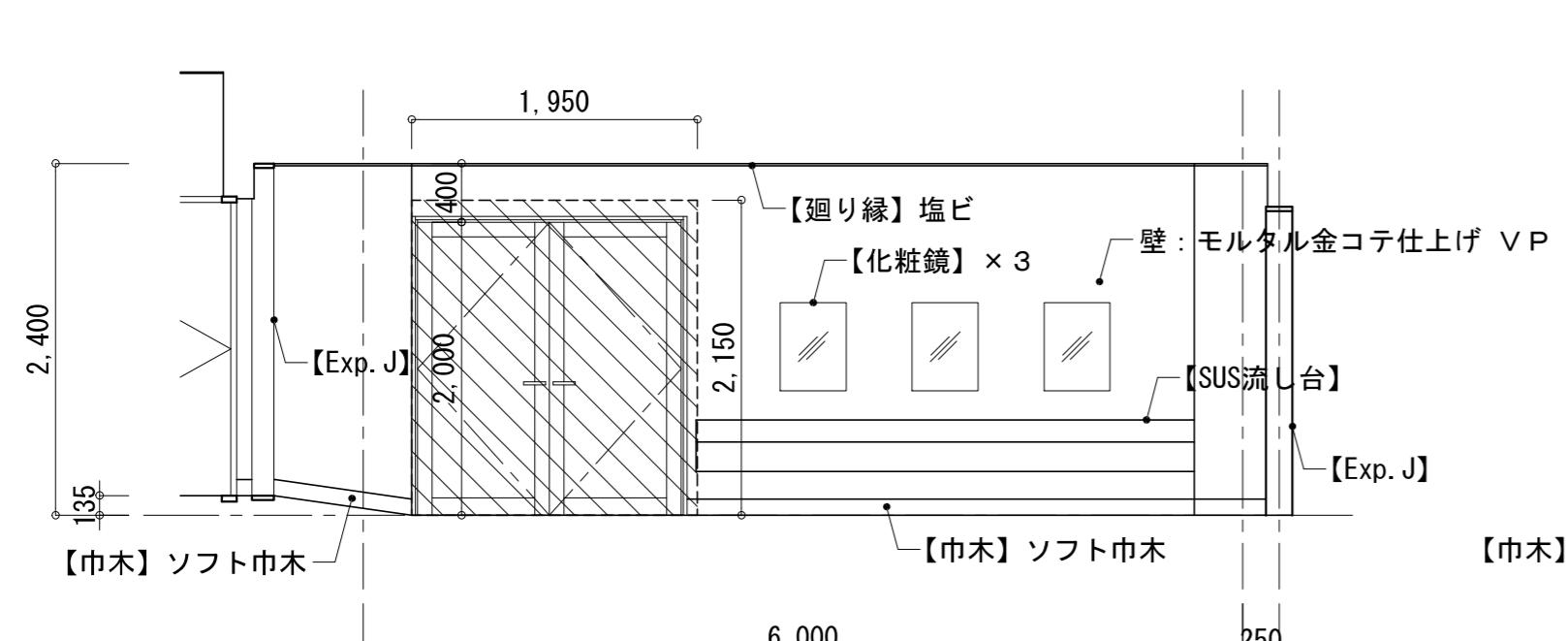
※ 壁塗替え範囲の掲示物等は、一時撤去の後再取付とする。

アルテック設計	一級建築士 第177266号 伊藤 公智	DRAWING BY DATA	原図: A2 【】内は撤去を示す。 《》内は新設を示す。 カッコ無しのものは既存のままする。	津市立安濃小学校長寿命化改修工事	A - 41 校舎中央棟 3階展開図1 S: 1/50
津市大谷町233番地 TEL 059-225-1602					



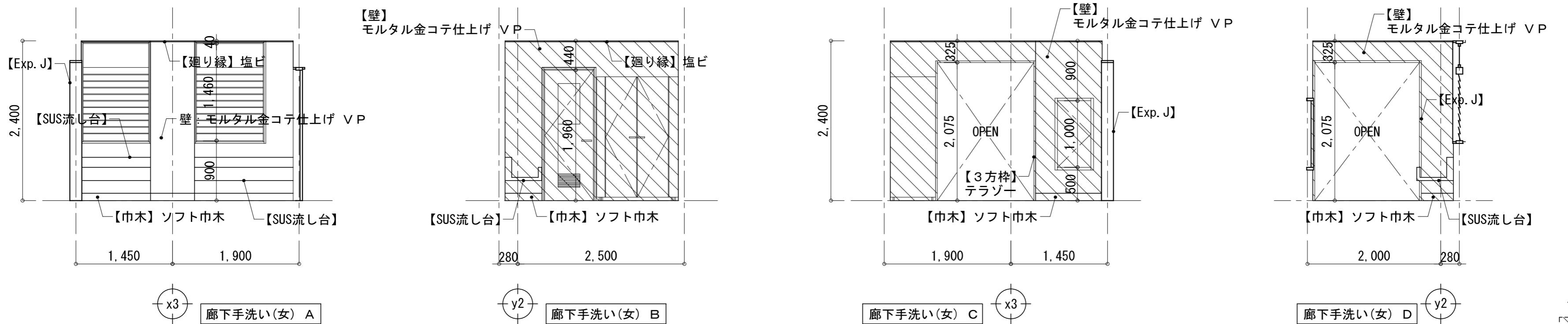
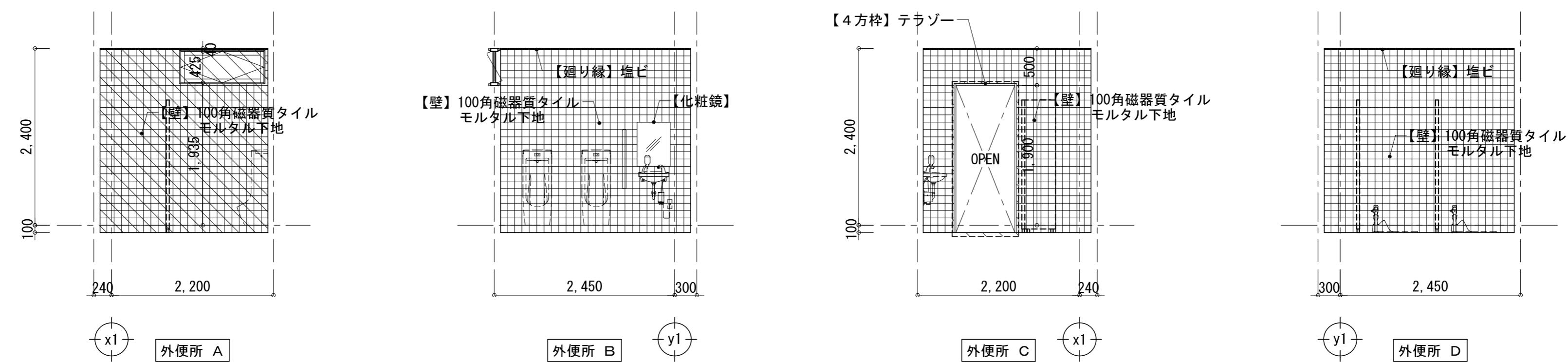
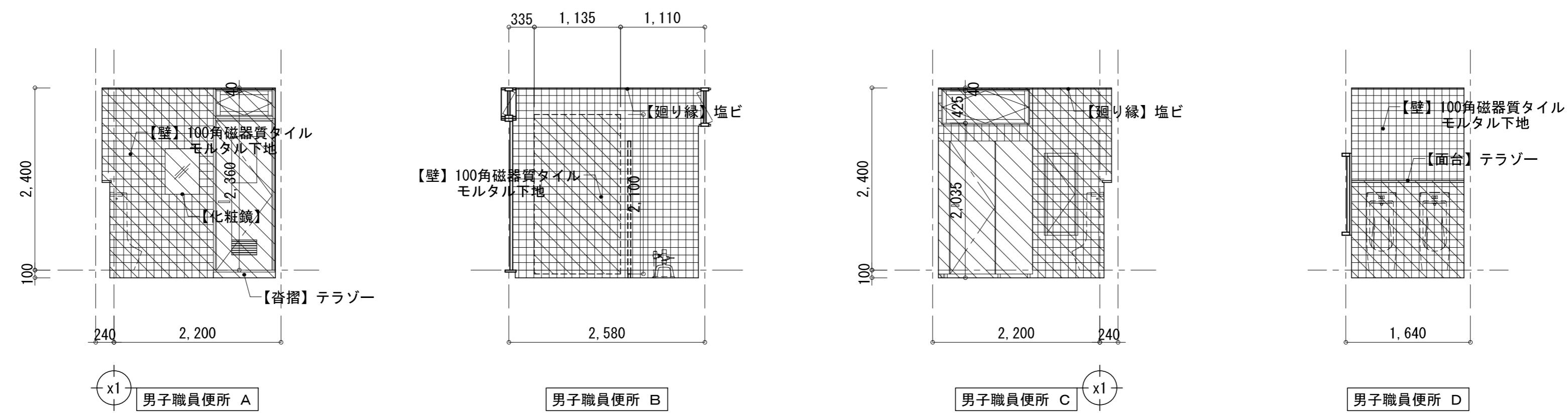
※ 壁塗替え範囲の掲示物等は、一時撤去の後再取付とする。

アルテック設計	一級建築士 第177266号 伊藤 公智	DRAWING BY DATA	原図: A2 【】内は撤去を示す。 《》内は新設を示す。 カッコ無しのものは既存のまます。	津市立安濃小学校長寿命化改修工事	校舎中央棟 3階展開図2	A - 42 S: 1/50
津市大谷町233番地 TEL 059-225-1602						

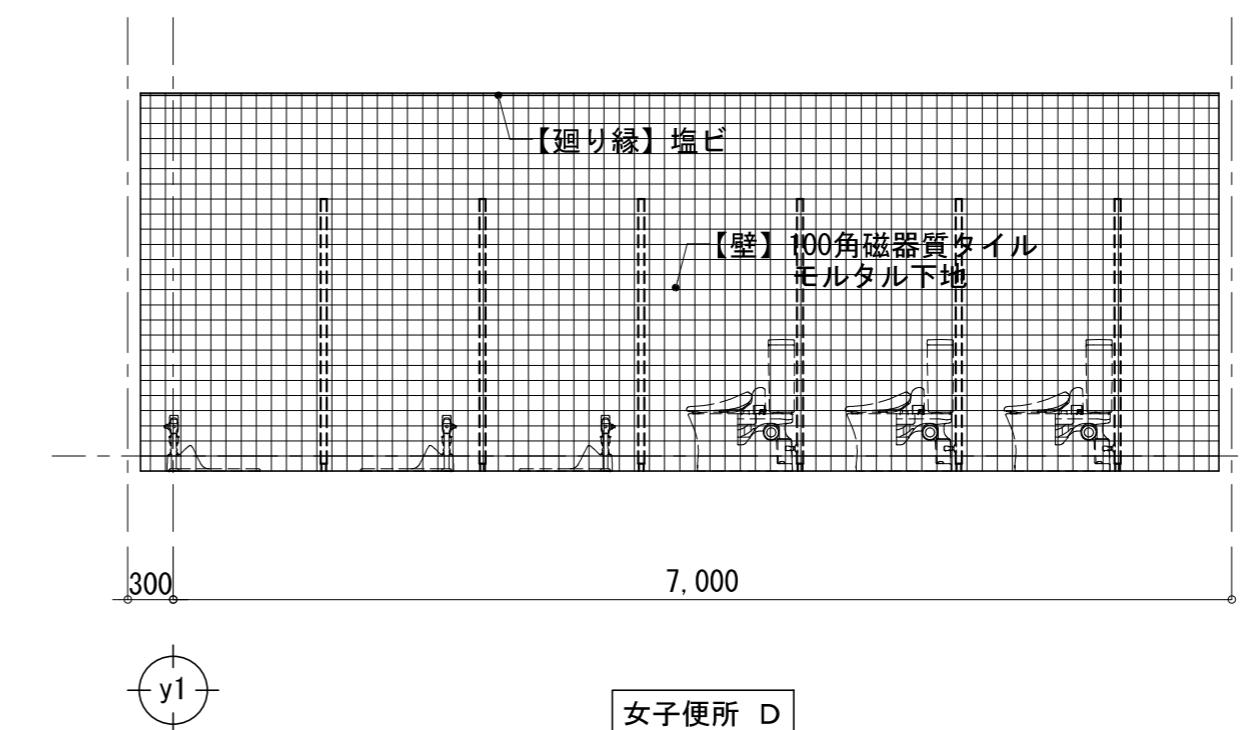
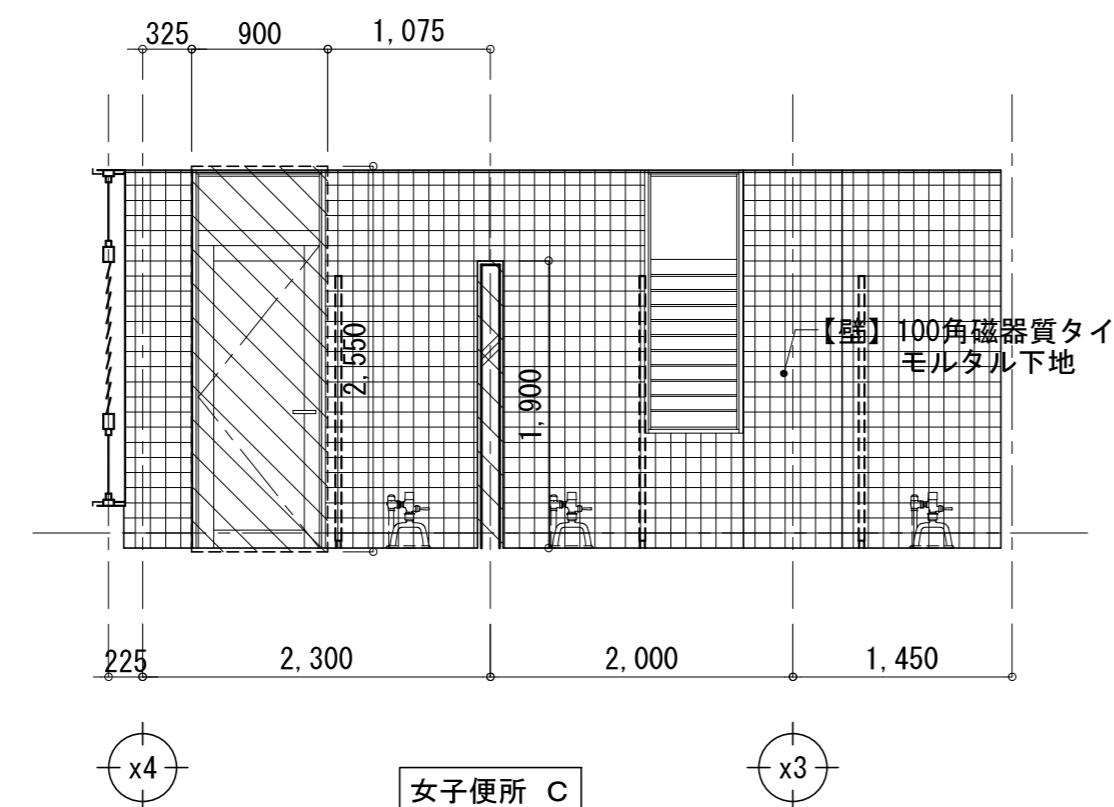
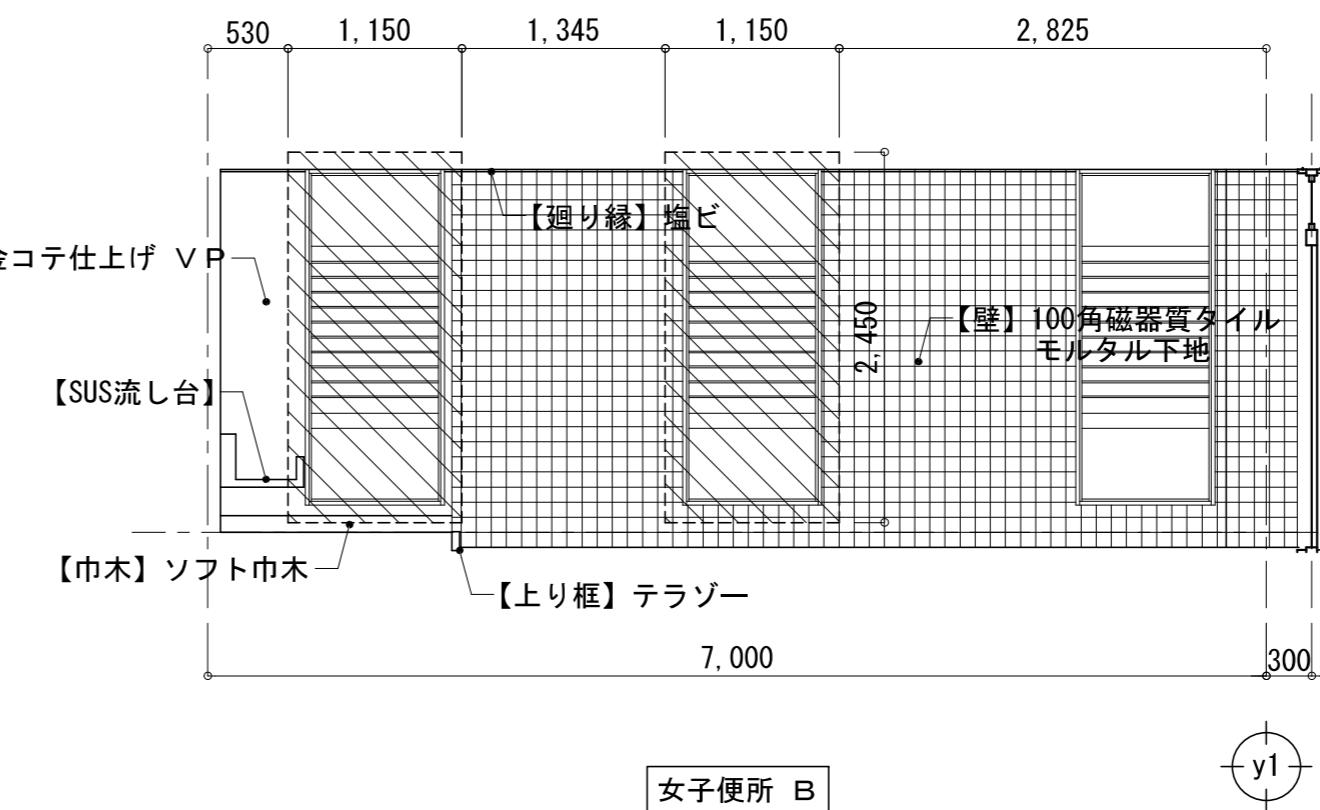
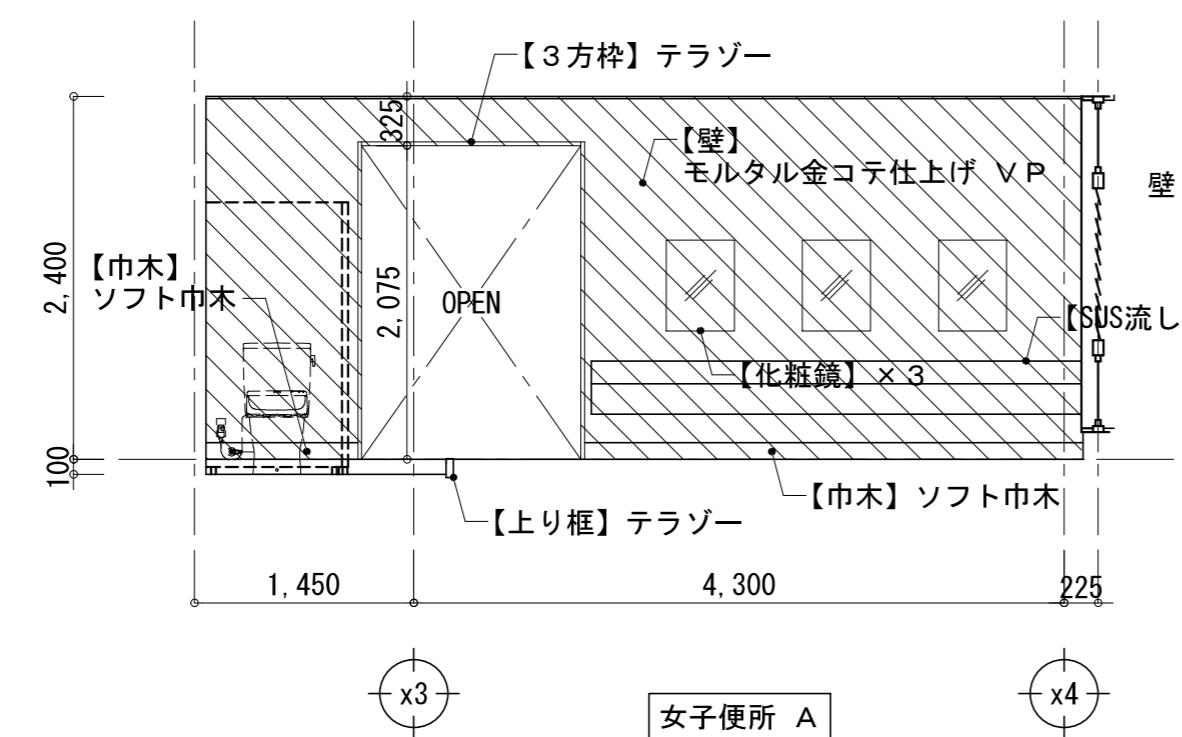
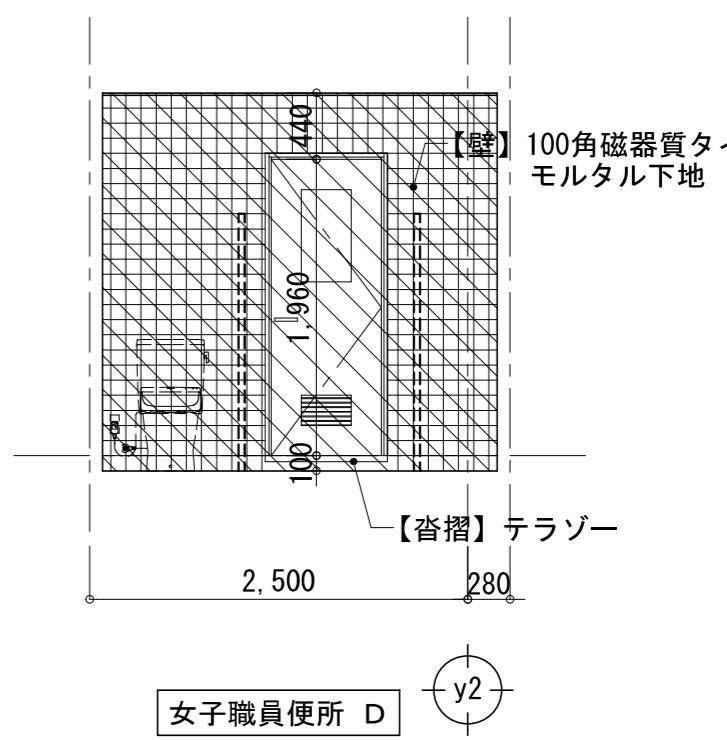
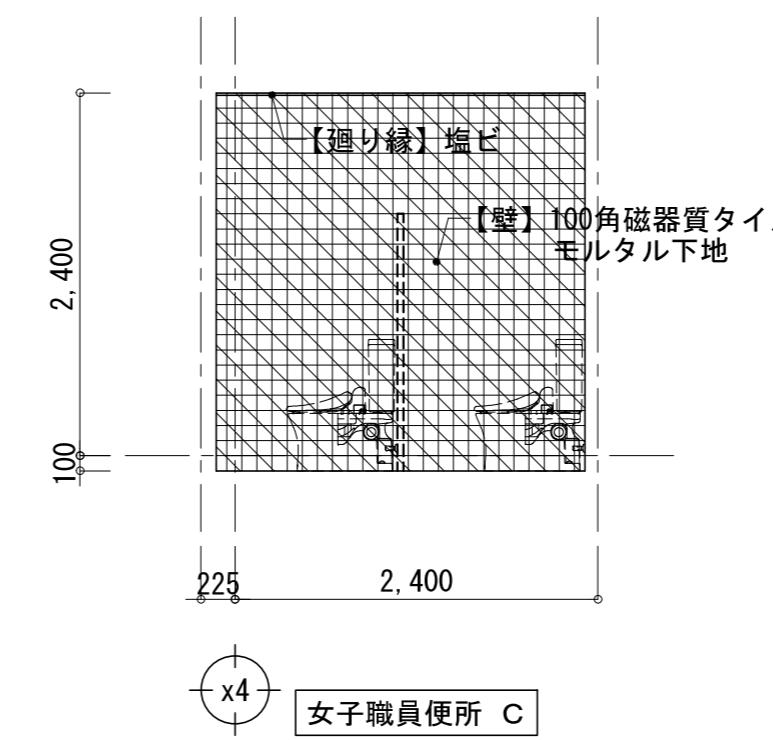
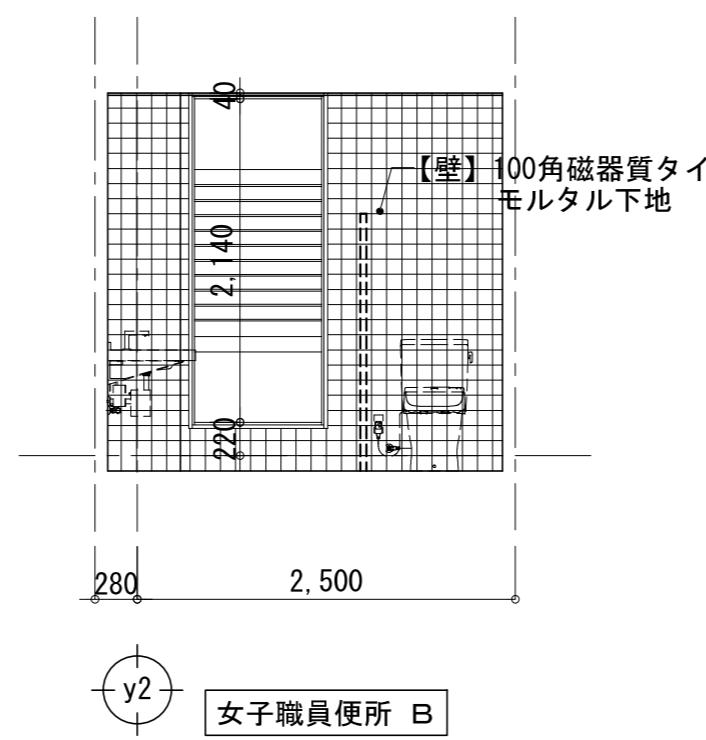
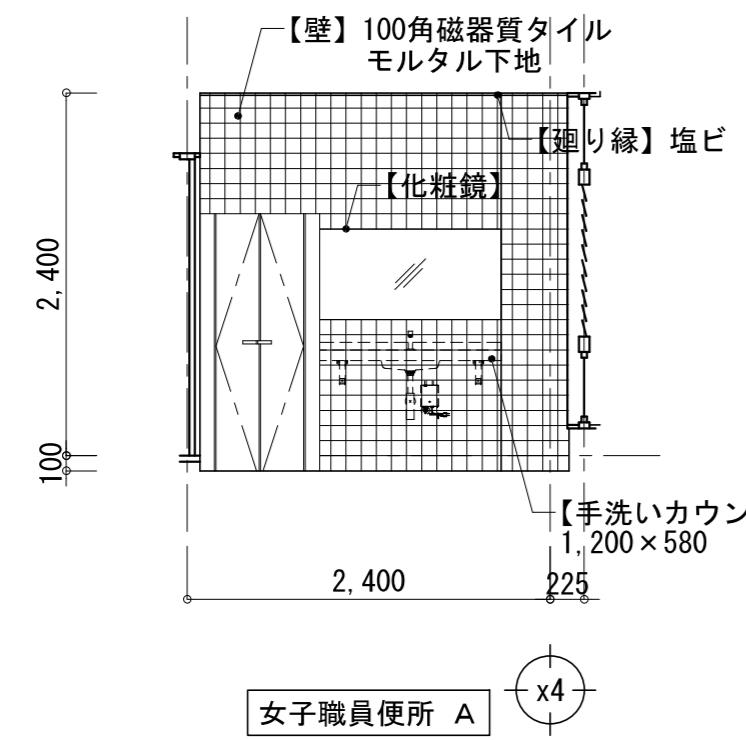


凡例  
撤去範囲を示す  
周囲カッター入れ共 (R C・C B)

アルテック設計	一級建築士 第177266号 伊藤 公智	DRAWING BY DATA	原図: A2 【】内は撤去を示す。 《》内は新設を示す。 カッコ無しのものは既存のまます。	津市立安濃小学校長寿命化改修工事	便所棟(改修前) 1階展開図 1	A - 43
津市大谷町233番地 TEL 059-225-1602						S: 1/50

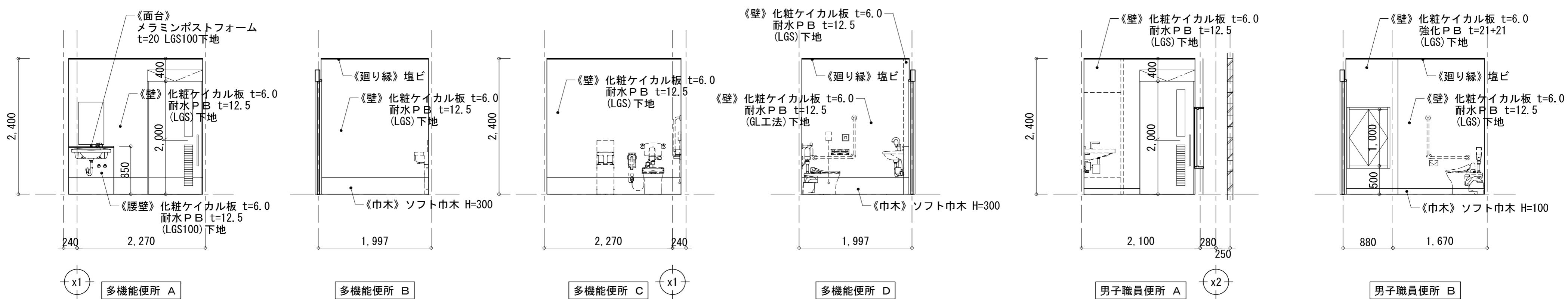
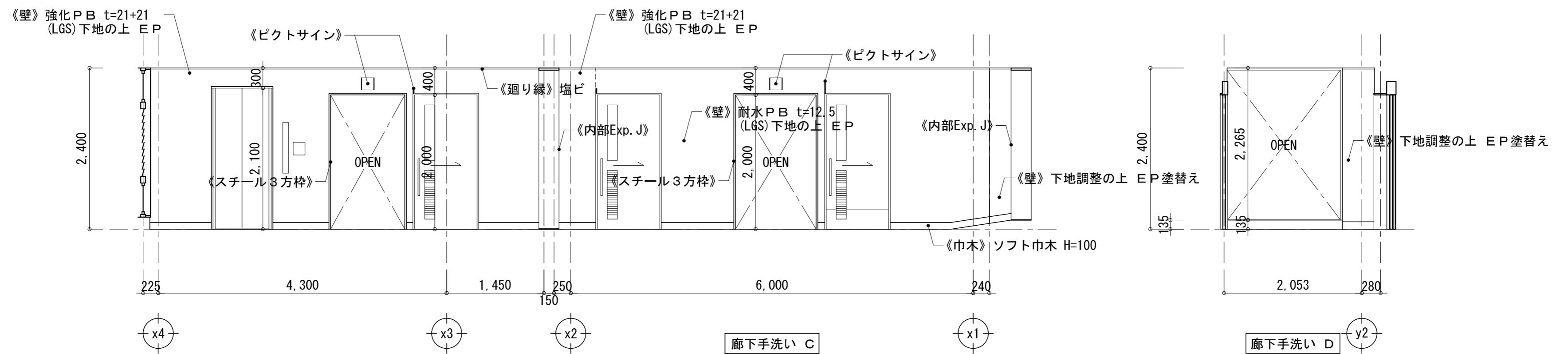
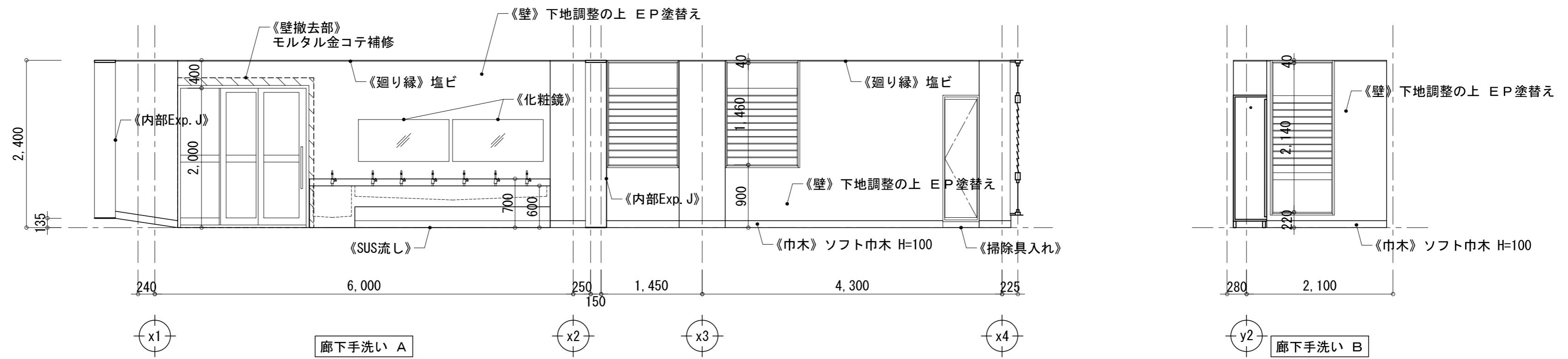


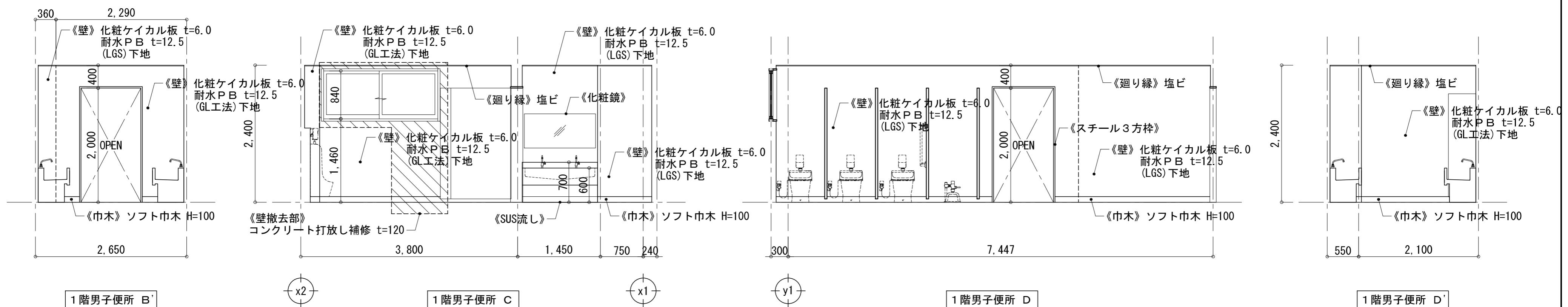
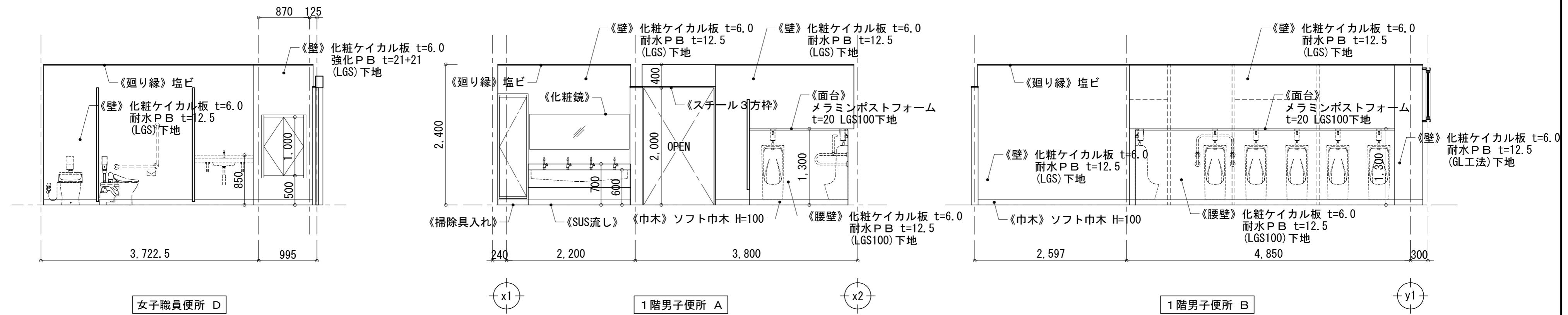
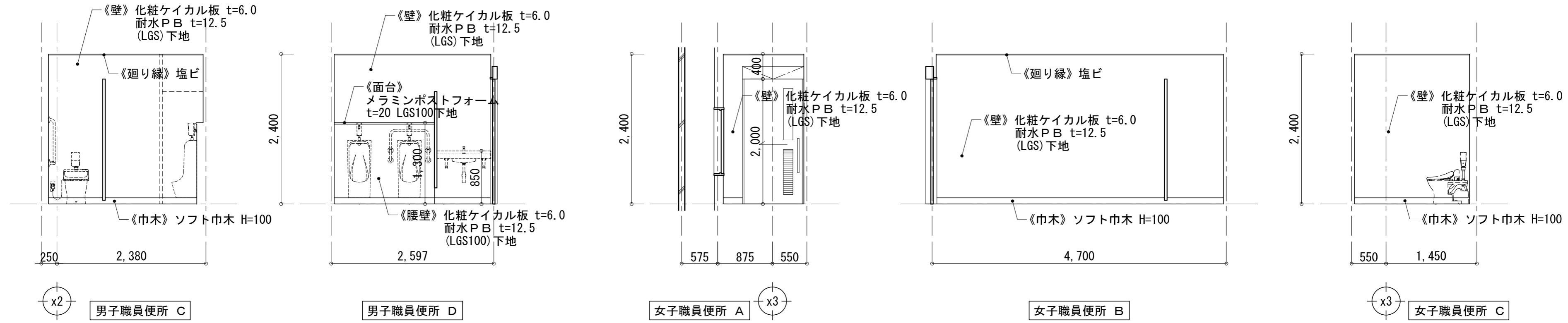
凡例  
撤去範囲を示す  
周囲カッター入れ共 (R C・C B)

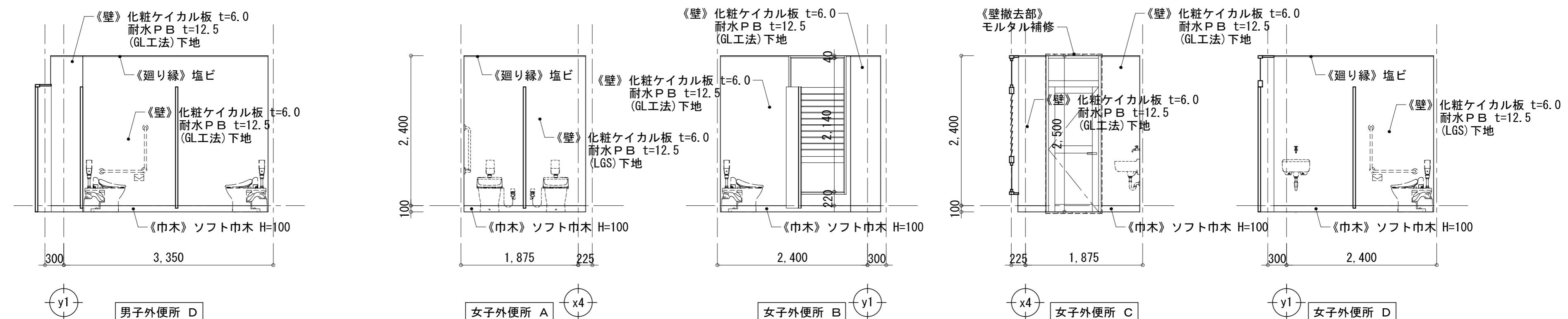
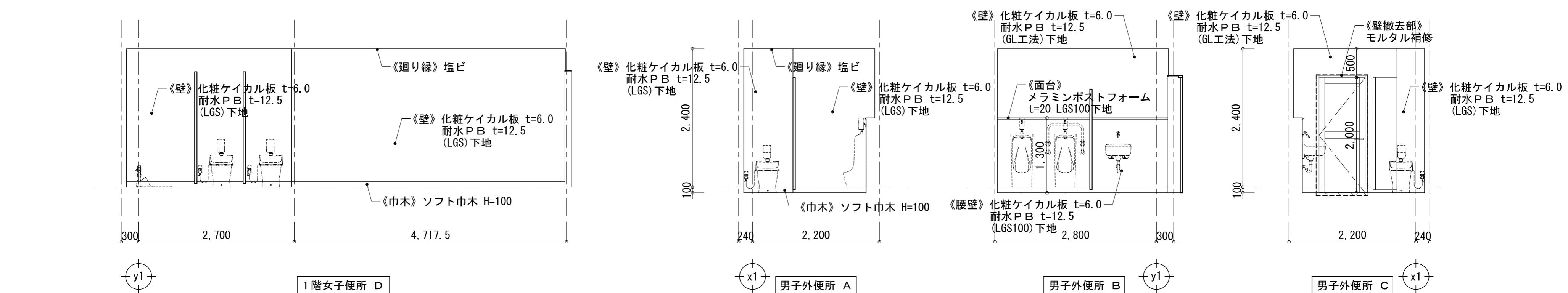
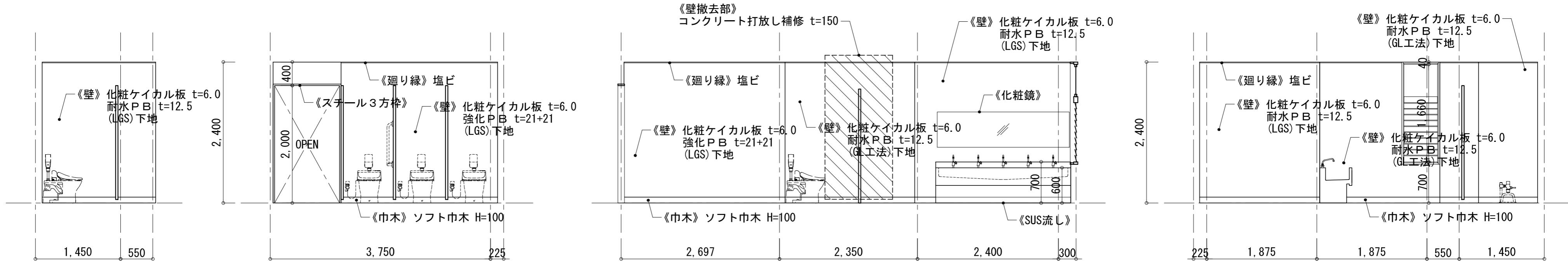


凡例  
 撤去範囲を示す  
周囲カッター入れ共 (R C・C B)

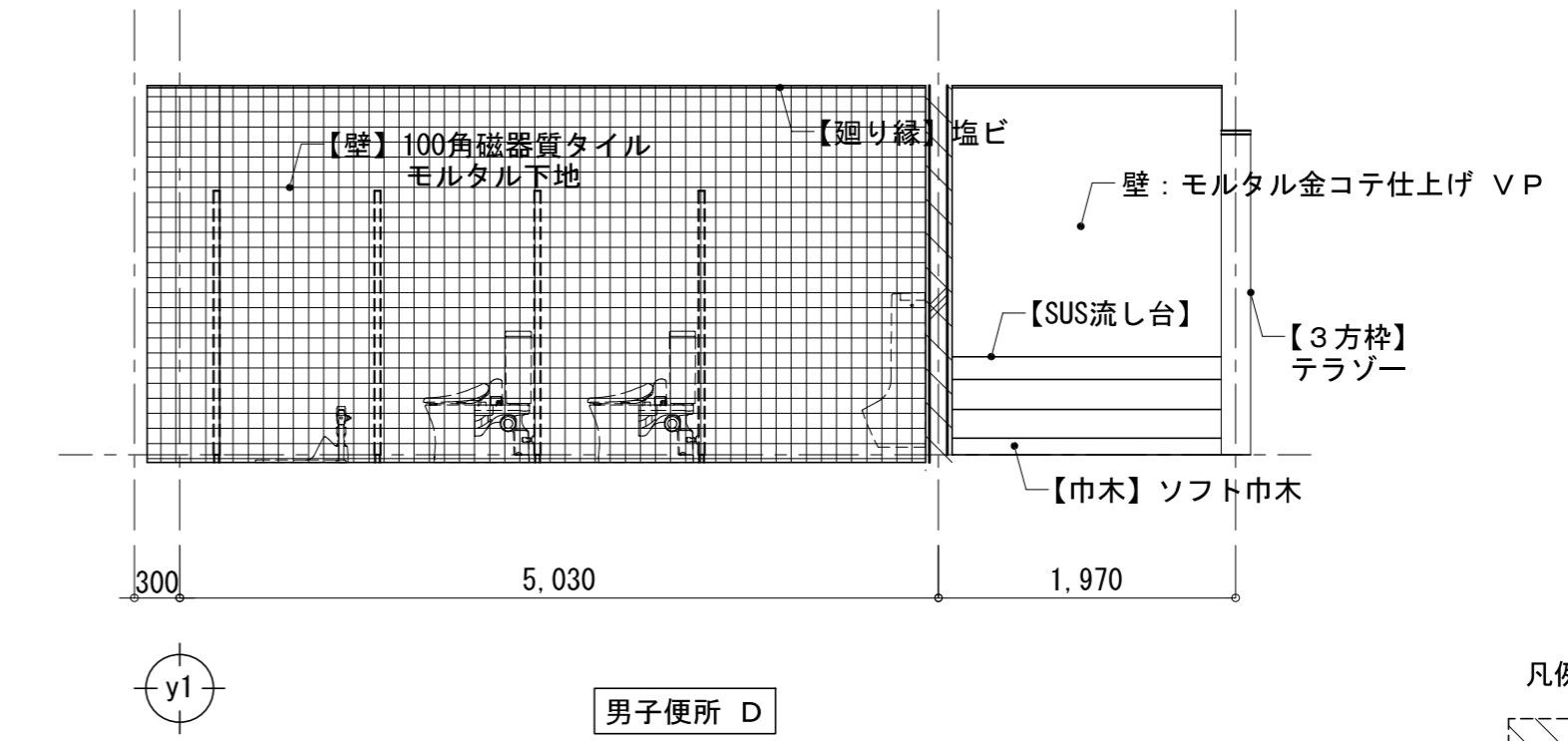
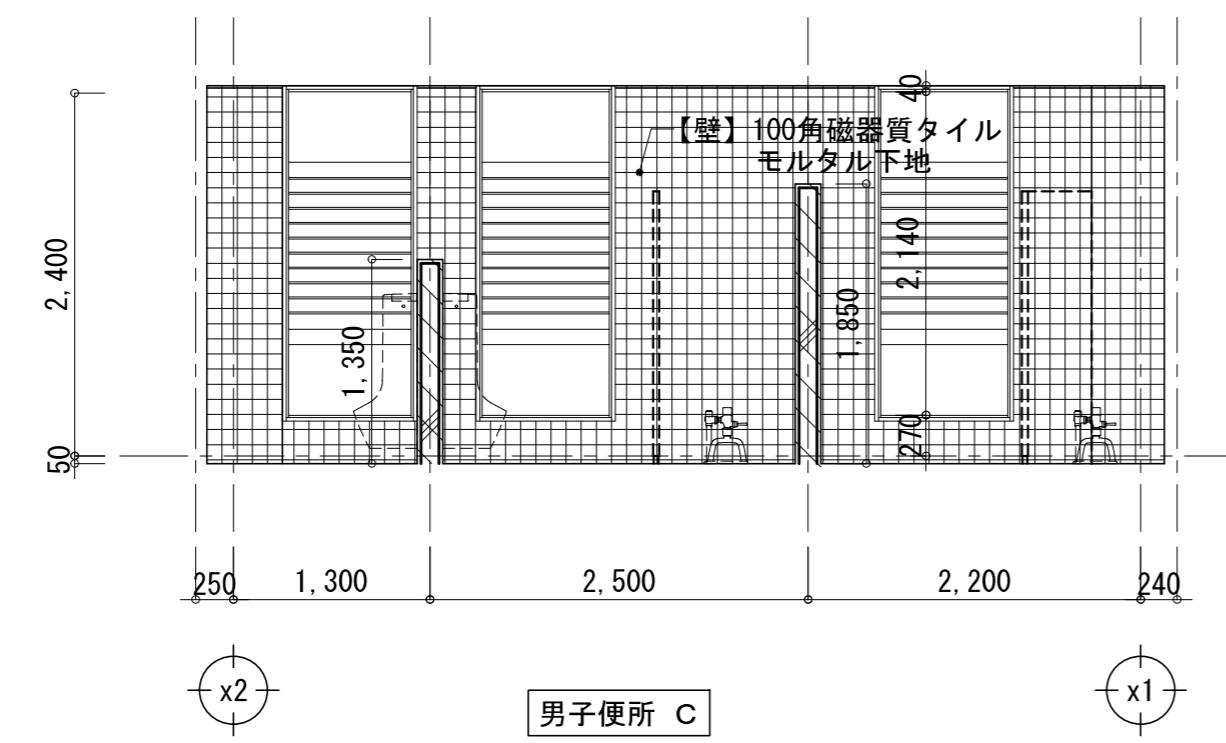
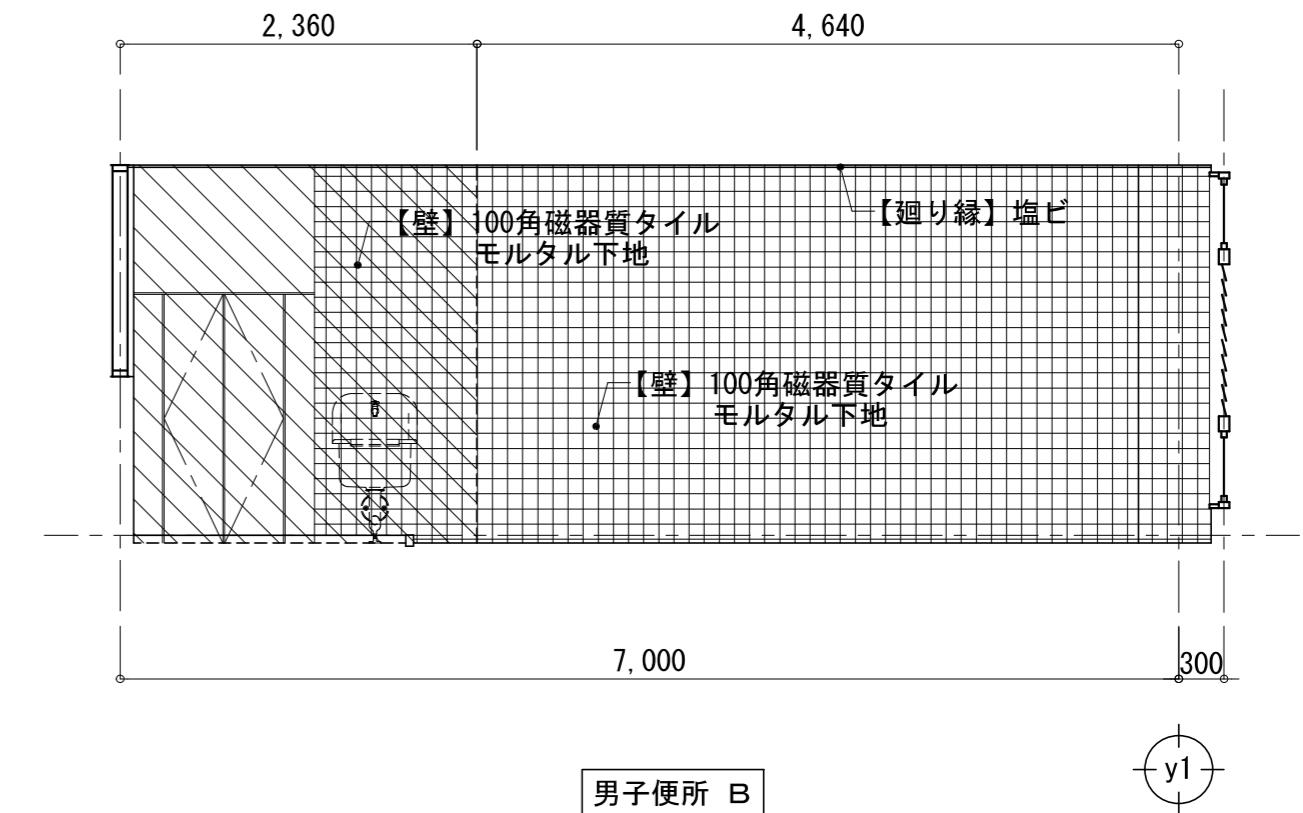
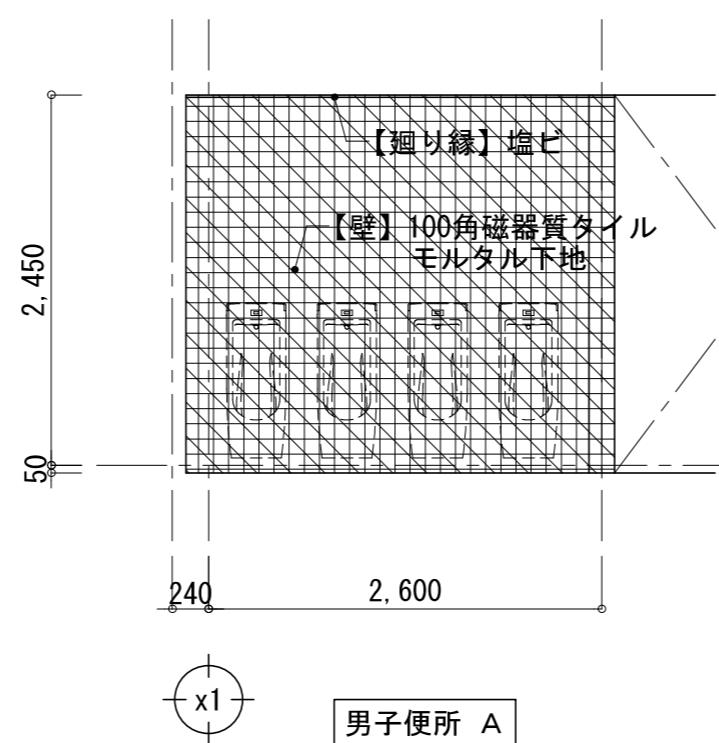
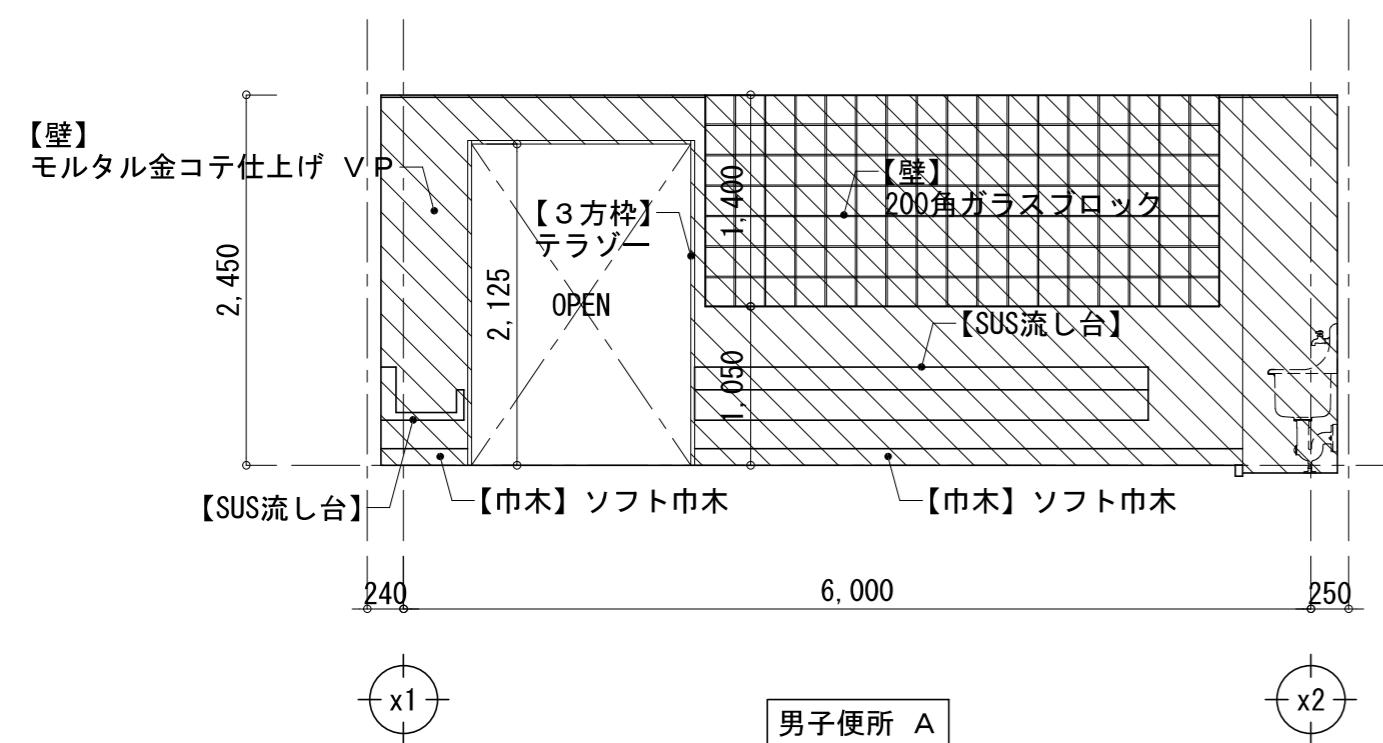
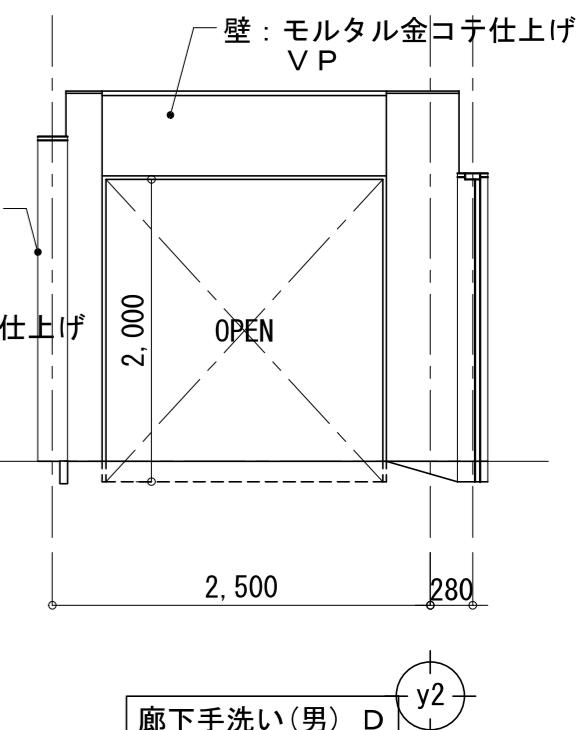
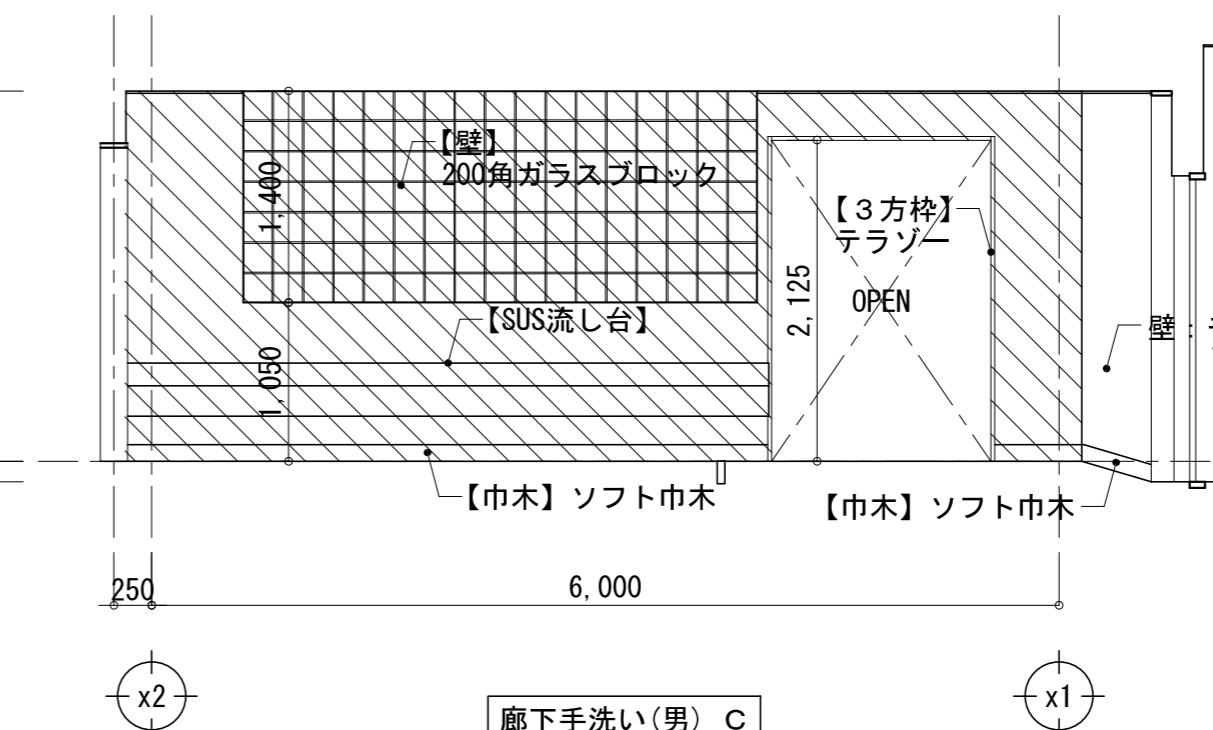
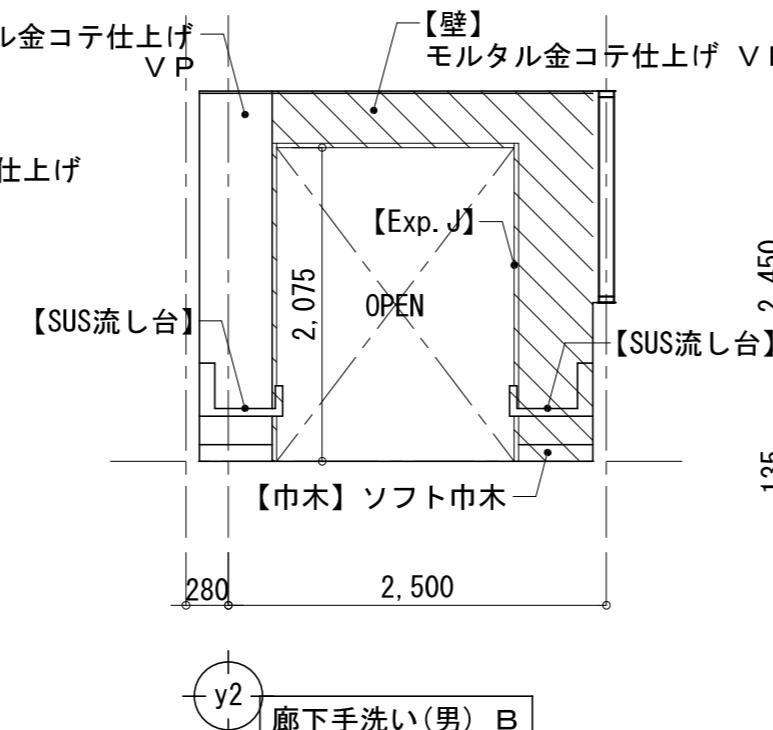
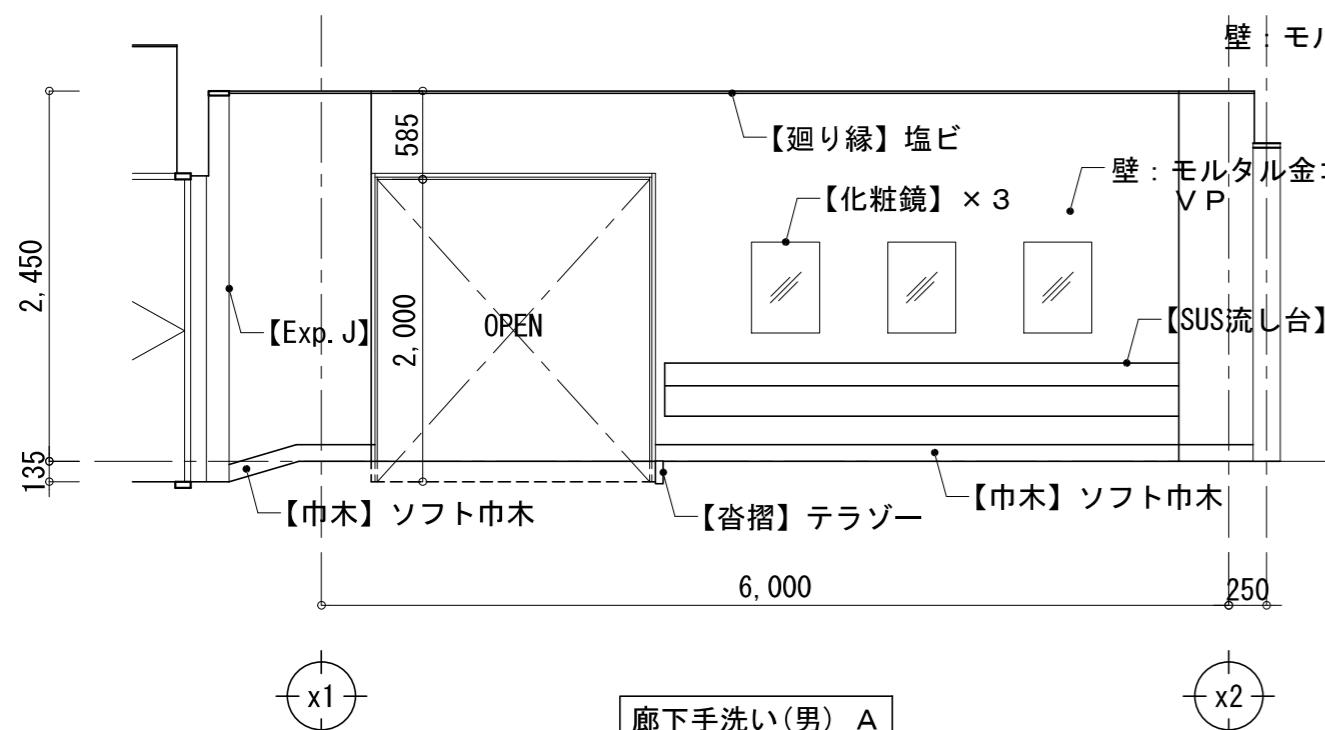
アルテック設計	一級建築士 第177266号 伊藤 公智	DRAWING BY DATA	原図: A2 【】内は撤去を示す。 《》内は新設を示す。 カッコ無しのものは既存のまます。	津市立安濃小学校長寿命化改修工事	便所棟(改修前) 1階展開図 3	A - 45
津市大谷町233番地 TEL 059-225-1602						S: 1/50



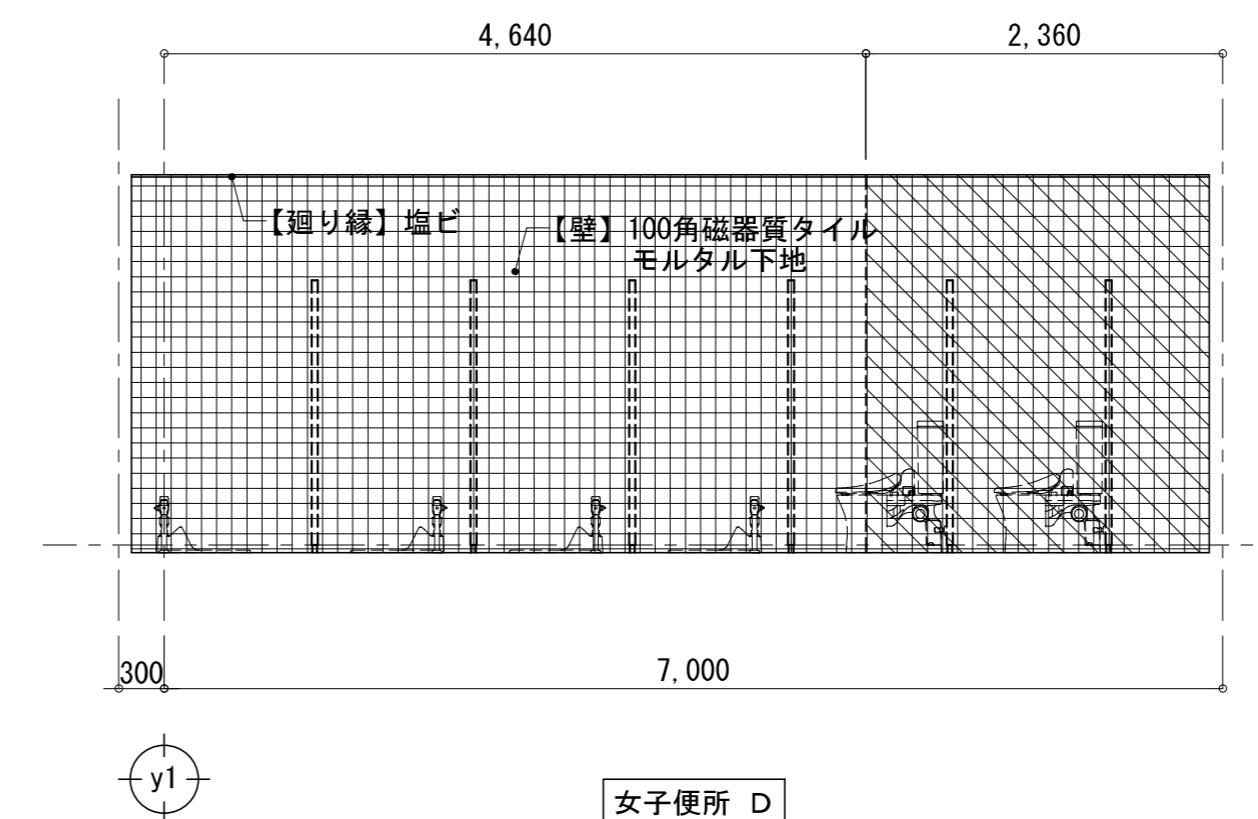
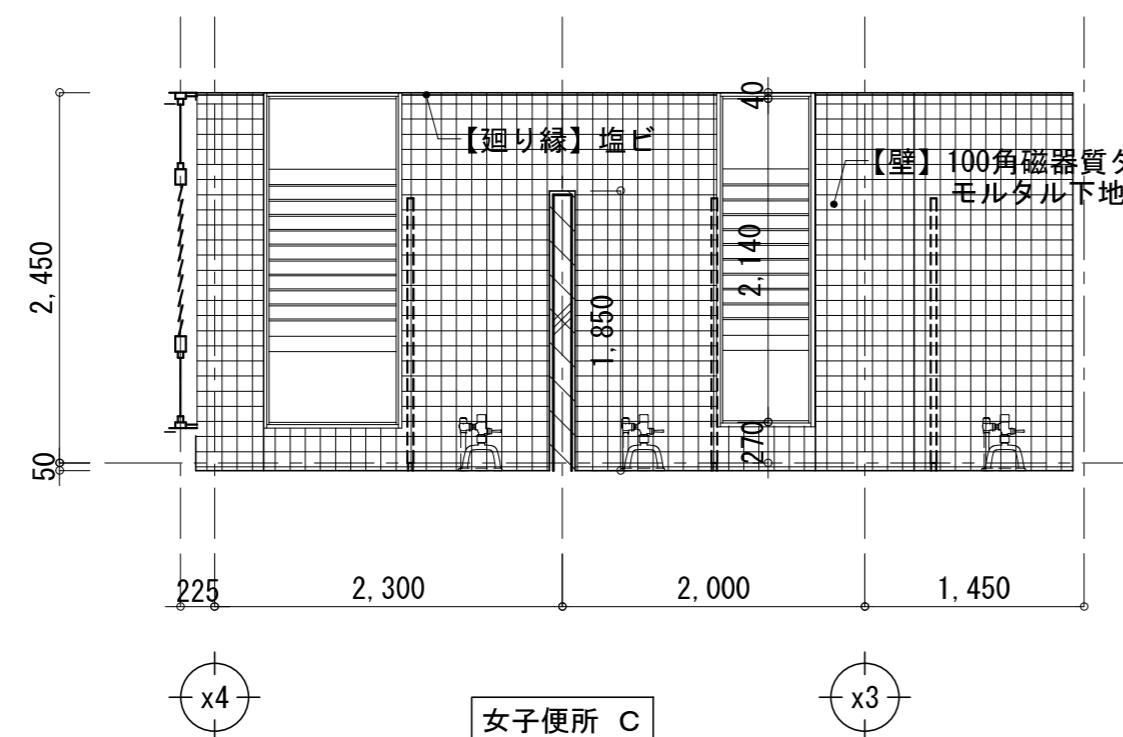
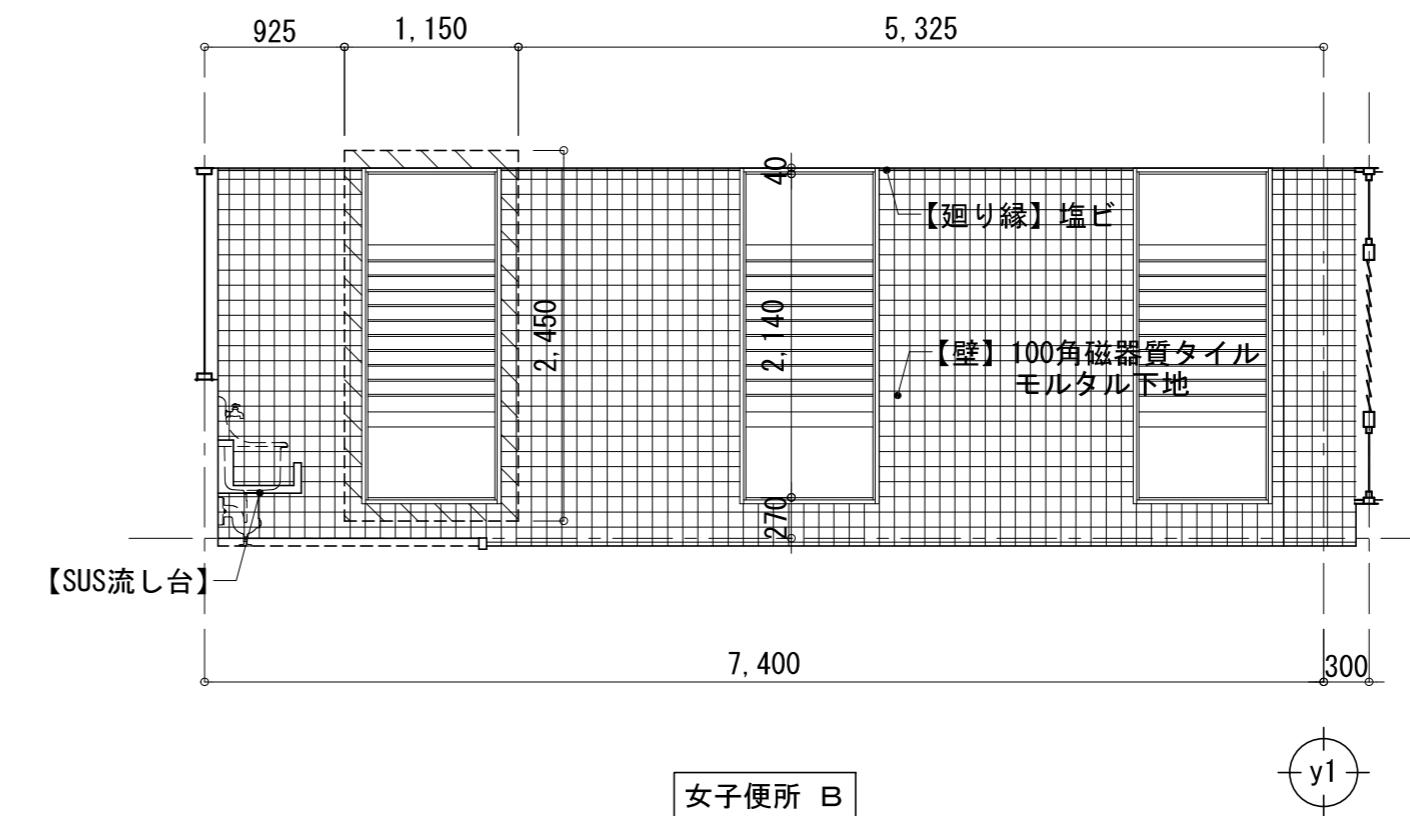
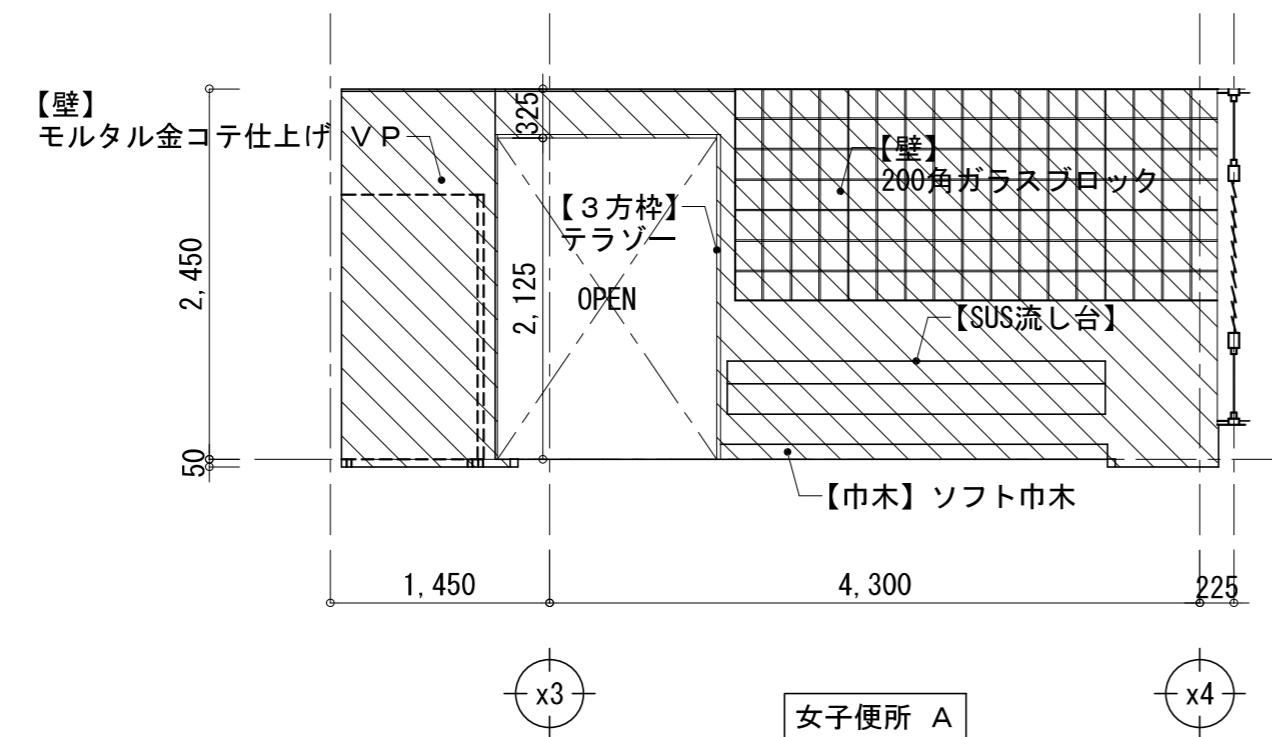
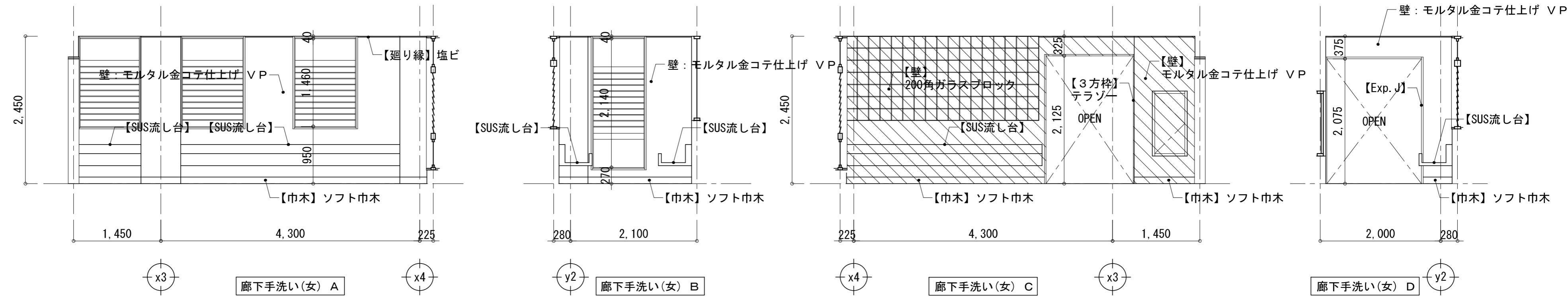




アルテック設計	一級建築士 第177266号 伊藤 公智	DRAWING BY DATA	原図: A2 【】内は撤去を示す。 《》内は新設を示す。 カッコ無しのものは既存のままする。	津市立安濃小学校長寿命改修工事	便所棟(改修後) 1階展開図 3	A - 48
津市大谷町233番地 TEL 059-225-1602						S: 1/50

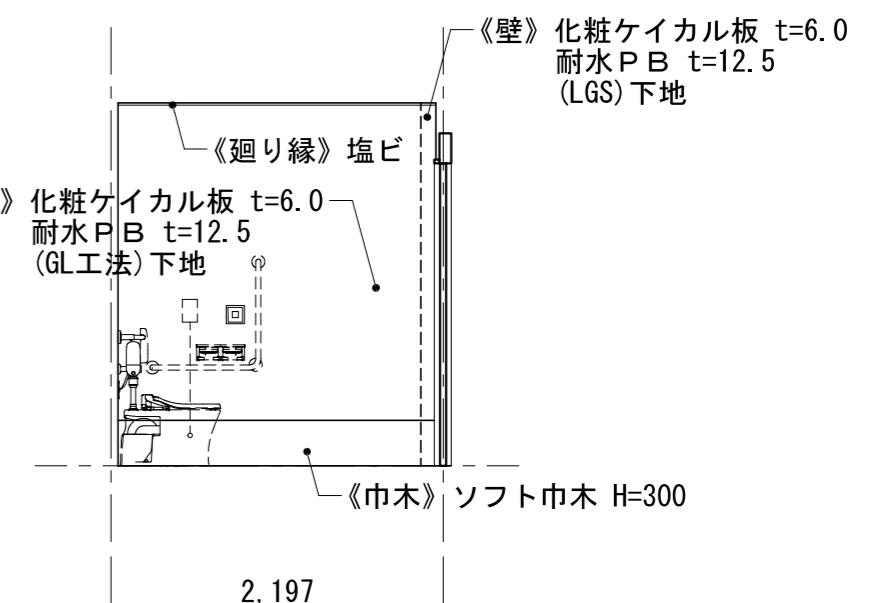
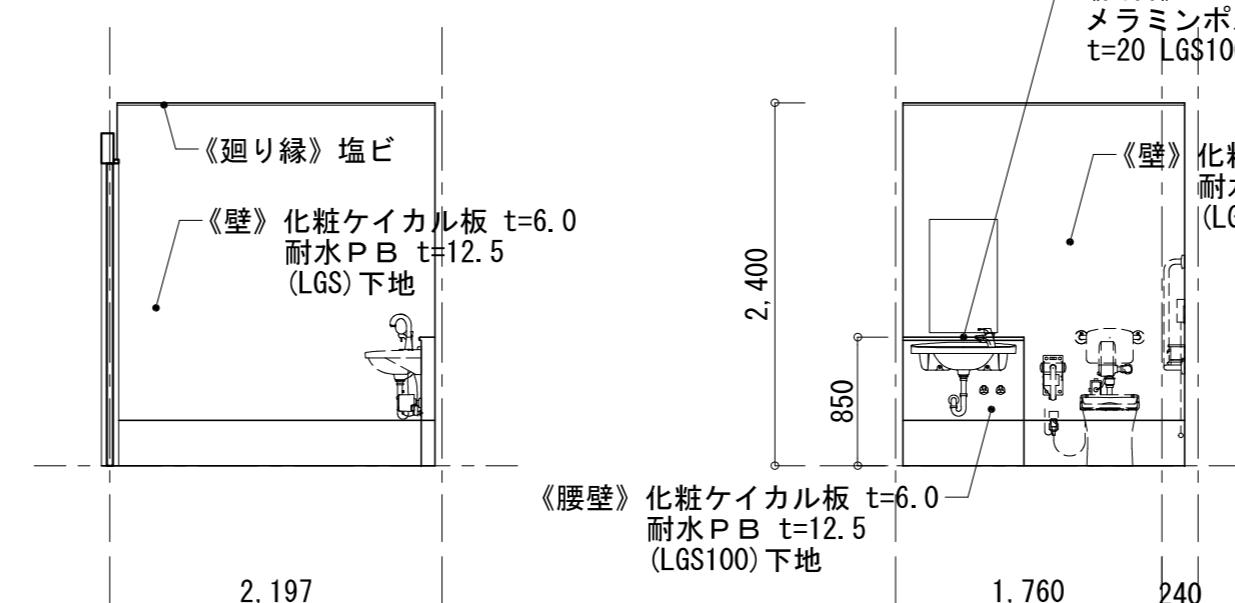
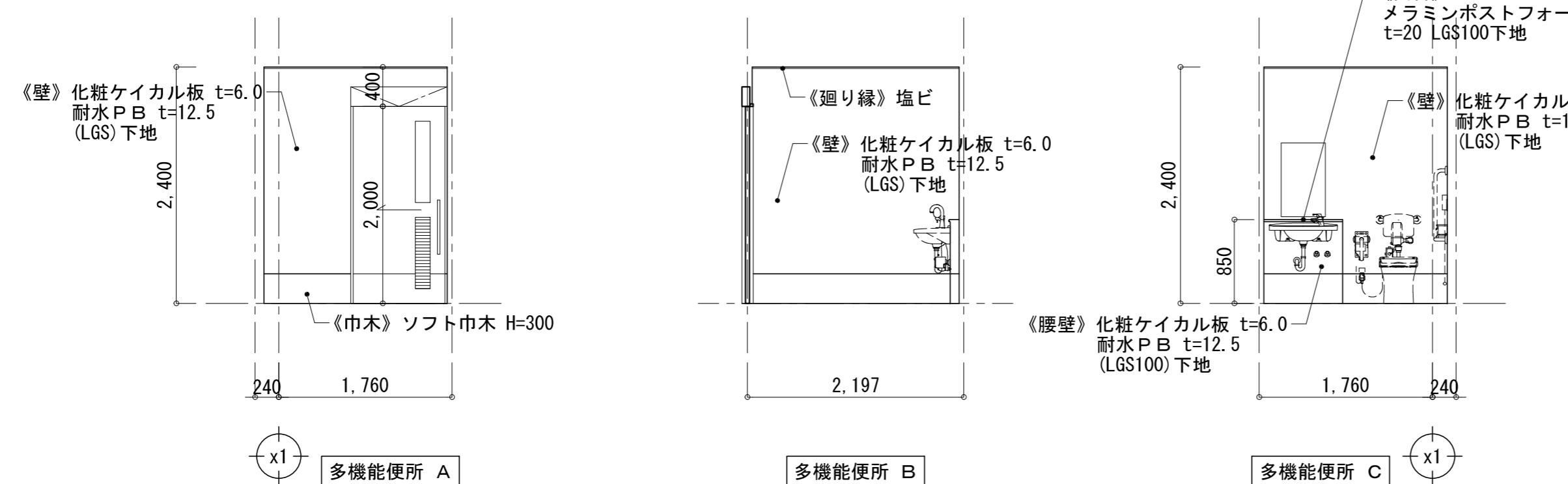
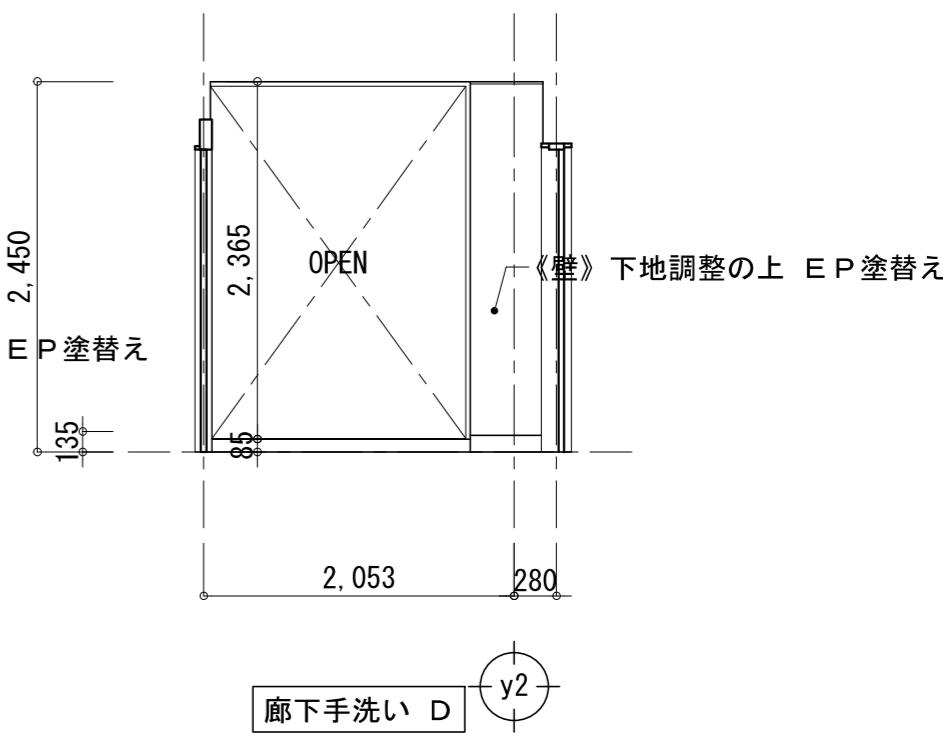
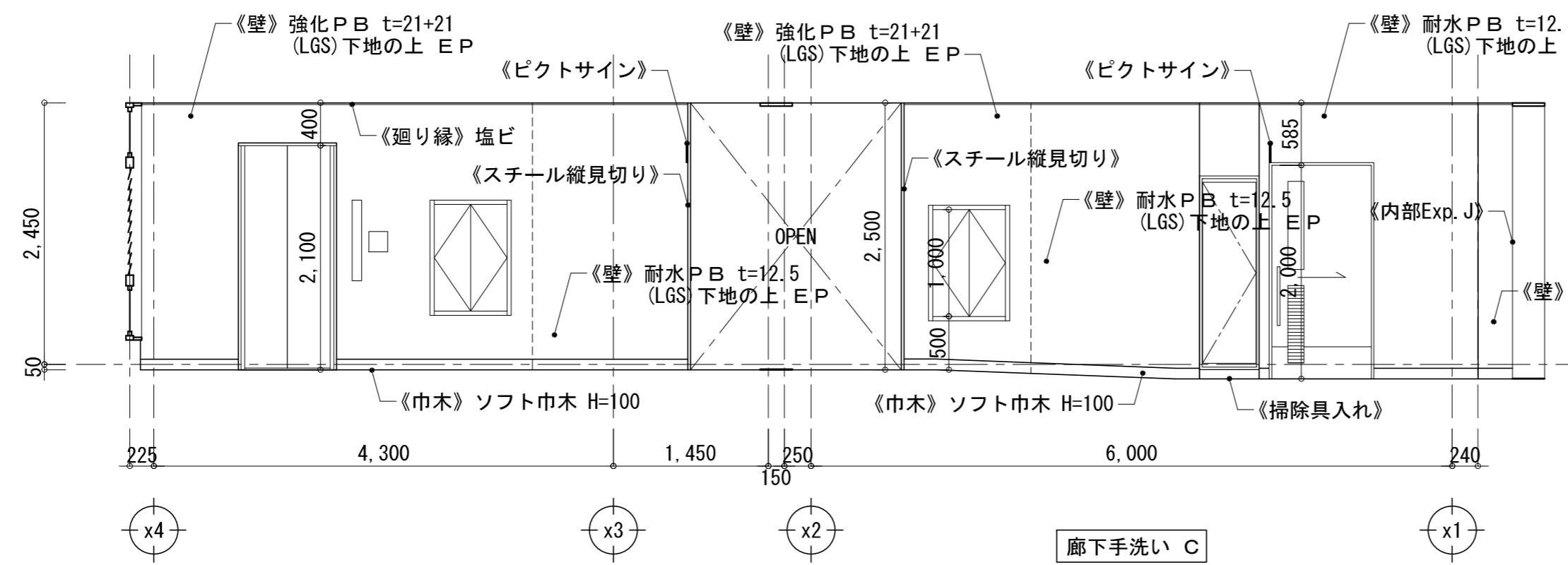
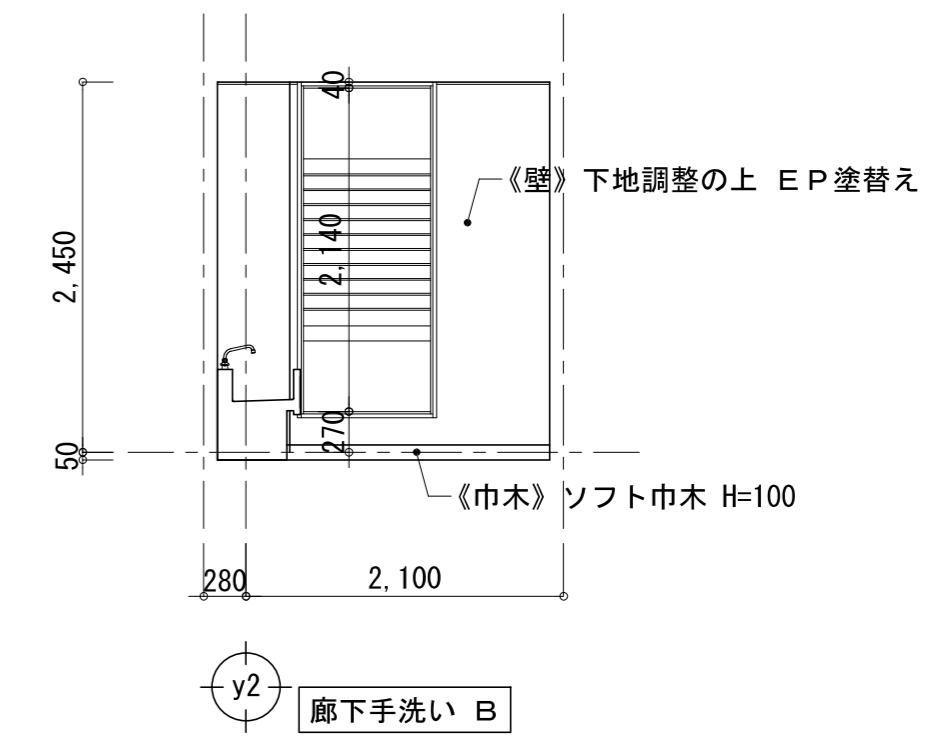
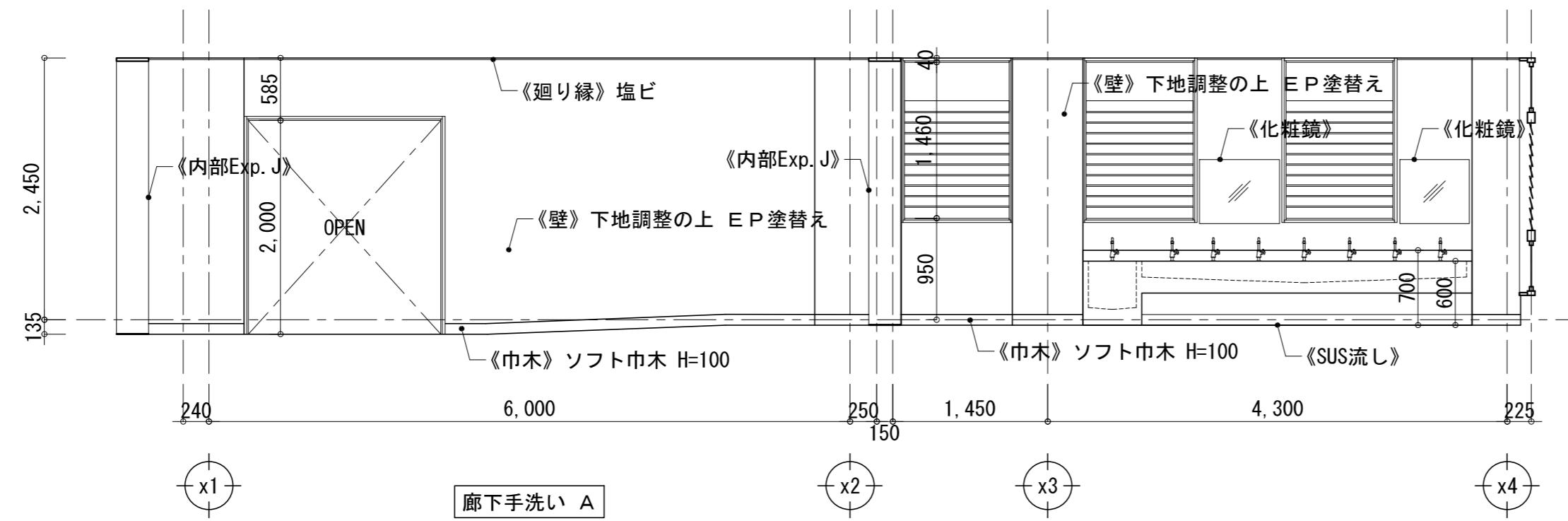


凡例 撤去範囲を示す  
周囲カッター入れ共 (R C・C B)



凡例  
 撤去範囲を示す  
 周围カッター入れ共 (R C・C B)

アルテック設計	一級建築士 第177266号 伊藤 公智	DRAWING BY DATA	原図: A2 【】内は撤去を示す。 《》内は新設を示す。 カッコ無しのものは既存のままする。	津市立安濃小学校長寿命化改修工事	便所棟(改修前) 2階展開図 2	A - 50
津市大谷町233番地 TEL 059-225-1602						S: 1/50



多機能便所 D

